corega®

Ether PCC-T

取扱説明書

PN J613-M0204-00 Rev.C 981217

使用および取り扱い上の注意

本製品を安全に使用するために、以下の事項を必ずお守りください。これらの事項が守られていない場合、感電、怪我、火災、故障などの原因になります。

分解禁止

本製品のカバーを外したり分解したりしないでください。感電や故障の原因となります。また、メディアケーブルも分解しないで下さい。

稲妻危険

稲妻が発生しているとき、本製品やケーブルの設置などの作業を行わないでください。落雷により、感電する恐れがあります。

静電気注意

本製品・メディアケーブルは、静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、コネクターの接点部分などに素手で触れないでください。

取り付け・取り外し時の注意

コンピュータの PC カードスロットに本製品を取り付ける作業は、必ずご使用のコンピュータのマニュアルを参照の上、正しく行ってください。

取り扱いは丁寧に

落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えたりしないでください。

設置、ケーブル配線、移動は電源を抜いて

本製品の設置、ケーブル配線、移動などを行う場合は、必ずコンピュータの電源ケーブルを抜いて行ってください。

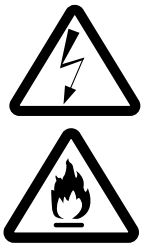
次のような場所での使用や保管はしないでください

- 直射日光の当たる場所
- 暖房器具の近くなどの高温になる場所
- 急激な温度変化のある場所 (結露するような場所)
- 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所
- 振動の激しい場所
- ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所（静電気障害の原因にもなります)
- 腐食性ガスの発生する場所
- スピーカー付近などの強磁界

動作温度と湿度

本製品は温度0～55 ℃、湿度最大95%（ただし、結露なきこと）の範囲内でご使用下さい。

お子様の手の届かないところに保管してください



異物を入れないでください

本製品の隙間から金属、液体などの異物を入れないでください。本体内部に異物が入ると火災、感電などの恐れがあります。

長期保管時は付属静電防止袋に収納してください。

本製品を長期にわたって保管する場合は、コンピュータのPCカードスロットに入れたままにしないで必ず梱包時に使用されていた静電防止袋に入れてください。

日常のお手入れ

本製品の汚れは、やわらかい乾いた布でふいてください。ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。製品の変形、変色の原因になります。

高温注意

本製品は内部に多くの部品を集積しており、使用中に高熱を発するようになります。ご使用直後はかなり高温になっておりますのでご注意ください。火傷の恐れがあります。

運搬時の注意

本製品をコンピュータのPCカードスロットに装着したままでコンピュータを運搬するときには必ず付属のメディアケーブルを外して下さい。

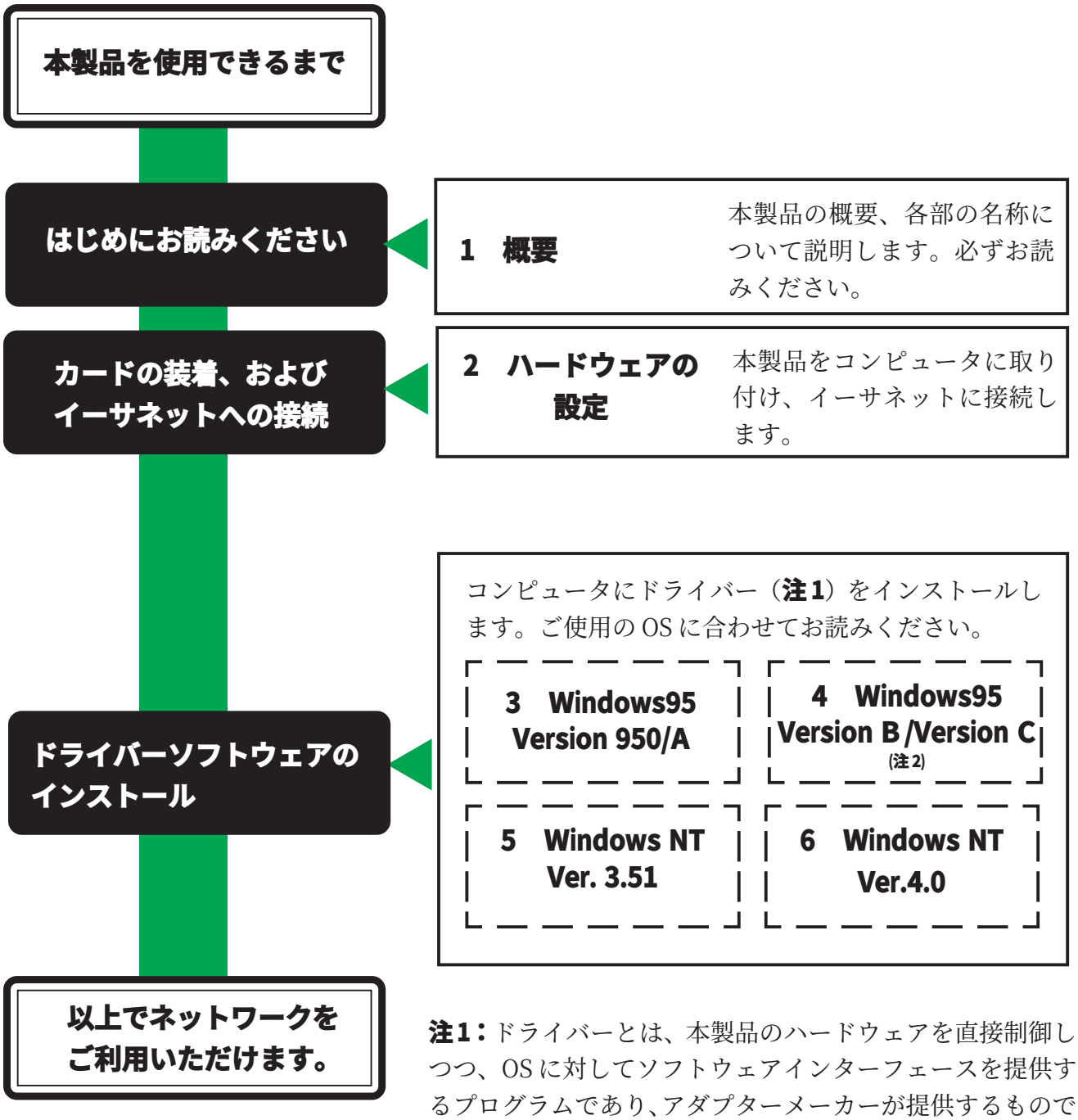
濡れたカードは使用しない

万が一カードが濡れた場合はショートによる感電・火災を防ぐため、絶対に使用しないで下さい。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスＢ情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

本マニュアルの構成

このマニュアルは、corega Ether PCC-T（以下、「本製品」と表記）の使用方法について説明するものです。このマニュアルは以下のような構成になっています。

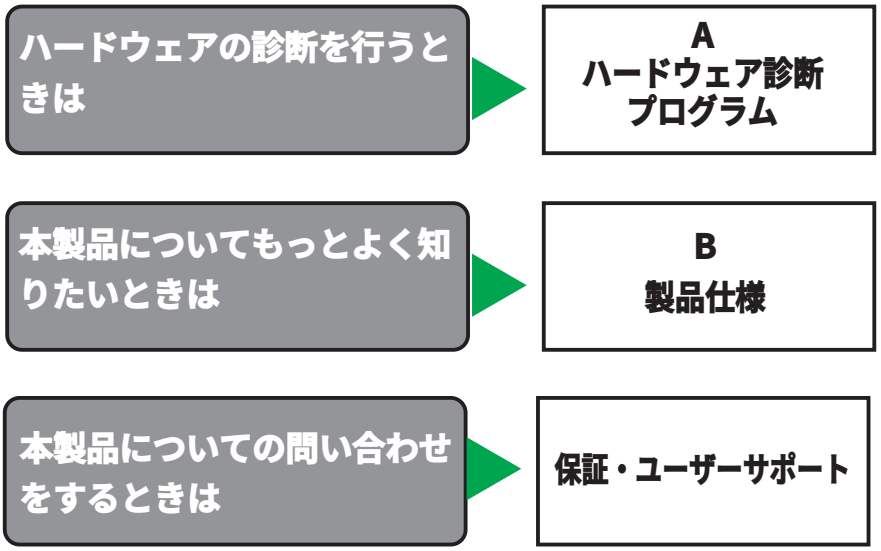


注1：ドライバーとは、本製品のハードウェアを直接制御しつつ、OS に対してソフトウェアインターフェースを提供するプログラムであり、アダプターメーカーが提供するものです。

注2：Windows95 Version B および Version C は OSR2（=OEM Service Release 2）とも呼ばれています。

付録について

巻末に付録として以下の3章を設けています。必要に応じてお読みください。



表記について

本マニュアルでは、各用語を以下の意味で使用しています。

Version 950	Windows95 Ver.4.00.950
Version A	Windows95 Ver.4.00.950a
Version B	Windows95 Ver.4.00.950 B このバージョンは 「Version B」「OSR2（= OEM Service Release 2）」「Type B」などの呼称が存在しますが、本書では"Version B"に統一します。
Version C	Windows95 Ver.4.00.950 C このバージョンは 「Version C」「OSR2.5（= OEM Service Release 2.5）」「Type C」などの呼称が存在しますが、本書では"Version C"に統一します。

目次

本マニュアルの構成 4

付録について 5

表記について 5

1　概要 11
1.1　特長 11
1.2　使用環境 11
1.2.1　対応コンピュータ機種 11
1.2.2　対応OS 11
1.3　各部の名称 12
1.3.1　外観図 12
1.3.2　各部の説明 13
1.4　製品裏面のラベルについて 14

2　ハードウェアの設定 15
2.1　メディアケーブルの接続 15
2.1.1　メディアケーブルの装着 15
2.1.2　メディアケーブルを取り外す 15
2.2　スロットへの取り付け・取り外し 16
2.2.1　PCカードスロットへの取り付け 16
2.2.2　取り外し 16
2.3　活線挿抜について（重要） 17
2.3.1　ご注意 17
2.3.2　活線挿抜1 - カードの挿入（Windows95） 18
2.3.3　活線挿抜2 - カードの取り外し（Windows95） 19
2.4　ネットワークに接続する 20
2.4.1　接続手順 20
2.4.2　リンクの確認 21
2.4.3　通信ができない場合～ネットワークの確認 21

3　Windows95 Version 950/A 22
3.1　準備と確認 22

3.2　PCMCIAコントローラの有効化 23
3.3　ドライバーのインストール 26
3.4　アダプターの設定 29
3.4.1　デバイスマネージャによる確認 29
3.4.2　PCカード（PCMCIA）による確認 30
3.4.3　リソースの確認 31
3.4.4　ネットワークの設定 31
3.5　ドライバーの削除と再インストール 32
3.5.1　ドライバーの削除 32
3.5.2　再インストール 33
3.6　トラブルシューティング 34
3.6.1　正常にインストールできない 34
3.6.2　PCMCIAコントローラが正しく表示されない 35
3.6.3　リソース値重複の回避 36
3.6.4　その他 36

4　Windows95 Version B/Version C 37
4.1　準備と確認 37
4.2　PCMCIAコントローラの有効化 38
4.3　ドライバーのインストール 41
4.4　アダプターの設定 44
4.4.1　デバイスマネージャによる確認 44
4.4.2　PCカード（PCMCIA） 46
4.4.3　リソースの確認 46
4.4.4　ネットワークの設定 47
4.5　ドライバーの削除と再インストール 48
4.5.1　ドライバーの削除 48
4.5.2　再インストール 51
4.6　トラブルシューティング 52
4.6.1　正常にインストールできない 52
4.6.2　アイコンに「×」マークが付いている 53
4.6.3　PCMCIAコントローラが正しく表示されない 54
4.6.4　リソース値重複の回避 55
4.6.5　その他 55

5　Windows NT Ver. 3.51 56

5.1　準備と確認 56
5.2　ドライバーのインストール 57
5.2.1　準備 57
5.2.2　リソースの確認 58
5.2.2.1　概要 58
5.2.2.2　リソースの値 58
5.2.2.3　Windows NT診断プログラムの使用方法 59
5.3　ドライバーのインストール 61
5.4　インストール後 73
5.4.1　リソースの確認 73
5.4.2　本製品を使用しないとき 74
5.5　ドライバーの削除と再インストール 75
5.5.1　ドライバーの削除 75
5.5.2　再インストール 76

6　Windows NT Ver. 4.0 77
6.1　準備と確認 77
6.2　ドライバーのインストール 78
6.2.1　準備 78
6.2.2　リソースの確認 79
6.2.2.1　概要 79
6.2.2.2　リソースの値 79
6.2.2.3　Windows NT診断プログラムの使用方法 80
6.3　ドライバーのインストール 82
6.4　インストール後 92
6.4.1　リソースの確認 92
6.4.2　本製品を使用しないとき 92
6.5　ドライバーの削除と再インストール 93
6.5.1　ドライバーの削除 93
6.5.2　再インストール 94

付録A　ハードウェア診断プログラム 95
A.1　概要 95
A.2　テストの手順（Windows95） 96
A.3　テストの手順（Windows NT） 97
A.3.1　Windows NTにおける特記事項 97

A.3.2　使用手順 97
A.4　コマンドオプション 98
A.5　エラーメッセージ一覧 99
A.6　診断結果 101

付録B　製品仕様 104
A.B　規格仕様 104
1.　ハードウェア仕様 104
2.　機械的仕様 104
3.　電気的仕様 104
4.　環境条件 104
5.　電気雑音の発生防止 104
6.　ネットワーク機能 104
B.2　10BASE-Tインターフェース 105
B.3　MACアドレス 105

付録C　ネットワークの設定 106
C.1　ピアツーピア接続をするための設定方法 106
■「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認 106
C.1.1　「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加 107
C.1.2　ユーザー情報の確認 108
C.1.3　パソコンのディスク共有設定 109
C.1.4　他のパソコンへの接続 110
C.2　「Microsoftネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法 112
C.2.1　「Microsoftネットワーククライアント」の追加方法 112
C.2.2　「NetBEUI」の追加方法 113
C.3　Windows95の共有設定画面 115
C.4　Windows95のユーザー名とパスワード 116
C.5　Windows95のユーザー情報画面 117

付録D　Windows95/98で 使用する場合の注意事項について 118
保証について 120
ユーザーサポート 120
corega Net-Newsの購読について 120
調査依頼書のご記入のお願い 121

ハードウェアとソフトウェア 121
お問い合わせ内容について 121
ネットワーク構成について 121
システムレポート添付のお願い 122
1. Windows95 122
2. Windows NT Ver.3.51 122
3. Windows NT Ver.4.0 122
システムレポートの出力例（Windows95の場合） 123

調査依頼書(corega Ether PCC-T 1/2) 124

調査依頼書(corega Ether PCC-T 2/2) 125

おことわり 126

1　概要

1.1　特長

本製品は以下の特長をもつPCカード型ネットワークアダプターです。

◆PC Card Standard (PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2）Type Ⅱ に対応
◆Type Ⅱ PCカードスロットをもつAT互換機/NEC PC98-NX、PC-9800/PC-9821に対応
◆10M Ethernet（10BASE-T)に対応
◆接続アダプターが付属（RJ-45型10BASE-Tコネクター（メス）を提供）
◆動作状態を表示する2個のLEDがカード本体に付属

1.2　使用環境

1.2.1　対応コンピュータ機種

本製品は PC Card Standard (PCMCIA Rel.2.1 / JEIDA Ver.4.2）Type Ⅱ対応PCカードスロットを持つ以下のコンピュータ機種に対応しています。本製品には、2種類のドライバーディスクが付属していますので、コンピュータ機種に応じてご使用ください。

＊NEC PC-9800、PC-9821
＊AT互換機、NEC PC98-NX

1.2.2　対応OS

本製品は以下のOSに対応しています。

＊Microsoft Windows95
＊Microsoft Windows NT Ver.3.51
＊Microsoft Windows NT Ver.4.0

省電力モード（パワーマネージメント機能、サスペンドレジューム機能）には対応しておりません。すべての設定を無効にしてご使用ください。

1.3　各部の名称

1.3.1　外観図

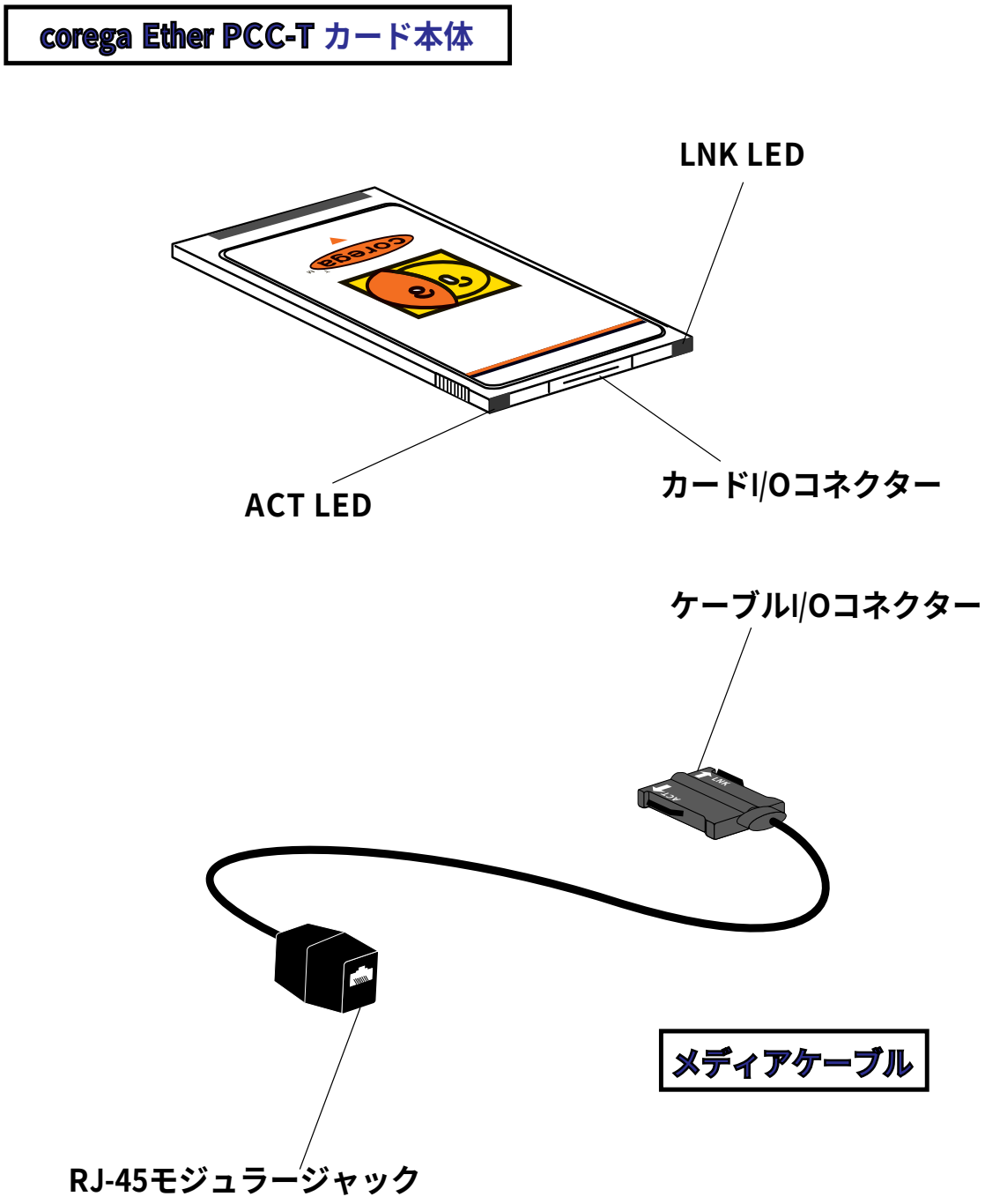


図 1.1　本製品外観図

1.3.2　各部の説明

1.　カード本体

コンピュータのPCカードスロットに挿入し、ネットワークアダプターの機能を提供します。

1-1.　カード I/O コネクター

「2-4 ケーブルI/Oコネクター」を接続します。

2.　メディアケーブル

本製品とネットワークを接続します。

2-1.　ACT（ACTIVITY）LED（左）

パケットの送受信が行われると黄色で点灯します。

2-2.　LNK（LINK）LED（右）

対向機器と正常にリンクが確立されると緑色で点灯します。

2-3.　RJ-45 モジュラージャック

ネットワークケーブルのモジュラープラグを挿し込みます。

2-4.　ケーブル I/O コネクター

「1-1.　カードI/Oコネクター」に接続します。白矢印のある面を上にして接続してください。上下の面を逆にすると装着できないようになっていますので、挿してみて抵抗を感じるようでしたら、絶対に無理に押し込まないでください。破損の原因になります。

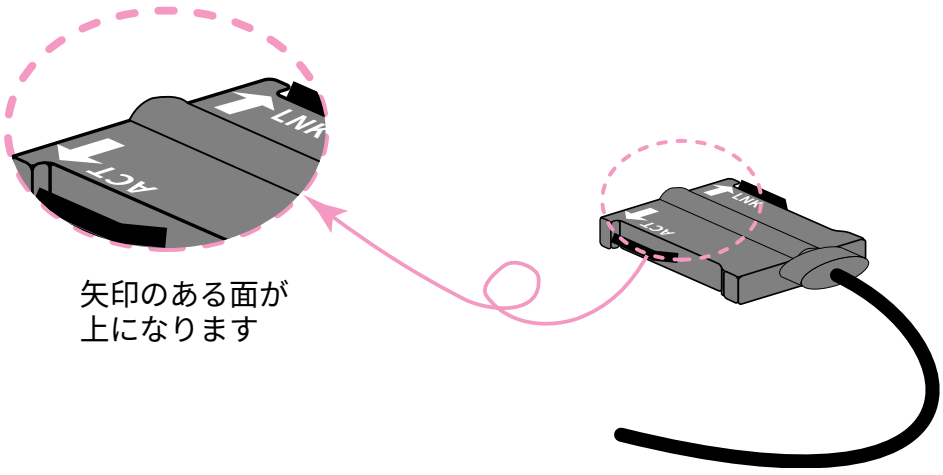


図 1.2　ケーブル I/O コネクター

1.4　製品裏面のラベルについて

本製品の裏面にはラベルが3枚貼付されています。
各ラベルの内容は以下の通りです。

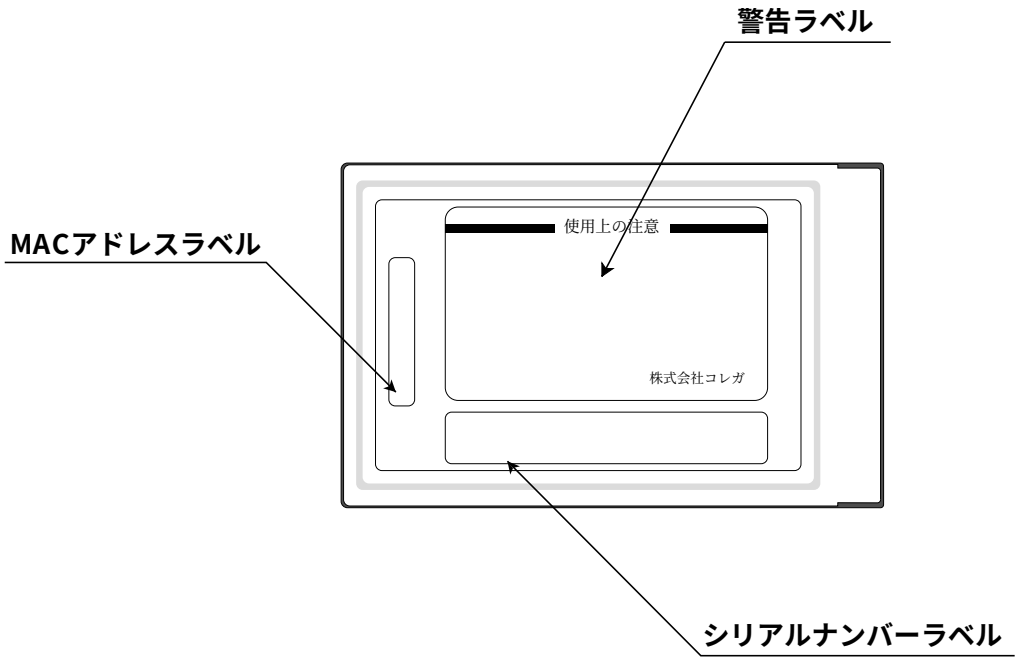


図 1.3　本製品裏面

1　警告ラベル

本製品を安全にご使用いただくために重要な情報が記されています。必ずお読みください。

2　MACアドレスラベル

各アダプターに固有のMACアドレスが記入されています。MACアドレスについては付録「B.3　MACアドレス」をご覧ください。

3　シリアルナンバーラベル

本製品のシリアルナンバー（製造番号）が記入されています。パッケージ（外箱）の側面に貼付されているラベルや同梱のシリアルナンバーラベル（3枚）と同じものです。

（本製品に同梱されているシリアルナンバーラベルは「ユーザー登録用紙」と「製品保証書」（本取扱説明書巻末）に貼付してください。残る1枚は予備です。）

2　ハードウェアの設定

2.1　メディアケーブルの接続

2.1.1　メディアケーブルの装着

下図のように、メディアケーブルのケーブルI/Oコネクターを白矢印のある面を上にして、コネクター両側にある爪を押さえながらカードI/Oコネクターに「カチッ」と音がするまで挿し込んで下さい。挿し込んだらメディアケーブルを軽く引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

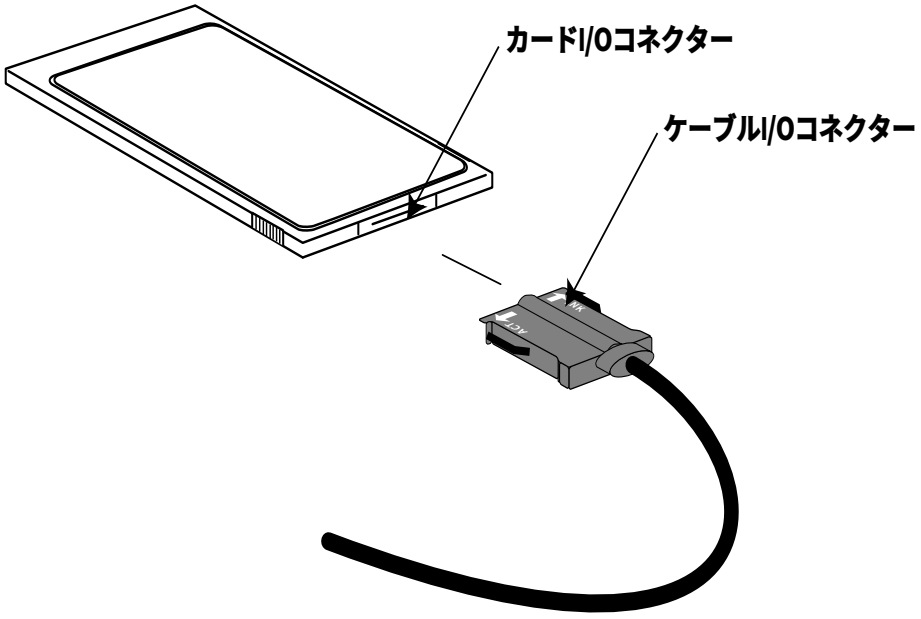


図 2.1　メディアケーブルの装着

2.1.2　メディアケーブルを取り外す

メディアケーブルをカード本体から取り外すときはケーブルI/Oコネクター両側の爪の部分を親指と人差し指で摘みながら引いてください。

ケーブルI/Oコネクターに無理な力をかけて引き抜くことは絶対におやめ下さい。カードとコネクター双方が破損する恐れがあります。

2.2　スロットへの取り付け・取り外し

ここでは、本製品のPCカードスロットへの取り付けおよび取り外しの手順を、コンピュータの電源を入れないで行うという前提で説明します。コンピュータの電源を入れたままでカードの抜き挿しをする場合は「2.3　活線挿抜について」を先にお読み下さい（ただし、Windows NTでは活線挿抜はできません）。

2.2.1　PCカードスロットへの取り付け

(1)　"corega Ether PCC-T"の文字が印刷された面を上にして†コンピュータのPC カードスロットに挿入してください。PC カード取り付けについての詳細は、ご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

†コンピュータの機種によっては下に向けて装着するものもあります。

(2)　本製品をカチッと手応えがあるまで押し込んでください。

2.2.2　取り外し

コンピュータの取り外しボタンを押すと、本製品はPCカードスロットから外れ、手で取り出せる状態になります。

メディアケーブルを引っ張ってカードを引き抜くことは絶対におやめください。本製品・ケーブルの故障の原因となります。

2.3　活線挿抜について（重要）

2.3.1　ご注意

本製品の抜き挿しをコンピュータの電源が入ったままで行う（活線挿抜する）場合は以下の点に特にご注意下さい。これらの点をお守りいただかないで起こった障害に関してはユーザーサポートの対象外とさせていただきます。

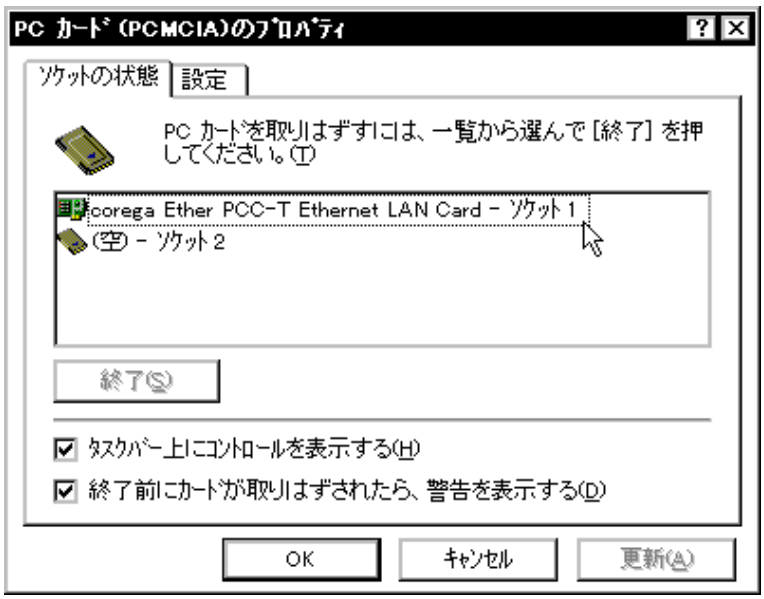
ただし、活線挿抜できるのはWindows95をご使用の場合のみです。Windows NT では活線挿抜はできません。Windows NTをご使用の場合は絶対に活線挿抜でなく、コンピュータの電源を切った状態で本製品の抜き挿しを行って下さい。

（Windows95の場合）必ず本書に記載した手順にしたがってください
活線挿抜を行うにはいくつかの注意点があり、注意を怠るとコンピュータのハングアップや、Windows95ファイルの破壊を招くおそれがあります。本製品の抜き挿しを行う際は2.3.2～2.3.3項を熟読の上、慎重に行ってください。

パケットの送受信が行われていないことをご確認ください
パケットの送信または受信が行われている最中にカードを抜くことは絶対におやめ下さい。コンピュータに悪影響を及ぼすおそれがあります。
パケットの送受信は ACT LED（カード本体に装備）の点灯で判断できます。

2.3.2　活線挿抜1 - カードの挿入（Windows95）

コンピュータの電源が入った状態で本製品をＰＣカードスロットに挿入するとWindows95はPlug & Play機能により本製品を検出し、「ソケットの状態」（「コントロールパネル」→「ＰＣカード（ＰＣＭＣＩＡ）」→「ソケットの状態」）に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」の名前を表示します†。



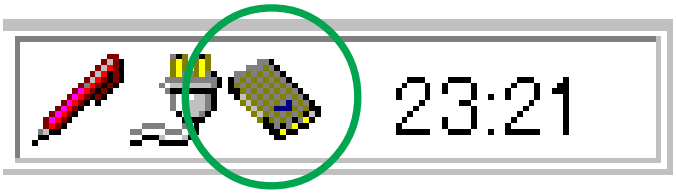
画面 3.1　ソケットの状態

† この段階でまだPCMCIAコントローラの有効化が行われていない場合はカードをスロットに挿入しても何も表示されません。また、PCMCIA コントローラの有効化ののち、初めて本製品を挿入したときは（＝本製品用のドライバーのインストールが行われていない場合）はドライバーのインストールが開始されます。詳細は第 3 部および第 4 部をご覧ください。

2.3.3　活線挿抜2 - カードの取り外し（Windows95）

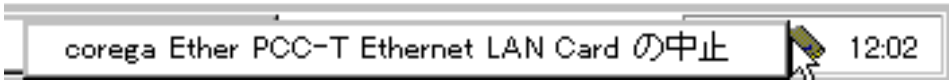
コンピュータの電源が入っているときに本製品をPCカードスロットから抜くと、実行中のアプリケーションの動作に支障をきたすおそれがありますので、安全のために必ず以下の操作を行ってからカードを抜いて下さい。

1. タスクバー（スクリーン右下）の PC カードアイコンをクリックします。



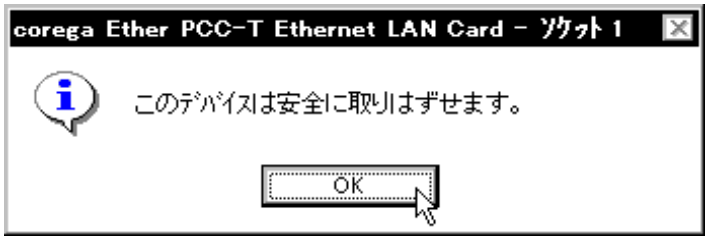
画面 3.2　PC カードアイコン

2. 「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card の中止」バーが表示されたらバーをクリックしてください。



画面 3.3

3. 「OK」をクリックしてください。



画面 3.4

4. 「2.2　スロットへの取り付け・取り外し」項にしたがって、カードを取り外します。

2.4　ネットワークに接続する

2.4.1　接続手順

ここでは例として、本製品をハブと接続する場合について説明します (下図参照)。

(1)　ネットワークケーブルのモジュラープラグをメディアケーブルのモジュラージャックに、カチッと音がするまで挿し込んで下さい。

※モジュラープラグを挿入または外すときにはプラグの爪を親指で押さえながら行います。

(2)　ネットワークケーブルを引っ張ってみて抜けないことを確認してください。

(3)　ネットワークケーブルのもう一方のモジュラープラグをハブのモジュラージャック(PORTと表記されている場合もあります)に差し込んで下さい。

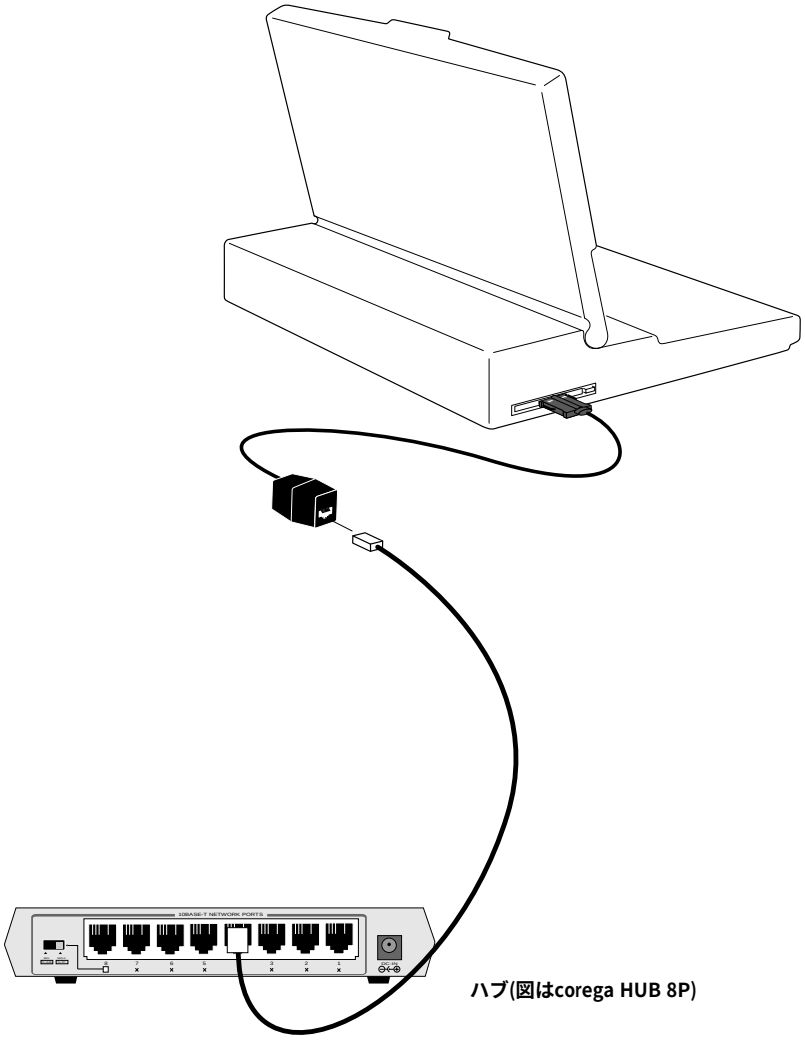


図 4.1　ネットワークへの接続

2.4.2　リンクの確認

最後に、ハブとコンピュータの両方に電源を投入し、本製品のLNK LEDとハブのLINK OK LEDの両方が点灯することを確認します。点灯が確認できれば、ネットワークへの接続は正常に完了しています。

どちらか一方しか点灯していない、または両方が消灯している場合は本製品とハブは正しくリンクしていません。その場合はネットワークケーブルの断線やケーブルの配線ミス、使用ケーブルの誤りなどが考えられますので、次の2.4.3項を参照の上、処置を施してください。

ご使用の状態によっては大変熱くなります
本製品は内部に高度に集積した構造を持っていますので、ご使用中に高熱を発することがありますが、異常ではありませんので安心してご使用下さい。

2.4.3　通信ができない場合～ネットワークの確認

PCMCIAコントローラや本製品のドライバーが正しくインストールされているにも関わらず通信ができない場合は次のような原因が考えられます。（ドライバーのインストールについては第3部以降をご覧ください。）

1.使用するプロトコル、クライアントなどの設定が適切でありません。
「コントロールパネル」の「ネットワーク」で正しく設定してください。

2.ケーブルがきちんと接続されていません。
ご使用の10BASE-Tケーブルがしっかり接続されていない、または断線している、あるいは適切なものを使用していない、などの原因が考えられます。ケーブル類の接続をし直す、ケーブル類を交換してみる、ハブのポートを入れ替えてみるなどの処置を行ってみてください。

ハブと本製品が物理的に正しく接続されていれば、ハブと本製品のリンクランプ（LNK）が両方とも点灯します。また、ネットワークのパケットを受信したとき、本製品のACTランプが点灯します。

（注）リンクランプを持たないハブもあります。また、リンクランプが別の名前で呼ばれていることがあります。

ンストールする手順を説明します。

■バージョンをご確認下さい

初めに、ご使用のWindows95のバージョンを「システム」（コントロールパネル）で確認します。「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「情報」と進み、「システム：」の番号が "**4.00.950**" であれば **Version950**、"**4.00.950a**" であれば **Version A**です。
" **4.00.950 B**"の場合は **Version B（OSR2）**、" **4.00.950 C**"の場合は **Version C（OSR2.5）**です。この場合は第4部をご覧ください。

画面 1.1　Windows95 のバージョン表示　（Version A の場合）

3.1　準備と確認

インストールを始める前に、以下のものをご用意下さい。

1. **corega Ether PCC-T カード本体**
   他のハードウェア（メディアケーブルなど）はインストールの段階では特に必要ではありません。
2. **コンピュータ**（Windows95 Version950/A インストール済み）
3. **Windows95 の供給ディスク**（CD-ROM またはフロッピーディスク）
4. **corega Ether PCC-T ドライバーディスク**（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）

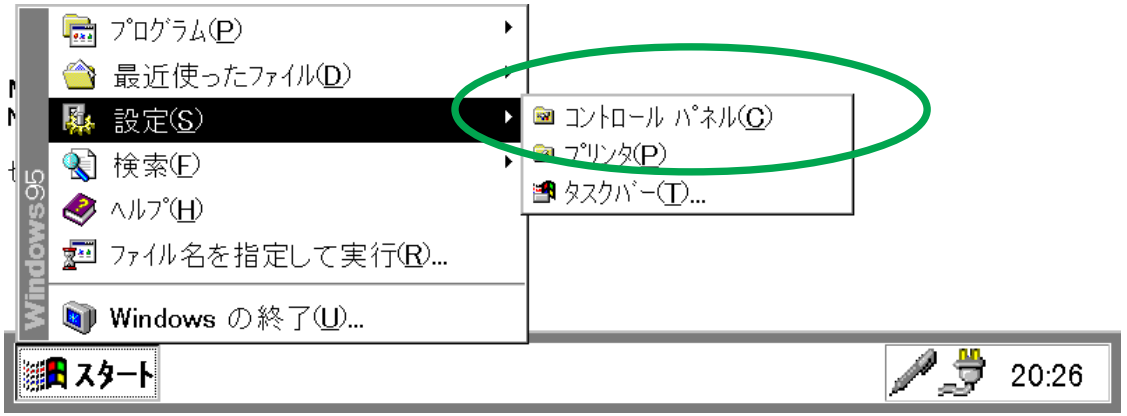
重要：ご使用のコンピュータのOSがプリインストール版であり、バックアップCD-ROMをお持ちでない場合は、必ずフロッピーディスクにバック

時点では、まだ本製品をPCカードスロットに取り付けないでください。

† この手順はPCカードを初めて使用する際に１回だけ実行します。本製品を使用するたびに実行する必要はありません。

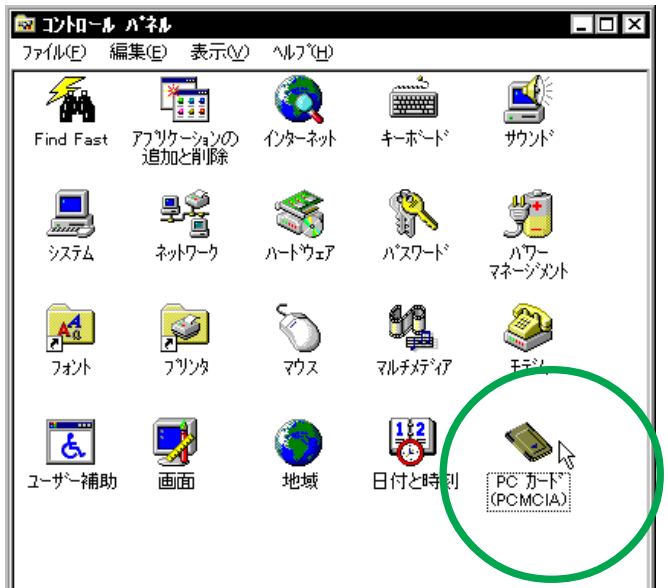
(1) コンピュータに電源を投入し、Windows95 を起動します。

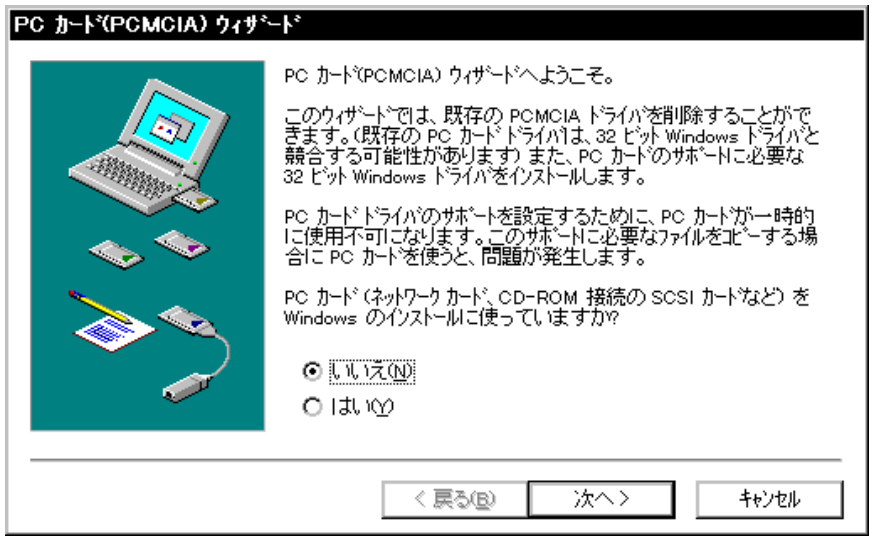
(2) 「スタート」をクリックし、「設定(S)」から「コントロールパネル(C)」を選択します。



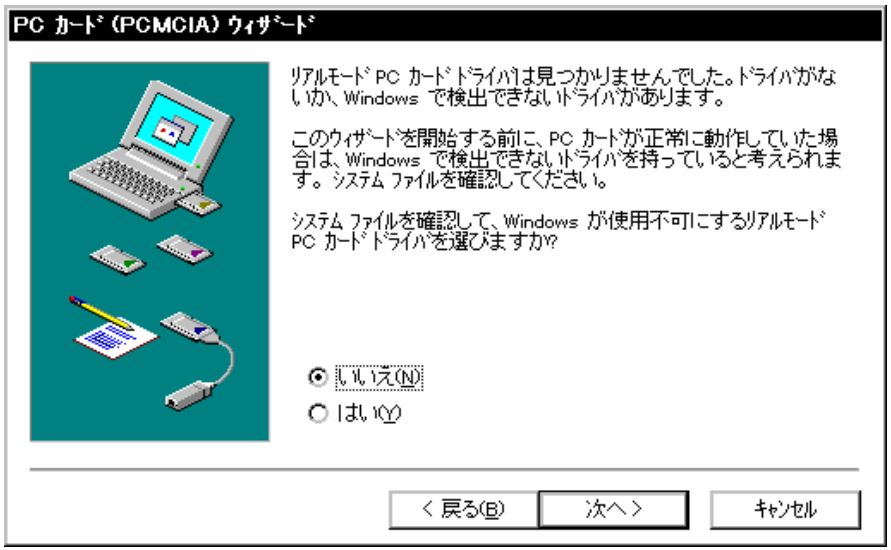
画面 2.1　コントロールパネルの選択（デスクトップ）

(3) 「PC カード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックします。





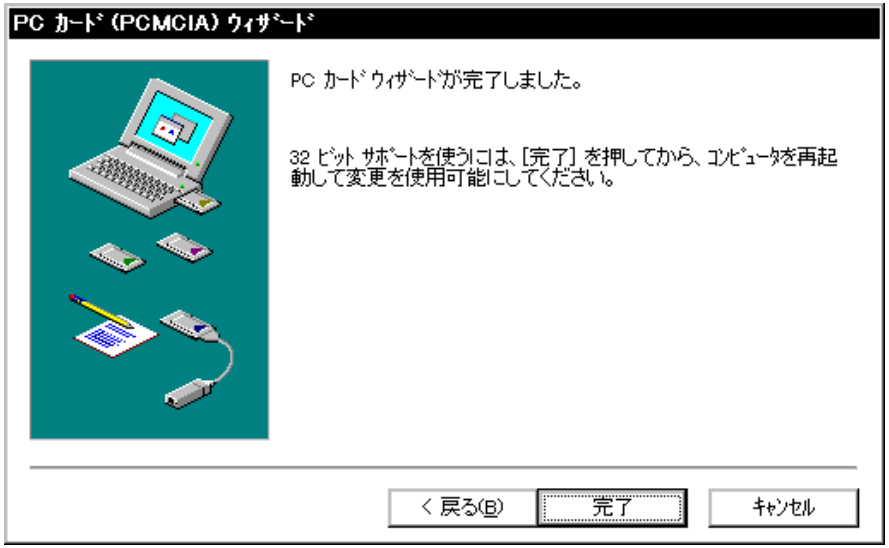
画面 2.3



画面 2.4

以前にこの手順を実行したことがあればこのパネルは表示されず、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」（3.4.2項参照）が表示されます。また、プリインストール版Windows95をご使用の場合も、同様に「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」が表示されることがあります。この場合は「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」を閉じ、「3.3　ドライバーのインストール」に進んでください。

メントアウトされます。



画面 2.5　PC カード（PCMCIA）ウィザードの完了

(6)　次のダイアログが表示されますので、「はい（Y）」をクリックしてください。Windows95 が終了したら、コンピュータの電源を切ります。

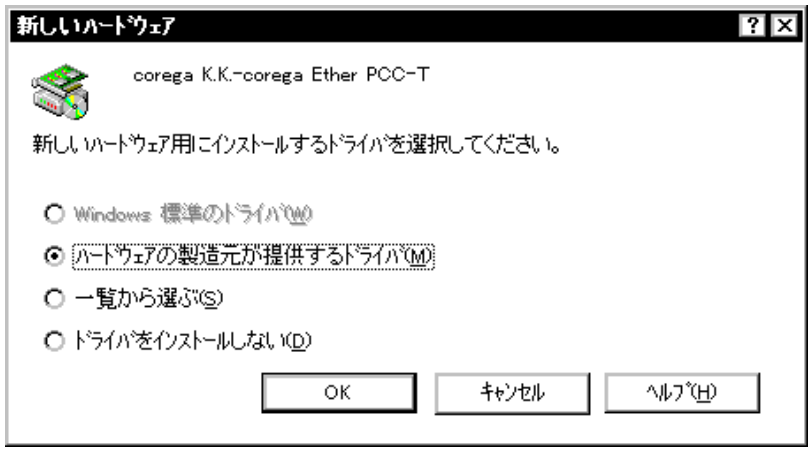
画面 2.6 「システム設定の変更」ダイアログ

以上でPCカードを使用する準備は整いました。引き続き、「3.3 ドライバーのインストール」へお進みください。

挿入の手順については「2 ハードウェアの設定」およびご使用のコンピュータのマニュアルを参照してください。

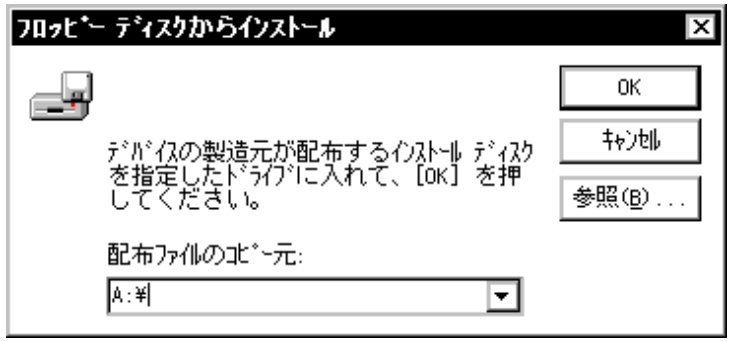
2. コンピュータの電源を入れ、Windows95 を起動します。

3. Windows95は本製品を自動的に検出し、「新しいハードウェア」ダイアログに「corega K.K.-corega Ether PCC-T」の名前を表示します。「ハードウェアの製造元が提供するドライバ（M）」を選択し、「OK」をクリックしてください。



画面 3.1 「新しいハードウェア」

4. 「フロッピーディスクからインストール」が表示されます。フロッピーディスクドライブにドライバーディスクを入れ "**A:**" と入力し、「OK」をクリックします。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）



画面 3.2 パスの入力

■プリインストール版Windows95の場合

この場合は、Windows95ファイルが既にハードディスクにコピーされています（工場出荷時）。
画面上ではディスクを入れるように要求されますが、そのまま「OK」をクリックしてダイアログを閉じ、「C:**\windows\options\cabs**」を指定してください。（ここではWindows95の起動ディスクパーティションをC:と仮定します。）

機種によっては**\windows\options\cabs**と異なる場所に保存されていることもあります。その場合はコンピュータのマニュアルをご覧になるか、検索コマンドにより拡張子「cab」のファイルが存在するディレクトリを探し、そのディレクトリパスを指定してください。

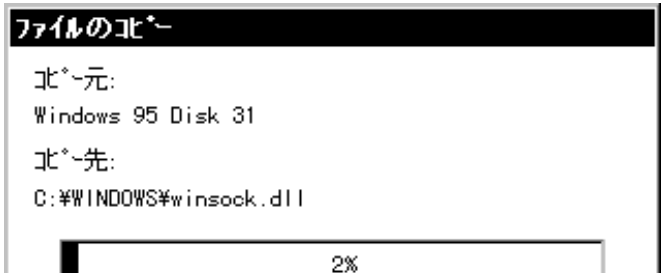
■CD-ROMの場合

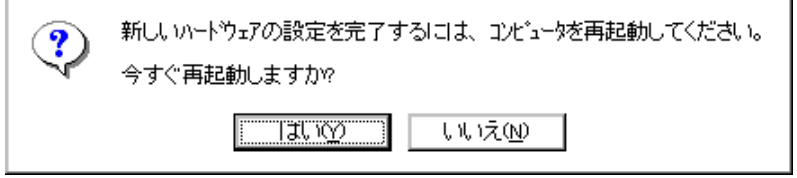
CD-ROMをドライブに挿入し、「E:**\WIN95**」を入力してください。
(ここでは、CD-ROMドライブをE:と仮定します。)

■フロッピーディスクの場合

指示された番号のディスクをフロッピーディスクドライブに入れ、「ファイルのコピー元(C)：」で「**A:**」を入力してください。（ここではフロッピーディスクドライブをA:と仮定します。）

画面 3.3　ディスクの要求（フロッピーディスクの場合）





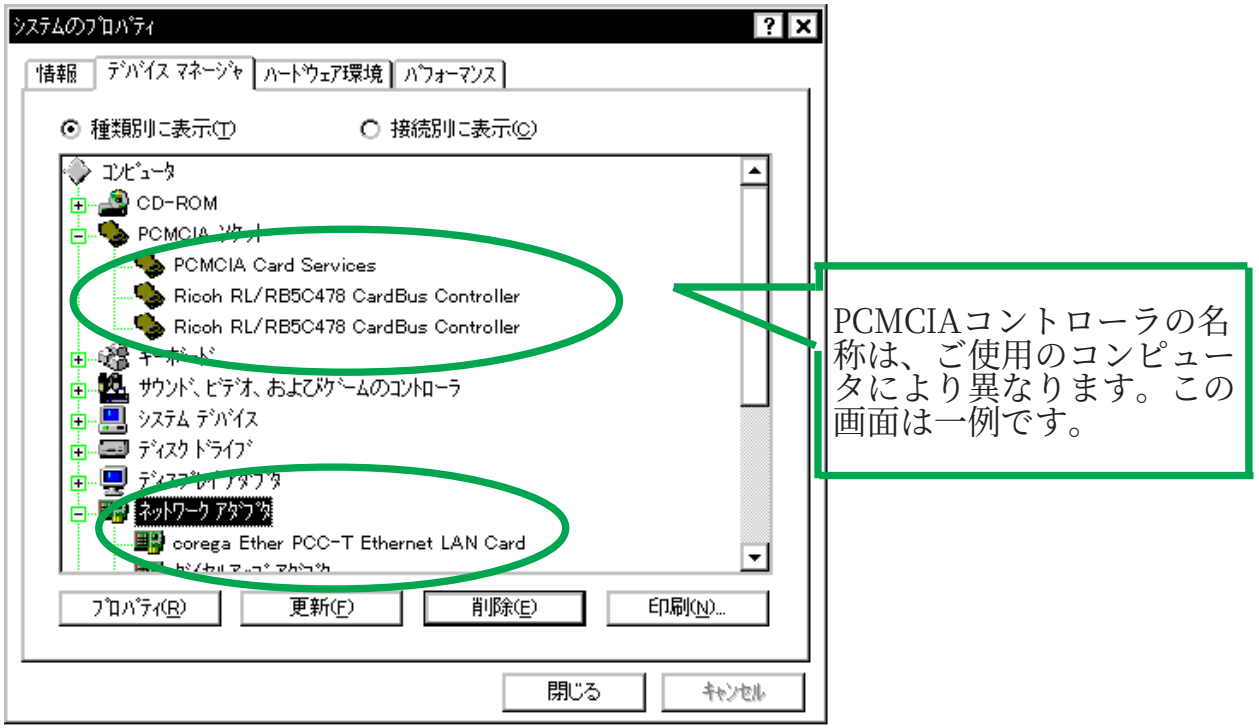
画面 3.5　システム設定の変更

† ご使用のコンピュータに既に他のネットワークアダプターのドライバーをインストールしたことがある場合、このダイアログは表示されません。この場合も必ず再起動して本製品のドライバーを有効化してください。

7. 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「3.4　アダプターの設定」にお進みください。

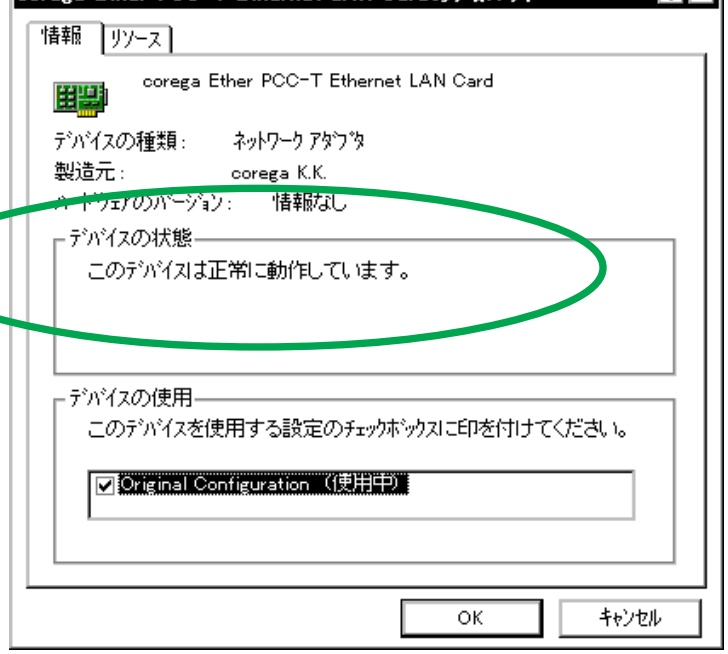
3.4.1　デバイスマネージャによる確認

初めに、「システム」（コントロールパネル）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示します。インストールが正常に行われていれば「PCMCIAソケット」†の下にご使用のコンピュータにインストールされているPCMCIAコントローラの名前が、また「ネットワークアダプタ」の下に「**corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card**」が表示されます。



画面 4.1　正常にインストールされた場合

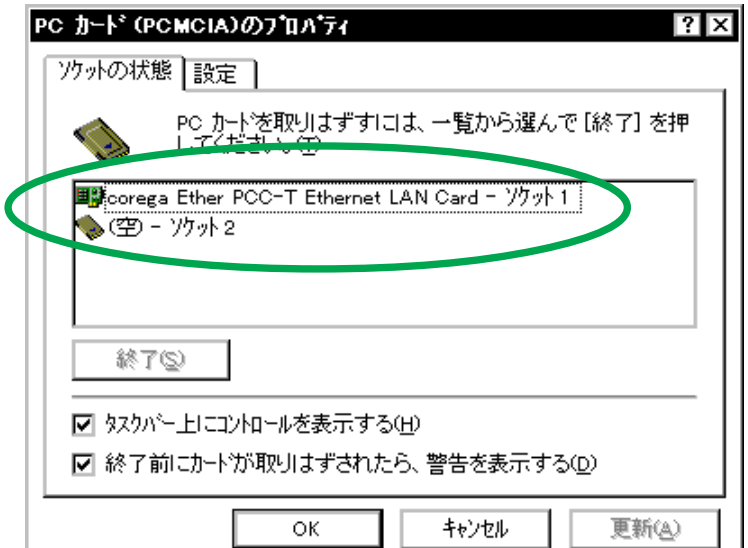
アイコンに「？」「！」などのエラーマークがついている場合や「ネットワークアダプタ」の下にアイコンが存在しない場合などは、インストールに失敗している可能性がありますので、「3.6　トラブルシューティング」をご覧ください。



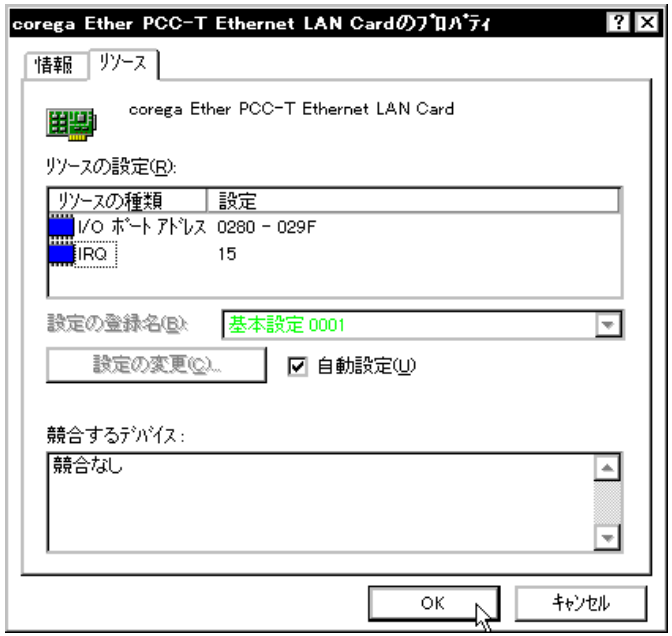
画面 4.2　デバイスの状態

3.4.2　PCカード（PCMCIA）による確認

次に、「PCカード（PCMCIA）」（コントロールパネル）をダブルクリックし、「ソケットの状態」を表示します。該当するソケット†に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されていることをご確認ください。



「リソース」と進んで下さい。



画面 4.4　リソースの確認

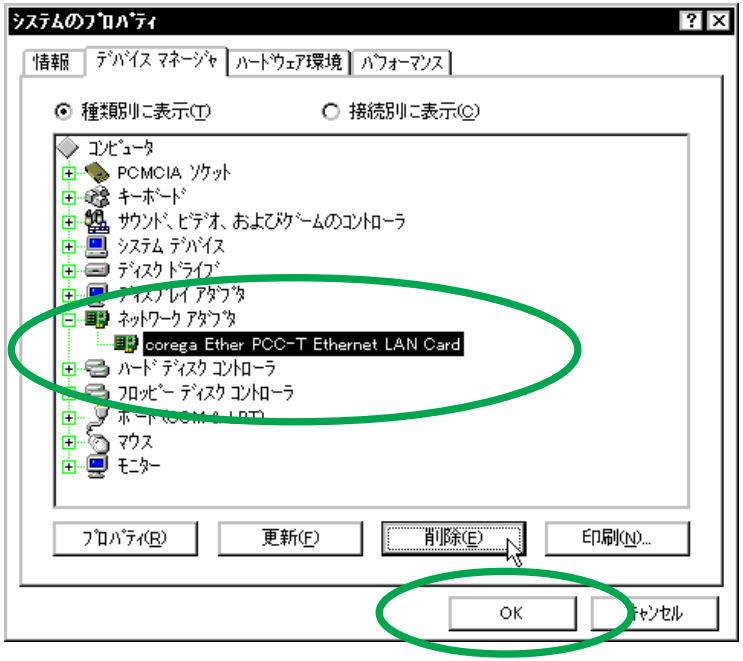
3.4.4　ネットワークの設定

次に、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動し、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

再びインストールを行う場合にはドライバーを一旦削除してから行います。

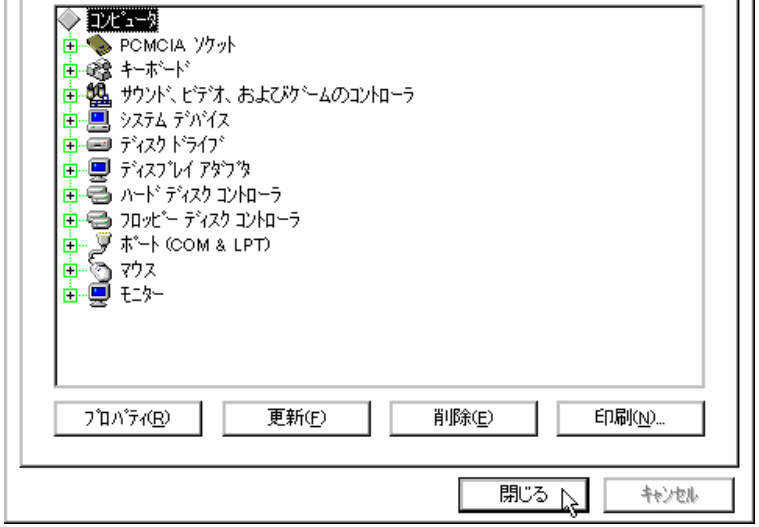
3.5.1　ドライバーの削除

(1)　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」を選択し、「削除（E)」ボタンをクリックしてください。



画面 5.1　ドライバーの削除

(2)　下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。



画面 5.3　削除後のデバイスマネージャ

(4)　「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。

(5)　コンピュータの電源を落とし、PC カードスロットから本製品を抜き出します。

3.5.2　再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

(1)　本製品を PC カードスロットに挿入し、再びコンピュータの電源を入れます。

(2)　Windows95 が起動し、「新しいハードウェア」ダイアログが表示されます。

(3)　「3.3　ドライバーのインストール」の手順(3)から再開します。

行ってください。

3.6.1　正常にインストールできない

3.4.1項にしたがってインストールの確認を行った際に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗していますので、ドライバーを一旦削除し、再インストールします。

■「ネットワークアダプタ」の項目がない†
■「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている†
■アイコンに「!」「？」「×」マークがある
■「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」が2つ以上ある

† この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。
・ドライバーインストールの作業中に行われる netapi.dll などの Windows95 関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
・以前に本製品のドライバーのインストールと削除を行ったことがあり、「3.5.2　再インストール」手順(2)の「新しいハードウェア」ダイアログで「ドライバをインストールしない（D)」を選択した。

（手順）

(1)　「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下の、不正にインストールされた「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンを選択し、「削除（E)」ボタンをクリックしてください。（画面 5.1 で「ネットワークアダプタ」を「その他のデバイス」または「不明なデバイス」に読みかえてください。）

(2)　「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「全ての設定から削除（A)」を選択し、「OK」をクリックしてください。

(3)　「3.5.1　ドライバーの削除」の手順(3)に進みます。

バーは動作することができません。

3.4.1項にしたがってインストールの確認を行った際に「PCMCIAソケット」の下に表示されるPCMCIAコントローラのアイコンに「?」、「!」、「×」のマークが付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

(1) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。

(2) 「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除(E)」をクリックしてください。

(3) 「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「全ての設定から削除(A)」を選択し、「OK」をクリックしてください。

(4) 「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。

(5) Windows95 を終了し、コンピュータの電源を落とした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。

(6) 再びコンピュータに電源を投入します。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード(PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。

(7) 「ハードウェア」アイコン（コントロールパネル）をダブルクリックしてください。「ハードウェアウィザード」が起動します。「次へ>」をクリックしてください。(「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります。)

(8) 「はい（通常はこちらを選んでください）(Y)」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ>」をクリックして進みます。最後に「完了」をクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。

(9) 続いて、「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が起動します。「3.2　PCMCIA コントローラの有効化」の手順（3）から実行してください。

とリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値をWindows95に予め登録（「予約」と呼びます）し、その値が他のPlug & Play対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないように設定しておくと、値の重複を回避できます。

リソース値を予約する手順

(1) Plug & Play非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値（インタラプト（IRQ）、I/O ポートアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

(2) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3) 該当する項目を選択し、「追加」をクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

3.6.4 その他

インストール時に、以下のようなダイアログが表示されることがあります。その場合は、「**いいえ**」ボタンをクリックしてください。LAN環境でTCP/IPをご使用になっている場合は、DHCPの設定に関してシステム管理者にご相談ください。

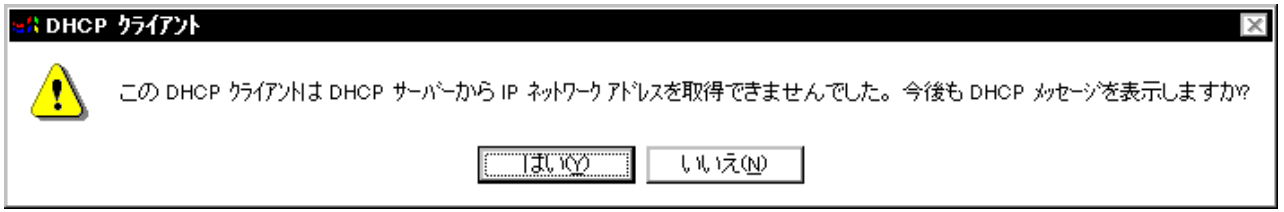


図 5.4

4　Windows95 Version B/Version C

第4部では、本製品のドライバーをWindows95 Version B（OSR2）、Windows95 Version C（OSR2.5）上にインストールする手順を説明します。

■バージョンをご確認下さい

初めに、ご使用のWindows95のバージョンを「システム」（コントロールパネル）で確認します。「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」→「システム」→「情報」と進み、「システム：」の番号が" **4.00.950 B**"の場合は **Version B（OSR2）、**" **4.00.950 C**"の場合は **Version C（OSR2.5）**です。
"**4.00.950**" であれば **Version950**、 "**4.00.950a**" であれば **Version A**です。この場合は第3部「Windows95 Version950/A」をご覧ください。

画面 1.1　Windows95 のバージョン表示　（Version B の場合）

4.1　準備と確認

インストールを始める前に、以下のものをご用意下さい。

1. corega Ether PCC-T カード本体
   他のハードウェア（メディアケーブルなど）はインストールの段階では特に必要ありません。
2. コンピュータ（Windows95 Version B 搭載）
3. ドライバーディスク（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）
4. Windows95 のバックアップディスク（Windows95 を再インストールしたコンピュータをご使用の場合、再インストールに使った CD-ROM）

重要：ご使用のコンピュータのOSのバックアップCD-ROMをお持ちでない場合は、必ずフロッピーディスクにバックアップを取った後でドライバーのインストールを開始してください。

ここに挙げた手順は一例です。お客様の環境によっては、手順が若干異なることがあります。（本書に掲載した画面はAT互換機/PC98-NXのものです。PC-9800/PC-9821の場合はディスクドライブ名などが異なります。）

4.2　PCMCIAコントローラの有効化

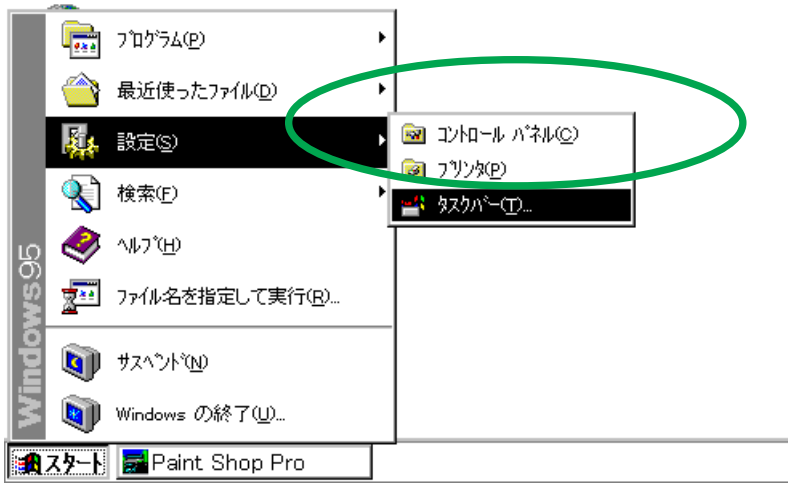
ドライバーをインストールする前に、以下の手順を実行してください†1。この手続きにより、Windows95がPCカードを自動認識するための機能が有効化されます†2。この時点では、まだ本製品をコンピュータに取り付けないでください。

† 1 ご使用のコンピュータが CardBus（32bit バスコントローラ）対応のものである場合は本項の手順とは異なる手続きを必要とするモデルも多く存在しますので、必ずコンピュータのマニュアルでご確認下さい。

† 2 この手順は PC カードを初めて使用する際に 1 回だけ実行します。

(1)　コンピュータに電源を投入し、Windows95 を起動します。

(2)　「スタート」をクリックし、「設定(S)」から「コントロールパネル(C)」を選択します。

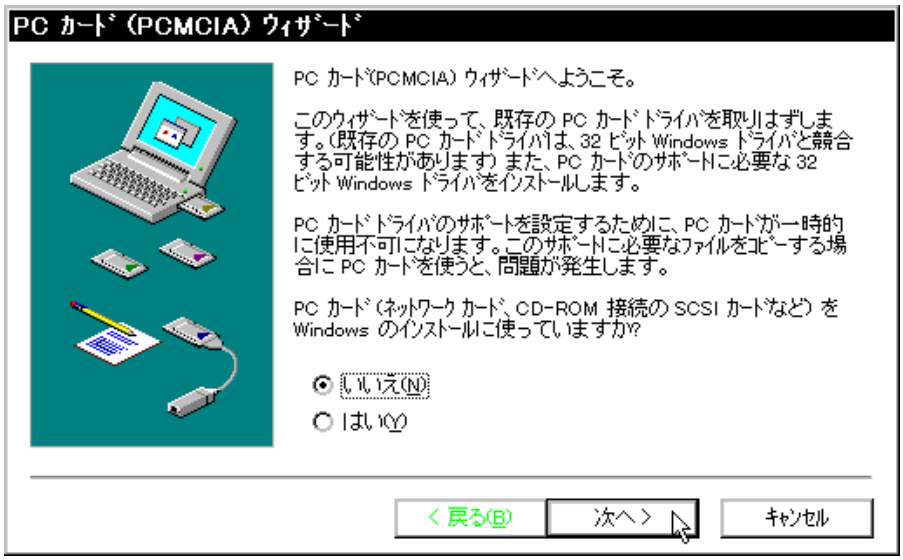


画面 2.1　コントロールパネルの選択（デスクトップ）

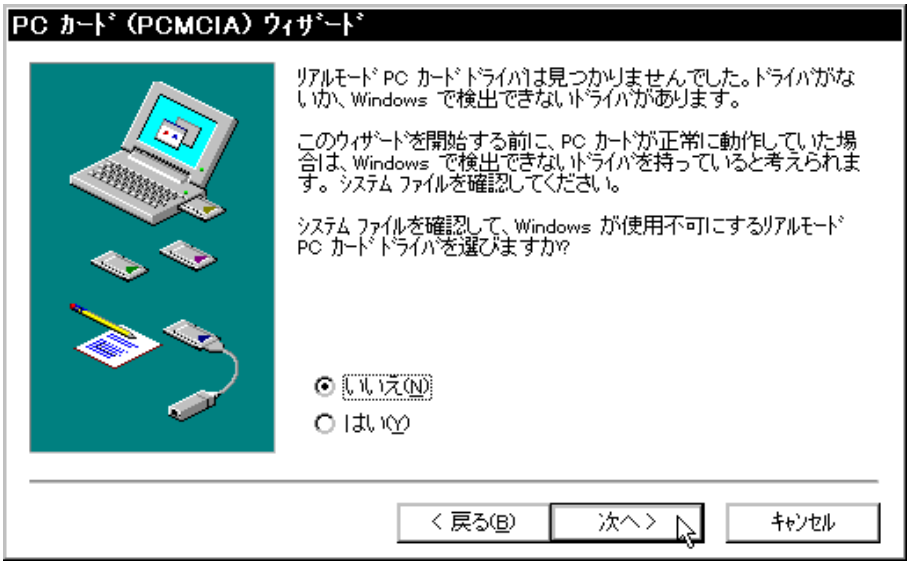
(3)　「PC カード(PCMCIA)」アイコンをダブルクリックします。

画面 2.2　「PC カード（PCMCIA)」アイコン

(4)　「PC カード(PCMCIA)ウィザード」が起動します。
「PCカードウィザード」は、2つの質問を行います。通常は、2つの質問のそれぞれに対して「いいえ（N）」を選択し、「次へ>」をクリックしてください。



画面 2.3　PC カード（PCMCIA）ウィザード 1



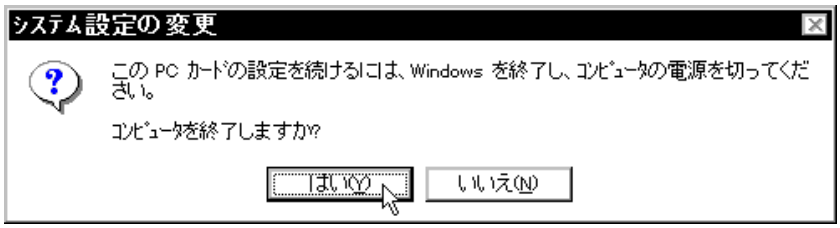
画面 2.4　PC カード（PCMCIA）ウィザード 2

以前にこの手順を実行したことがあればこのパネルは表示されず、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」が表示されます（4.4.2項参照）。また、コンピュータの機種によっては既にPCMCIAコントローラの有効化を終えた状態で出荷されているモデルもあり、この場合も同様に「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」が表示されます。この場合は「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」を閉じ、「4.3　ドライバーのインストール」に進んでください。

(5)　「PCカードウィザード」が完了すると、次のダイアログが表示されますので、「完了」をクリックしてください。

画面 2.5　PC カード（PCMCIA）ウィザードの完了

(6)　次のダイアログが表示されますので、「はい（Y)」をクリックしてください。Windows95 が終了したら、コンピュータの電源を切ります。



画面 2.6 「システム設定の変更」ダイアログ

以上でPCカードを使用する準備は整いました。引き続き、「4.3　ドライバーのインストール」へお進みください。

4.3　ドライバーのインストール

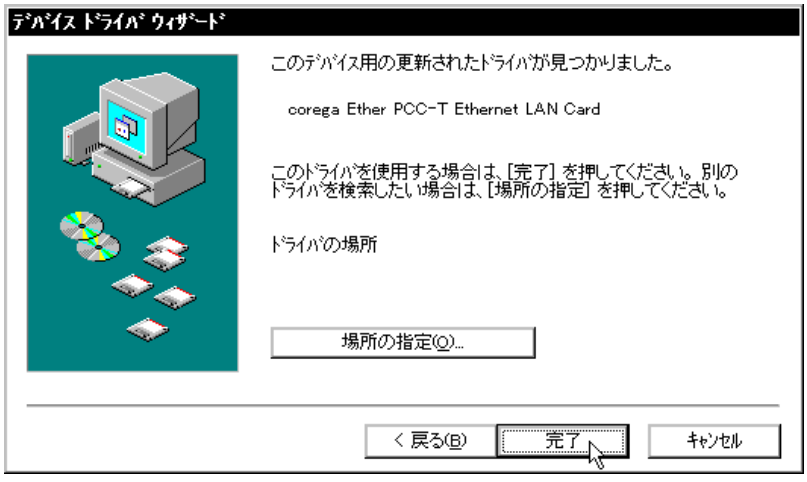
1. コンピュータの PC カードスロットに本製品を挿入します。
挿入の手順については「2　ハードウェアの設定」およびご使用のコンピュータのマニュアルを参照してください。

2. コンピュータの電源を入れ、Windows95 を起動します。

3. Windows95 は本製品を自動的に検出し、「デバイスドライバウィザード」を起動します。ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、「次へ>」をクリックしてください。ドライバーの自動検索が始まります。

画面 3.1　デバイスドライバウィザード

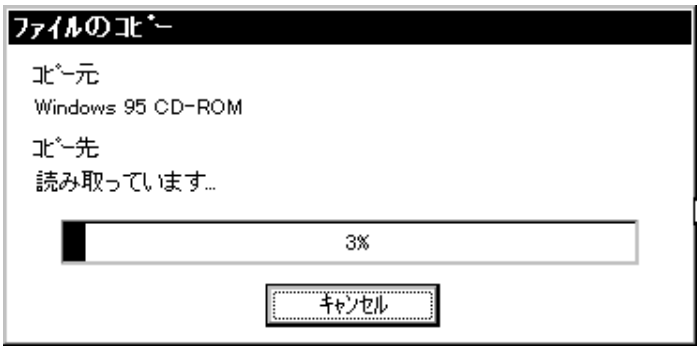
4. 次のダイアログが表示されたら「完了」をクリックしてください†。



画面 3.2

†　ご使用のコンピュータに初めてネットワークアダプターをインストールする場合は、ここでネットワークの設定を促すダイアログが表示されます。ネットワーク管理者に確認の上、コンピュータ名、ワークグループ名およびコンピュータの説明（省略可）を入力してください。なお、ここで設定した内容をインストール後に変更する場合は「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「ユーザー情報」タブを選択して下さい。

5. ドライバーおよび必要なWindows95ファイルがハードディスクにコピーされます。



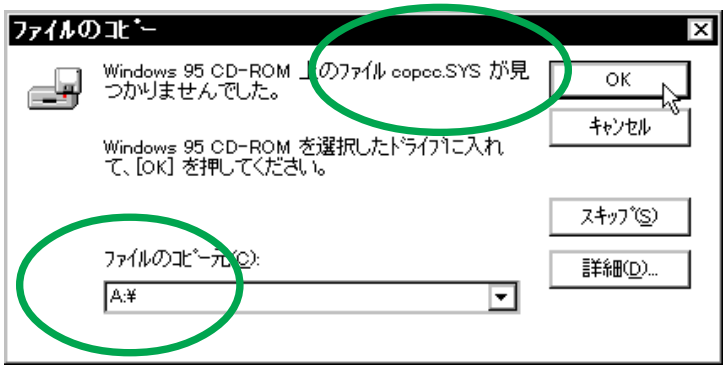
画面 3.3　Windows95 ファイルのコピー

（参考）Windows95 VersionB（OSR2）はコンピュータにプリインストールされた形態で供給されています（Windows95の供給ファイルは、**\windows\options\cabs**にコピーされています）。しかしながら、ご使用のコンピュータのWindows95が再インストールされたものである場合、Windows95の供給ファイルが\windows\options\cabsにコピーされていないため、Windows95のバックアップディスクが必要です。ディスクを要求するダイアログが表示されたら、以下のようにパスを指定してください。

■CD-ROMの場合
CD-ROMをドライブに挿入し、「E:**\WIN95**」を入力してください。
(ここでは、CD-ROMドライブをE:と仮定します。)

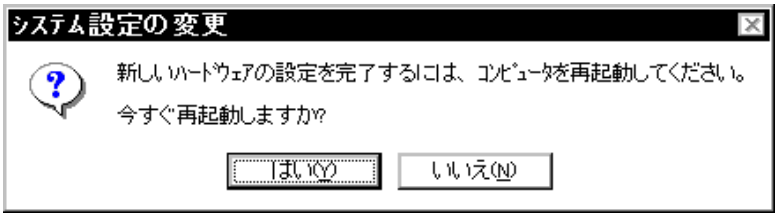
■フロッピーディスクの場合
指示された番号のディスクをディスクドライブに入れ、「A:****」を入力してください。（ここではフロッピーディスクドライブをA:と仮定します。）

【重要】次のダイアログが表示されることがあります。ファイル"copcc.SYS"は Windows95のマスターディスク上のファイルとして説明されていますが、実際にはドライバーディスクの中に収められています。フロッピーディスクドライブにドライバーディスクが入っていることを確認の上、パス "A:\"を指定し、「OK」をクリックしてください。（ここではフロッピーディスクドライブをA:と仮定します。）



画面 3.4　COPCC.SYS の要求（例）

6. 「システム設定の変更」が表示されます†。「今すぐ再起動しますか？」という問いに対して、「はい（Y）」をクリックし、（フロッピーディスクを取り出して）コンピュータを再起動します。



画面 3.5　システム設定の変更

† ご使用のコンピュータに既に他のネットワークアダプターのドライバーをインストールしたことがある場合、このダイアログは表示されません。この場合も必ず再起動して本製品のドライバーを有効化してください。

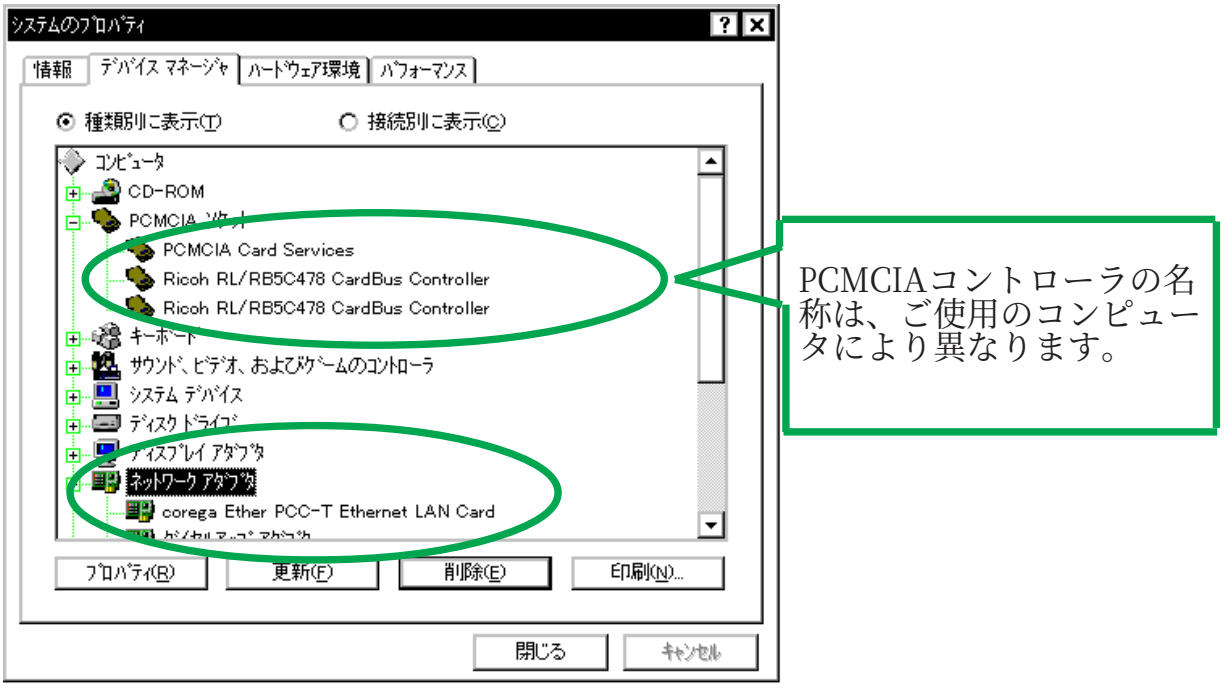
7. 以上でドライバーのインストールは終了です。引き続き、「4.4　アダプターの設定」にお進みください。

4.4　アダプターの設定

再起動したら、初めにドライバーのインストールが正常に行われていることを確認し、さらに必要な設定を行います。

4.4.1　デバイスマネージャによる確認

初めに、「システム」（コントロールパネル）をダブルクリックし、「デバイスマネージャ」を表示します。インストールが正常に行われていれば「PCMCIAソケット」†の下にご使用のコンピュータにインストールされているPCMCIAコントローラの名前が、また「ネットワークアダプタ」の下に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されます。

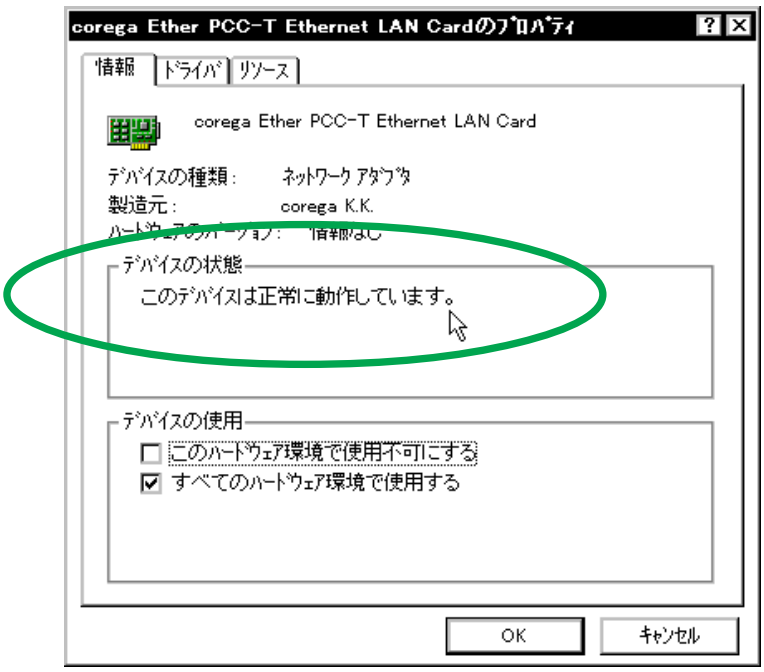


画面 4.1　PCMCIA コントローラ（例）

ご使用のコンピュータがCardBus対応モデルであり、かつPCMCIAコントローラが16bit/32bit共用のタイプである場合、PCMCIAコントローラは同じ名称が2列以上表示されます。

アイコンに「？」「！」などのエラーマークがついている場合や「ネットワークアダプタ」の下にアイコンが存在しない場合などは、インストールに失敗している可能性がありますので、「4.6　トラブルシューティング」をご覧ください。

次に、「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」→「情報」→「デバイスの状態」と進みます。「このデバイスは正常に動作しています。」と表示されていることをご確認下さい。



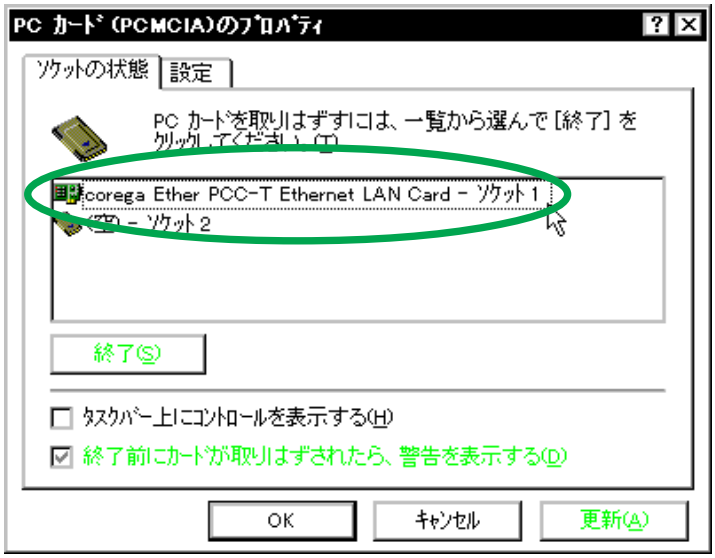
画面 4.2　デバイスの状態

（参考）「ドライバ」タブを選択し、ドライバーに関する情報を表示した場合、「このデバイスにはドライバファイルが必要でないか、または組み込まれていません。」というメッセージが出ることがありますが、これは本製品の仕様によるものですので、安心してご使用下さい。

画面 4.3 「ドライバ」タブ

4.4.2　PCカード（PCMCIA）

次に「PCカード（PCMCIA）」（コントロールパネル）をダブルクリックします。「ソケットの状態」を表示すると該当するソケット†に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」が表示されていることを確認します。

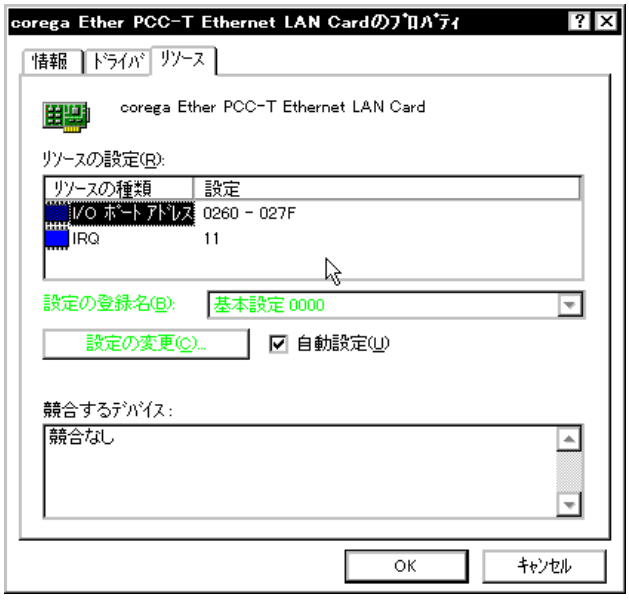


画面 4.4　ソケットの状態

†　ソケット番号の表記はコンピュータの機種により異なり、「ソケット０」「ソケット１」と表記される場合もあります。

4.4.3　リソースの確認

本製品が使用するI/Oアドレス、インタラプトなどのリソースは、Windows95によって自動的に設定されます。これらの値を確認するには「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」→「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」→「プロパティ」→「リソース」と進んで下さい。



画面 4.5　リソースの確認

4.4.4　ネットワークの設定

次に、「コントロールパネル」の「ネットワーク」を起動し、使用するプロトコル、クライアントなどの設定を行います。詳細はネットワーク管理者にご確認ください。

画面 4.6　ネットワークの設定

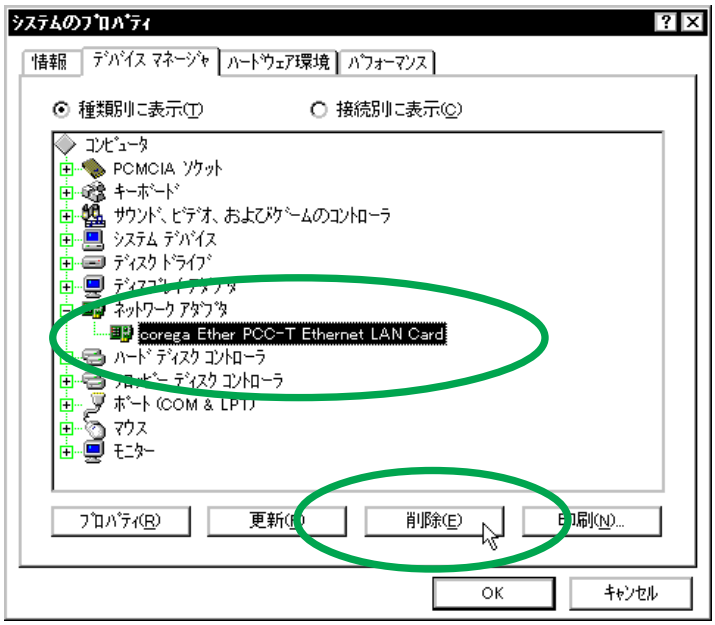
4.5　ドライバーの削除と再インストール

本ドライバーのインストールを一旦完了するとその内容は保存され、次回からはPCカードスロットに本製品を挿入するだけで本製品を使用できます。

再びインストールを行う場合にはドライバーを一旦削除してから行います。

4.5.1　ドライバーの削除

(1)　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進み、「ネットワークアダプタ」の下から項目「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」を選択し、「削除（E)」ボタンをクリックしてください。



画面 5.1　ドライバーの削除

(2)　下のダイアログが表示されたら、「OK」をクリックします。

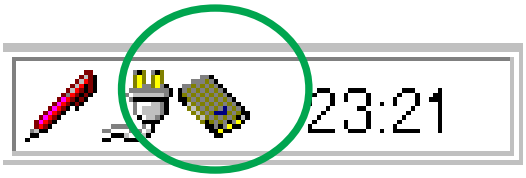
画面 5.2　デバイス削除の確認

(3)　「ネットワークアダプタ」のアイコンが消えていることをご確認下さい。

画面 5.3　削除後のデバイスマネージャ

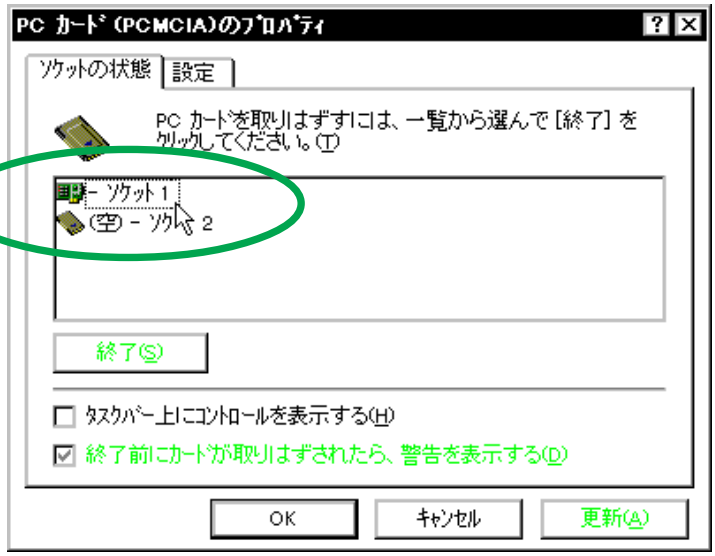
(4)　「システムのプロパティ」の「閉じる」ボタンをクリックしてください。

(5)　タスクバー（画面右下）の PC カードアイコンをダブルクリックします。



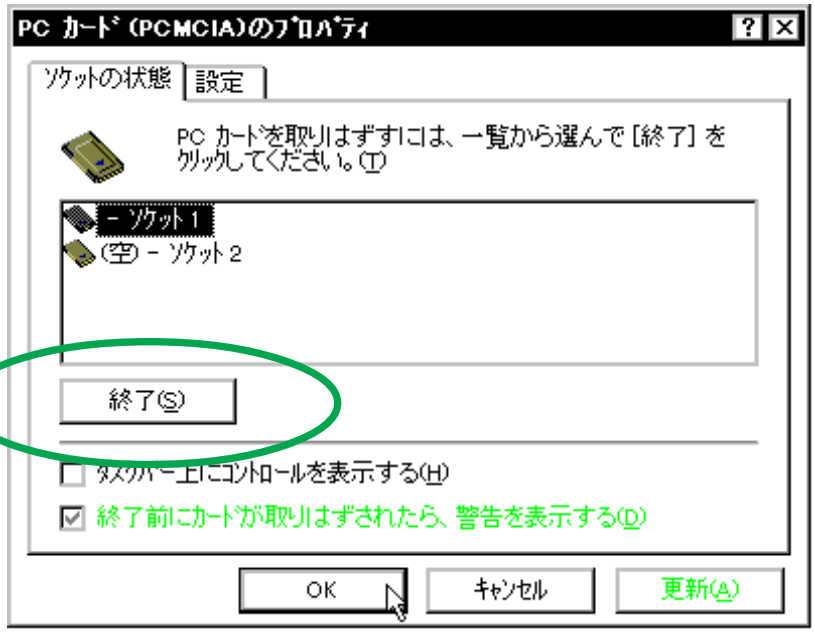
画面 5.4　PC カードアイコン

(6)　「ソケットの状態」タブが表示されます。本製品が挿入されていたソケットの表記が「-」（画面では「 - ｿｹｯﾄ1」）となっていることをご確認下さい。



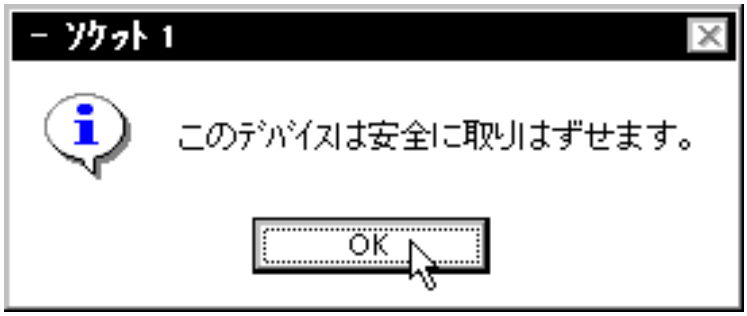
画面 5.5　デバイス削除後の「ソケットの状態」

(7)　該当するソケット（画面では「 - ｿｹｯﾄ1」と表記）を選択（反転表示）すると「終了」ボタンがアクティブになりますので、「終了」ボタンをクリックします。



画面 5.6　デバイス削除後の「ソケットの状態」(2)

(8)　下のダイアログが表示されます。「OK」をクリックします。

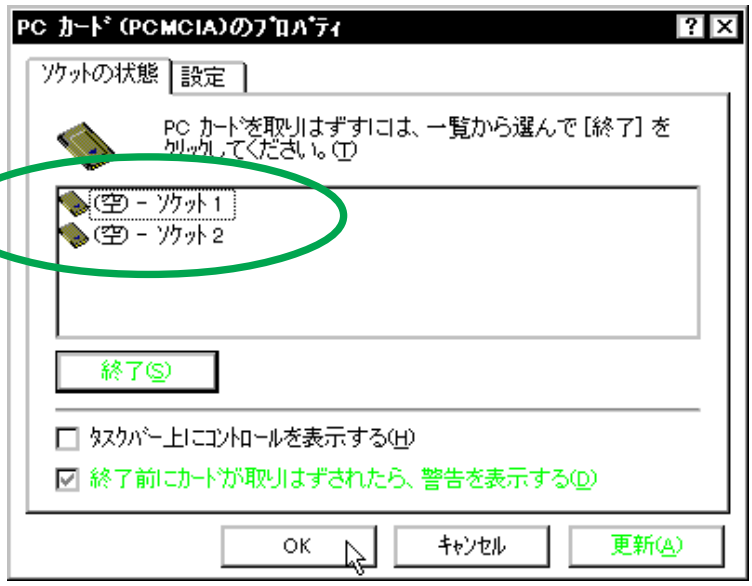


画面 5.7

†　本文は「削除」実行後に初めて「ソケットの状態」タブを開く場合について記述しています。「削除」実行前に「ソケットの状態」画面を開いておいた場合は、最初に表示されたデバイス名 "corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card" が「削除」実行後も変わらず表示されます。この場合も必ず手順(7)以降の手続きを実行してください。（本文中「-」を「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」に置き換えて下さい。）

(9)　ソケットから本製品を抜きます。

(10) 「ソケットの状態」で、スロットに「空」と表記されていることを確認して下さい。



画面 5.8

(11) タスクバー上で PC カードアイコンが消えていることもご確認ください。

画面 5.9　　タスクバー

(12) 以上で削除の手続きは終了です。コンピュータの電源を落とし、PC カードスロットから本製品を抜き出してください。

4.5.2　再インストール

ドライバーを再インストールする手順は以下の通りです。

(1) 本製品を PC カードスロットに挿入し、再びコンピュータの電源を入れます。

(2) Windows95 が起動し、「デバイスドライバウィザード」が起動します。

(3) 「4.3　ドライバーのインストール」の手順(3)から再開します。

4.6　トラブルシューティング

この項ではドライバーのインストールに伴うトラブルの代表的な例と、その対処法について説明します。以下の手順は、本製品をPCカードスロットに取り付けた状態で行ってください。

4.6.1　正常にインストールできない

4.4.1項にしたがってインストールの確認を行った際に「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンの表示が以下のようになっている場合は、ドライバーのインストールに失敗していますので、ドライバーを一旦削除し、再インストールします。

■「ネットワークアダプタ」の項目がない†1
■「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下にアイコンが表示されている†1
■アイコンに「!」「？」マーク†2がある
■「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」が2つ以上ある

†1 この場合、以下のような操作を行ったことが考えられます。
■ドライバーインストールの作業中に行われる netapi.dll などの Windows95 関連のファイルのインストールをキャンセルしてしまった。
■以前に本製品のドライバーのインストールと削除を行ったことがあり、「4.5.2　再インストール」手順(2)の「新しいハードウェア」ダイアログで「ドライバをインストールしない（D）」を選択した。

†2「×」マークがある場合はインストールの失敗ではなく、デバイスマネージャでデバイスを「使用不可」に設定しています。詳細は 4.6.2 項をご覧ください。

（手順）

(1)　「その他のデバイス」「不明なデバイス」の下の、不正にインストールされた「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンを選択し、「削除（E）」ボタンをクリックしてください。（画面 5.1 で「ネットワークアダプタ」を「その他のデバイス」または「不明なデバイス」に読みかえてください。）

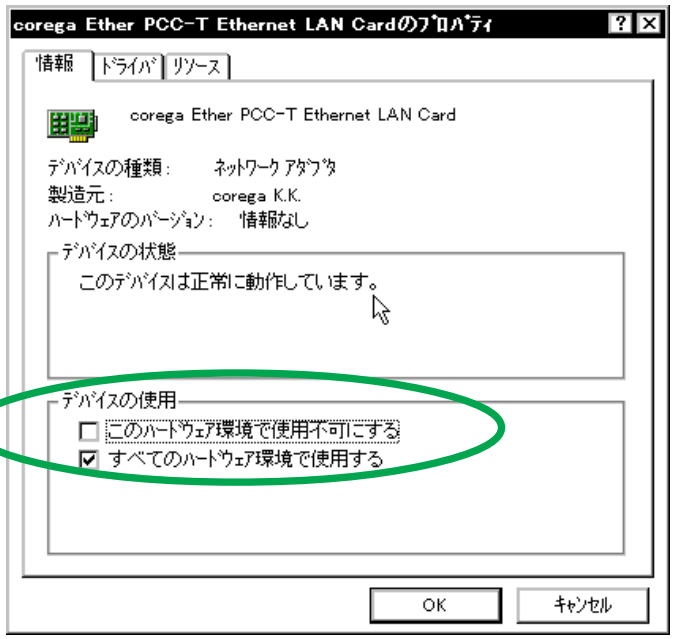
(2)　「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「全ての設定から削除（A）」を選択し、「OK」をクリックしてください。

(3)　「4.5.1　ドライバーの削除」の手順(3)に進みます。

4.6.2　アイコンに「×」マークが付いている

デバイスマネージャで「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」アイコンに「×」マークがある場合は「デバイスの使用不可」に設定されています。以下の手順にしたがって使用許可の状態を切り替えると本製品を使用できるようになります。

1. 「corega Ether PCC-T Ethernet LAN Card」を選択（反転表示）し、「プロパティ」をクリックし、「情報」タブを表示します。
2. 「このハードウェア環境で使用不可にする」のチェックを外してください。



画面 6.1　デバイスの使用許可の設定

4.6.3　PCMCIAコントローラが正しく表示されない

本製品のドライバーは、PCMCIAコントローラと協調して動作します。そのため、PCMCIAコントローラが正しくインストールされていない状況では、本製品のドライバーは動作することができません†。

4.4.1項にしたがってインストールの確認を行った際に「PCMCIAソケット」の下に表示されるPCMCIAコントローラのアイコンに「?」、「!」のマークが付いている場合は、次の手順を実行してみてください。

(1)　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」と進みます。

(2)　「PCMCIA ソケット」の下にある PCMCIA コントローラを選択し、「削除(E)」をクリックしてください。

(3)　「デバイス削除の確認」ダイアログが表示されます。「全ての設定から削除(A)」を選択し、「OK」をクリックしてください。

(4)　「デバイスマネージャ」から「PCMCIA ソケット」のアイコンが消えていることを確認します。

(5)　Windows95 を終了し、コンピュータの電源を落とした後、本製品を PC カードスロットから取り外します。

(6)　再びコンピュータに電源を投入します。「コントロールパネル」ウィンドウを表示し、「PC カード(PCMCIA)」アイコンが消えていることを確認します。

(7)　「ハードウェア」アイコン（コントロールパネル）をダブルクリックしてください。「ハードウェアウィザード」が起動します。「次へ>」をクリックしてください。(「ハードウェアウィザード」の実行には数分の時間がかかります。)

(8)　「はい（通常はこちらを選んでください）(Y)」を選択し、続く 2 つの質問に対して「次へ>」をクリックして進みます。最後に「完了」をクリックしてハードウェアウィザードを終了してください。

(9)　続いて、「PCカード(PCMCIA)ウィザード」が起動します。「4.2　PCMCIA コントローラの有効化」の手順（3）から実行してください。

† ご使用のコンピュータがCardBus対応のモデルである場合、使用するPCカードに応じて２種類（16bit/32bit）の PCMCIA コントローラを切り替えなければならないものがありますのでご注意下さい。詳細はご使用のコンピュータのマニュアルでご確認下さい。

4.6.4　リソース値重複の回避

前述の手順にしたがってドライバーの削除および再インストール作業を行っても、なおアイコンに「?」、「!」マークが付いている場合は、他の拡張アダプターとリソースの値が重複している可能性があります。

特に、Plug & Playに対応していない他の拡張アダプターを本製品とともに使用している場合は、その拡張アダプターが使用するリソース値をWindows95に予め登録（「予約」と呼びます）し、その値が他のPlug & Play対応デバイス（本製品を含む）によって使用されないようにしておくと、値の重複を回避できます。

リソース値を予約する手順

(1)　Plug & Play非対応の拡張アダプターが使用するリソースの値（インタラプト（IRQ）、I/O ポートアドレス、メモリ、ダイレクトメモリアクセス（DMA））を調べておきます。詳細は、その拡張アダプターのマニュアルをご覧ください。または、メーカーにお問い合わせください。

(2)　「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」→「コンピュータのプロパティ」パネル→「リソースの予約」と進みます。

(3)　該当する項目を選択し、「追加」をクリックします。画面の指示にしたがって予約するリソースの値を登録してください。

4.6.5　その他

インストール時に、以下のようなダイアログが表示されることがあります。その場合は、「**いいえ**」ボタンをクリックしてください。LAN環境でTCP/IPをご使用になっている場合は、DHCPの設定に関してシステム管理者にご相談ください。

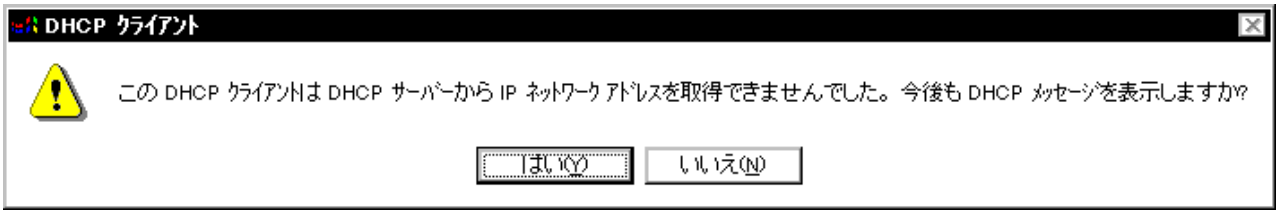


図 6.2

5　Windows NT Ver. 3.51

この項では、本製品のドライバーをWindows NT Ver. 3.51上にインストールする手順を説明します。なお、本マニュアルでは Windows NT Workstationを用いて説明を行います。

5.1　準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。
各操作・設定の手順についてはWindows NTのマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NTのハードウェア互換性リスト（Windows NTパッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。

本製品のインストールをWindows NTのインストールと同時に行うことは避けて下さい。必ず、Windows NTのインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行って下さい。Windows NTはPlug&Playをサポートしていないため、Windows NTと本製品のインストールを同時に行うと、Windows NTのインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

Windows NTでは活線挿抜（コンピュータの電源を入れたままでカードの抜き挿しを行うこと）はできません。本製品の挿抜を行う際には必ずコンピュータの電源がOFFになっていることをご確認下さい。誤って活線挿抜を行った場合に起こった障害についてはユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

5.2　ドライバーのインストール

それでは、インストールを始めます。ここでは、「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合の†1インストール手順について説明します。また、Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

†1「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択した場合に相当します。

5.2.1　準備

用意するもの

1. カード本体・メディアケーブル等
2. コンピュータ（Windows NT 3.51 インストール済み）
3. Windows NT の供給ディスク（フロッピーディスクまたは CD-ROM）
4. ドライバーディスク（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）

インストールの前に

1. コンピュータの電源をオフにし、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入します。
2. 本製品をネットワークに接続します。

5.2.2　リソースの確認

5.2.2.1　概要

Windows NTはPlug & Play をサポートしていないため、本製品が使用するリソースの値をドライバーのインストール時に設定する必要があります。そのため、ドライバーをインストールする前にリソースの空き状況を調べる必要があります†1。

本製品のドライバーに組み込まれているリソースの工場出荷時の値（5.2.2.2項参照）が、他のデバイスによって既に使用されている場合は重複を避けるため本製品の使用する値を変更します。（設定はドライバーのインストール時に表示される設定ダイアログで行います。）そのため、ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べて下さい。

リソースの状況を調べるには、コンピュータメーカーで予め定めてあるデバイスについてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。また、本製品を含む拡張デバイスが追加されているコンピュータについては「Windows NT診断プログラム」（5.2.2.3項参照）を使用するとそれらの拡張デバイスを含む、リソースの割り当て状況を確認できます。

†1 コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT診断プログラム」上に表示されないものがありますので、必ずコンピュータのマニュアルと「Windows NT診断プログラム」の２つを用いて確認を行って下さい。

5.2.2.2　リソースの値

工場出荷時の値および設定可能な値の範囲は以下の通りです。

I/Oベースアドレス

初期設定値　0x300
設定可能な値　0x200、0x220、0x240、0x260、0x280、0x2A0、0x2C0、0x2E0、
0x300、0x320、0x340、0x360、0x380、0x3A0、0x3C0、0x3E0

IRQ（AT互換機/PC98-NX）

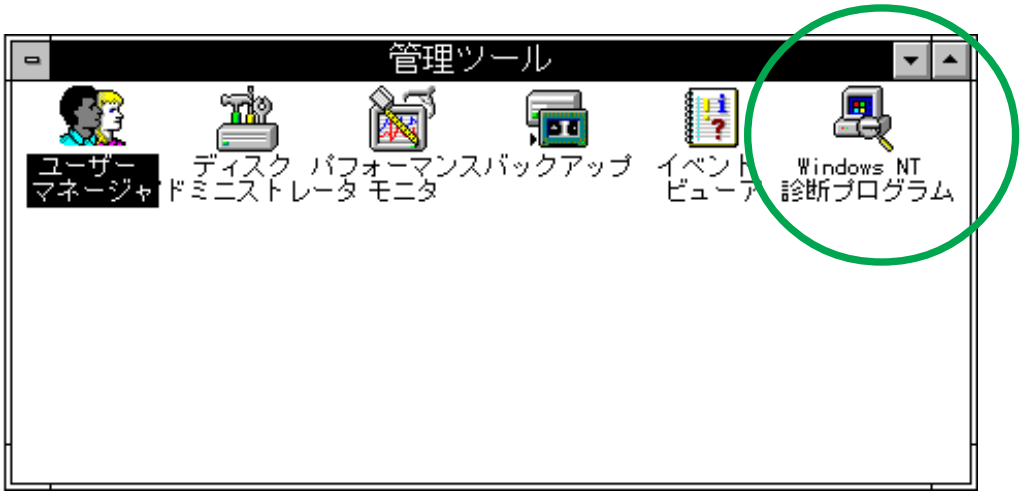
初期設定値　10(A)
設定可能な値　3, 4, 5, 7, 9, 10(A), 11(B), 15(F)

IRQ（PC-9800/PC-9821）

初期設定値　5
設定可能な値　3, 5, 6, 10(A), 12(C)

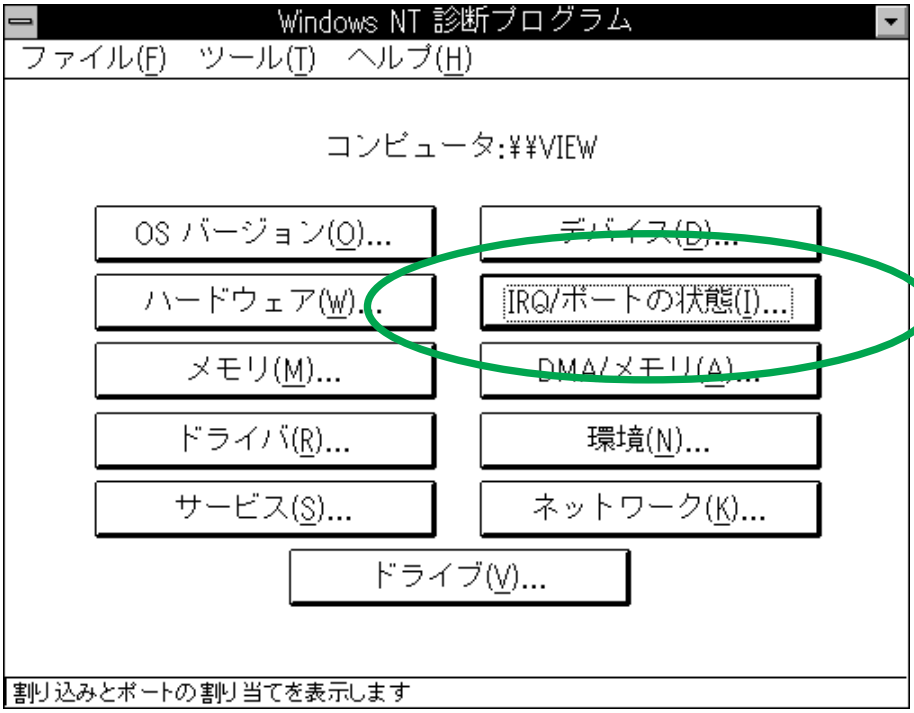
5.2.2.3　Windows NT診断プログラムの使用方法

1.　「プログラムマネージャ」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。



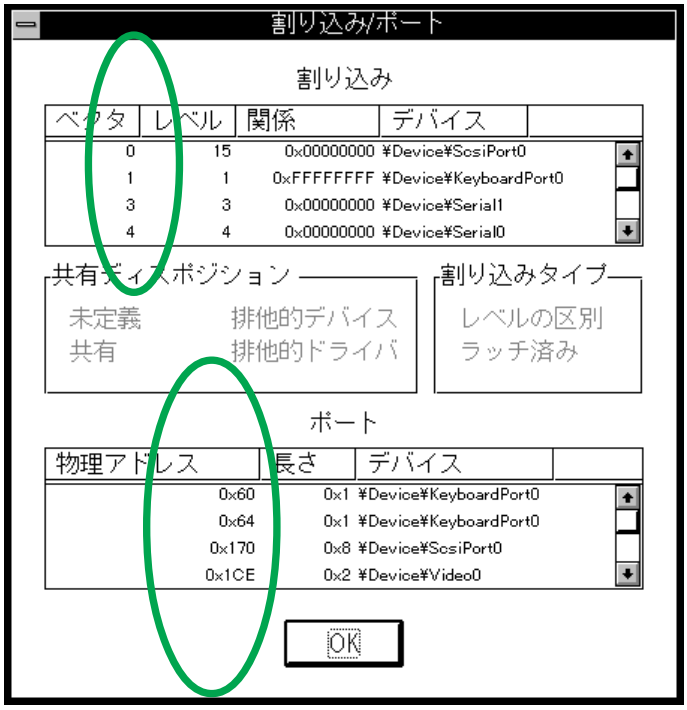
画面 2.1　Windows NT 診断プログラムの起動

2.　「IRQ/ ポートの状態」を選択します。



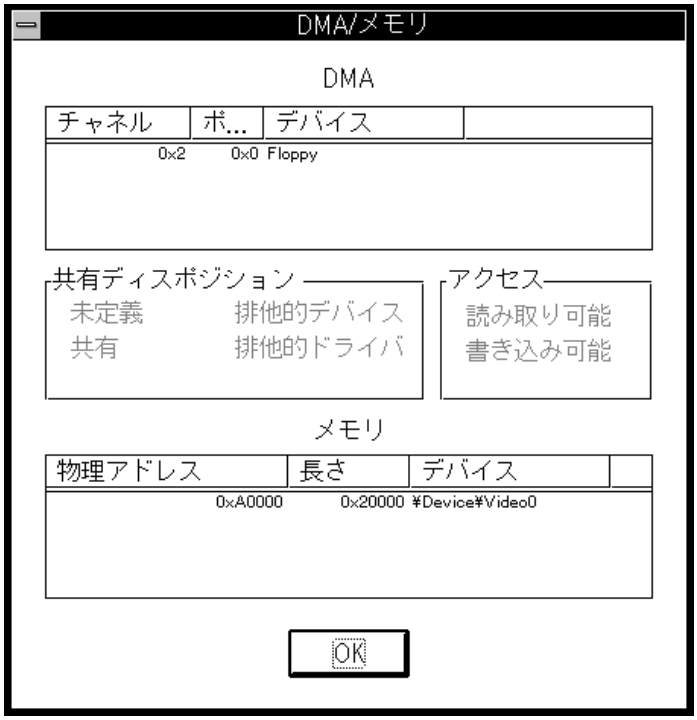
画面 2.2　IRQ/ ポートの状態

3. 「割り込み／ポート」画面が表示されます。割り込み（IRQ）は「ベクタ」を、ポート（I/O アドレス）は「物理アドレス」の欄を、それぞれご覧の上、空き状況を確認してください。



画面 2.3　リソースの表示（IRQ, I/O Base Address）

4. 次に、メモリの空き状況を調べます。手順 2 に戻り、「DMA/ メモリ ...」を選択します。下の画面が表示されます。



画面 2.4　リソースの表示（メモリ）

5. Windows NT 診断プログラムを終了します。

5.3　ドライバーのインストール

1.　「コントロールパネル」の「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

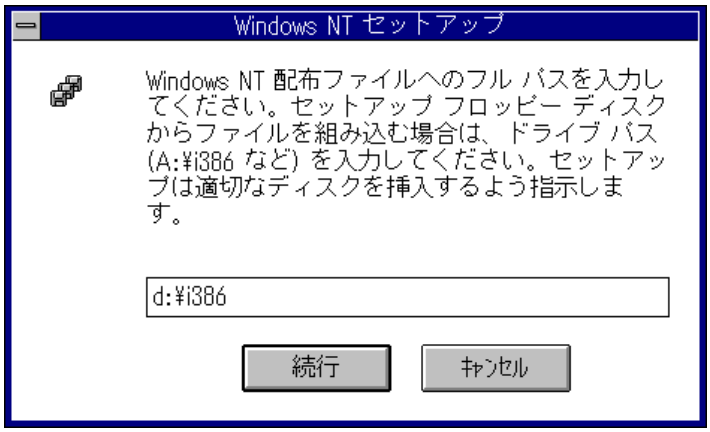
画面 3.1　ネットワーク（コントロールパネル）

2.　「直ちにネットワークを組み込みますか？」の問いに対して、「はい」をクリックしてください。

画面 3.2

3.　「Windows NT セットアップ」が起動します。Windows NT の CD-ROM またはフロッピーディスクをドライブに挿入し、Windows NTの配布ファイルへのフルパス（AT 互換機では「I386」、PC-98 では「PC98」となります）を入力します。（ここでは、ドライブ名を D:と仮定します。）

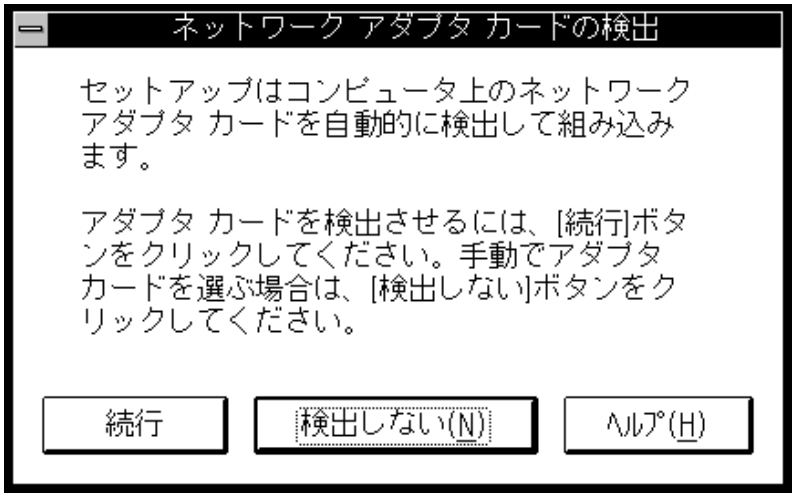
b5001.tif



画面 3.3

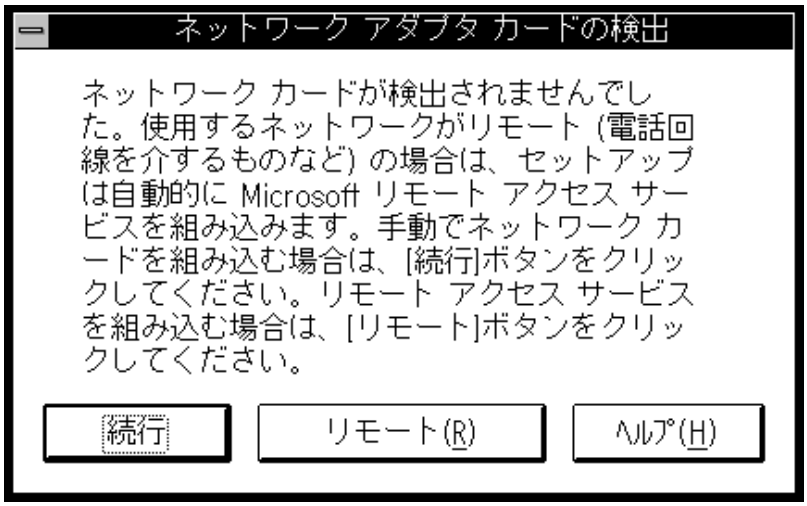
†　ネットワーク環境が既にインストールされている場合はこのダイアログは表示されず、「ネットワークの設定」が起動します。この場合は手順(10)に進み、本製品のみのインストールを実行してください。

4. 「検出しない」をクリックしてください。



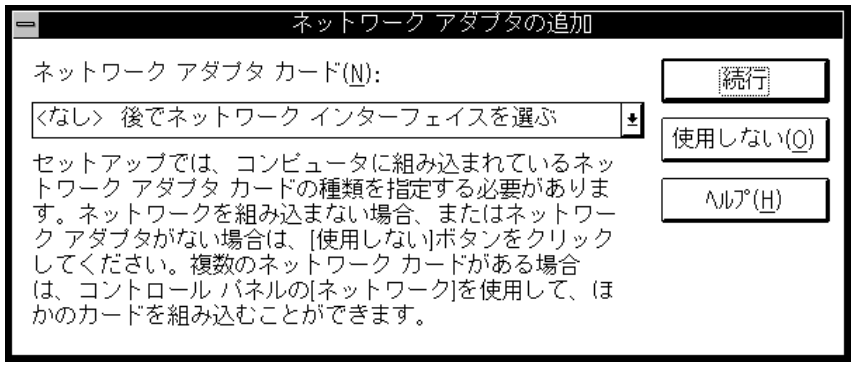
画面 3.4　ネットワークアダプタカードの検出

5. 「続行」をクリックしてください。



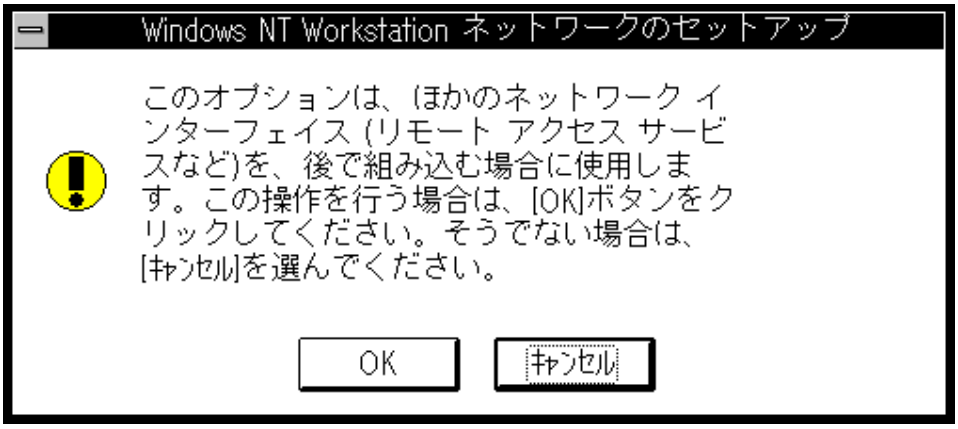
画面 3.5　ネットワークアダプタカードの検出

6. 「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタカード(N):」リストボックスで最下行の「<なし>後でネットワーク インターフェイスを選ぶ」を選択し、「続行」をクリックします。



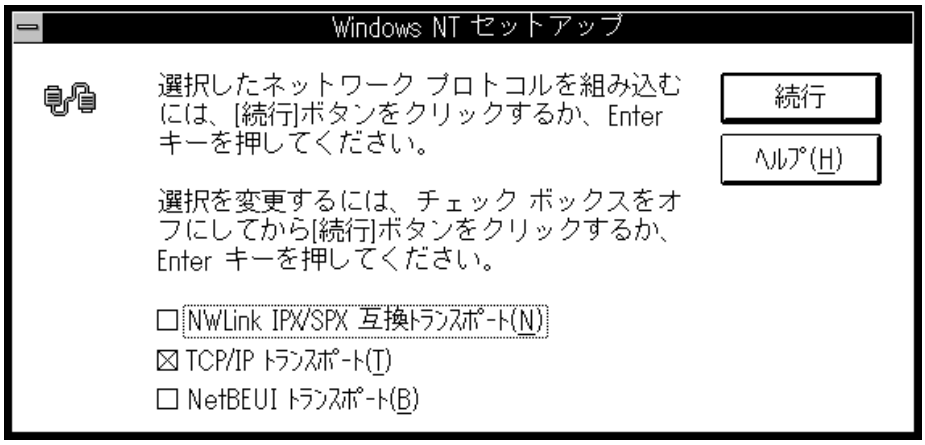
画面 3.6

7. 「OK」をクリックします。



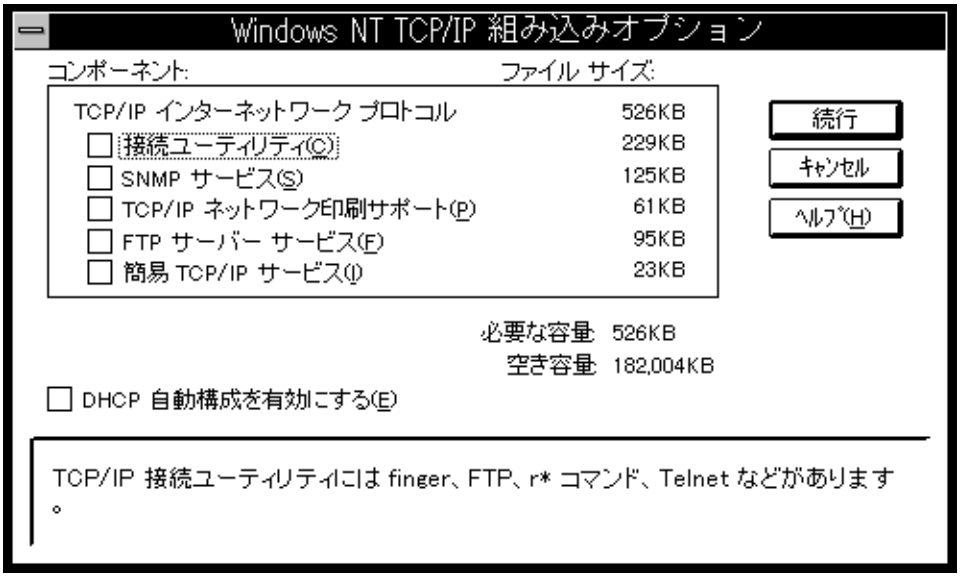
画面 3.7

8. ネットワークで使用されているプロトコルをチェックして「続行」をクリックします。お客様のネットワークでどのようなプロトコルが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。ここではTCP/IPのみをチェックすると仮定します。



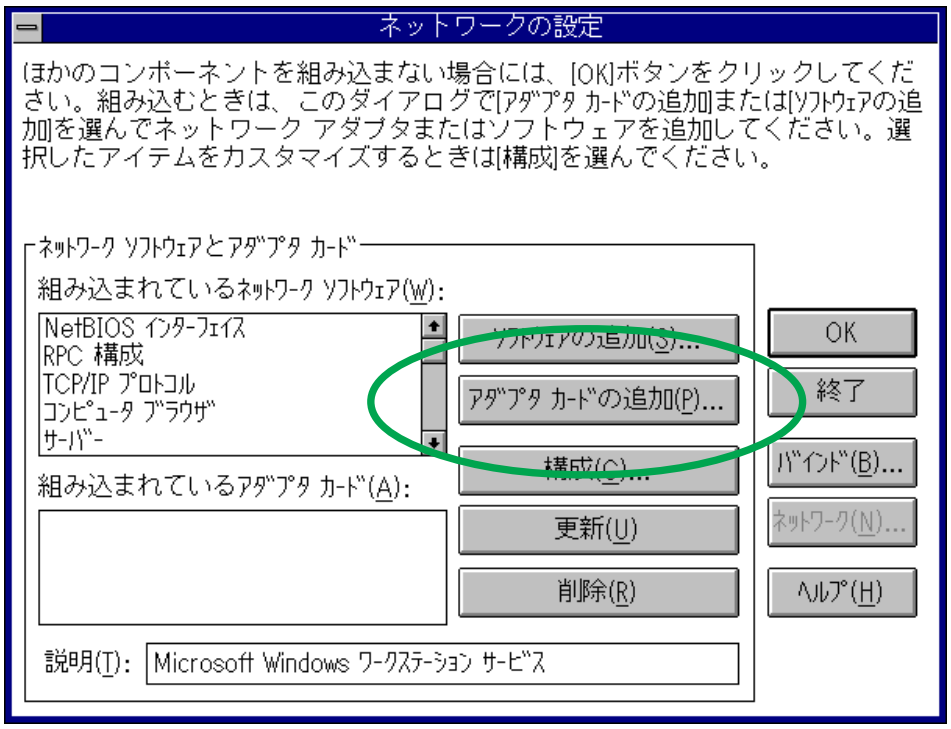
画面 3.8　プロトコルの選択

9. 手順8でTCP/IPを選択した場合はTCP/IPオプションに関する設定画面が表示されます。お客様の環境に合わせて適宜設定し、「続行」をクリックして下さい。



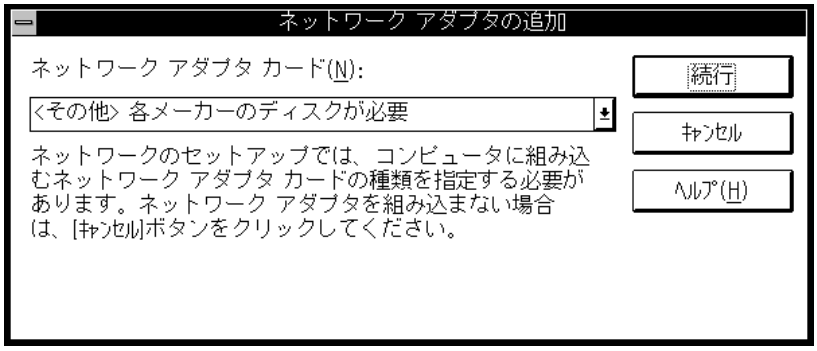
画面 3.9　TCP/IP オプションの選択

10. 「ネットワークの設定」ダイアログが表示されます。「アダプタカードの追加(P)」をクリックして下さい。



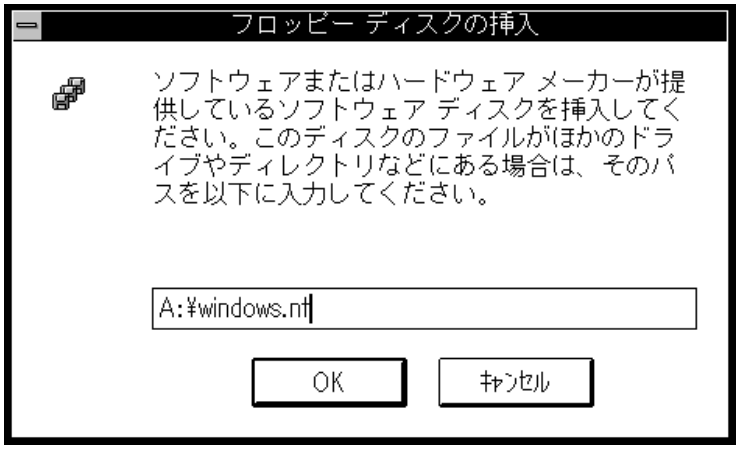
画面 3.10　アダプタカードの追加

11. 「ネットワークアダプタの追加」ダイアログが表示されます。「ネットワークアダプタカード(N)」リストから最下行の「＜その他＞各メーカーのディスクが必要」を選択し、「続行」をクリックします。



画面 3.11　ネットワークアダプタの追加

12. ドライバーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、パス "A:**\windows.nt**" を入力してください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）

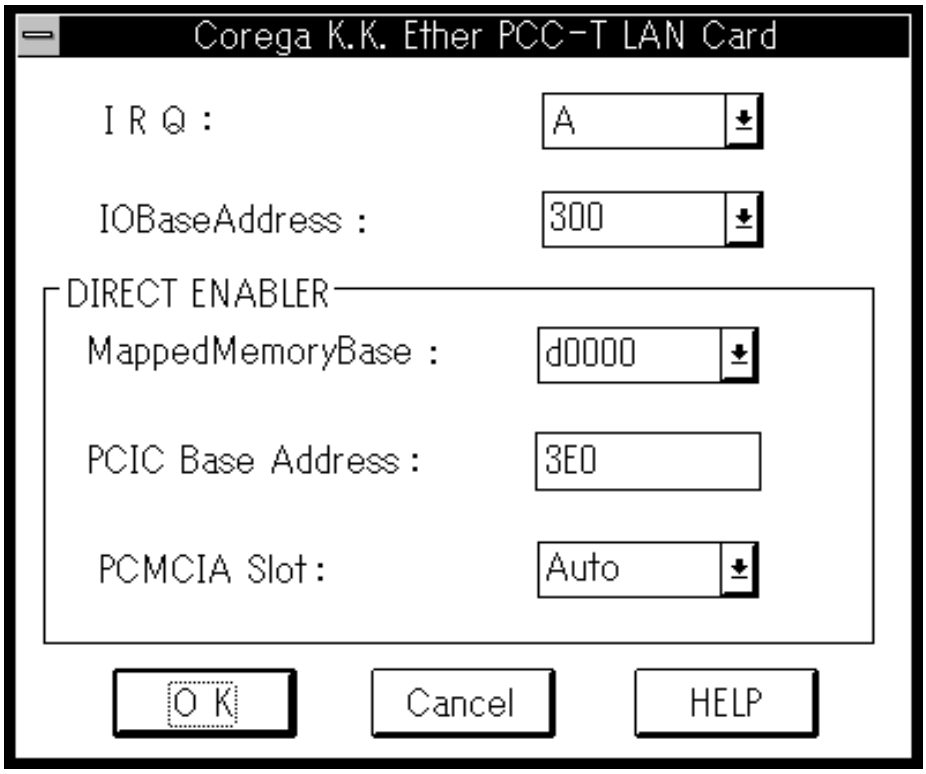


画面 3.12　パスの入力

13. 「corega Ether PCC-T Adapter」がアクティブになっていることを確認して、「OK」をクリックして下さい。

画面 3.13

14. 続いて本製品の設定画面が表示されます。適切な設定値を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。下記画面は、AT互換機/PC98-NXにおけるデフォルトの例です。PC-9800/PC-9821の場合、デフォルトのIRQは「**5**」となります。



画面 3.14　AT互換機/PC98-NXの例

1. IRQ、IOBaseAddress

これら2項目は他のデバイスと重複しない適切な数値を選択してください。

2. DIRECT ENABLER（次ページの**参考**もご覧ください）

AT互換機/PC98-NXをご使用の場合、「Direct Enabler」に関する3項目について設定します。基本的に、表示されているデフォルト値のままで変更は必要ありませんが、本アダプターがうまく動作しないとき、下記の手順にしたがって設定を行ってください。
PC-9800/PC-9821をご使用の場合、デフォルト値のままご使用ください。

Mapped Memory Base

他のデバイスと重複しない適切な数値を選択してください。

PCIC Base Address

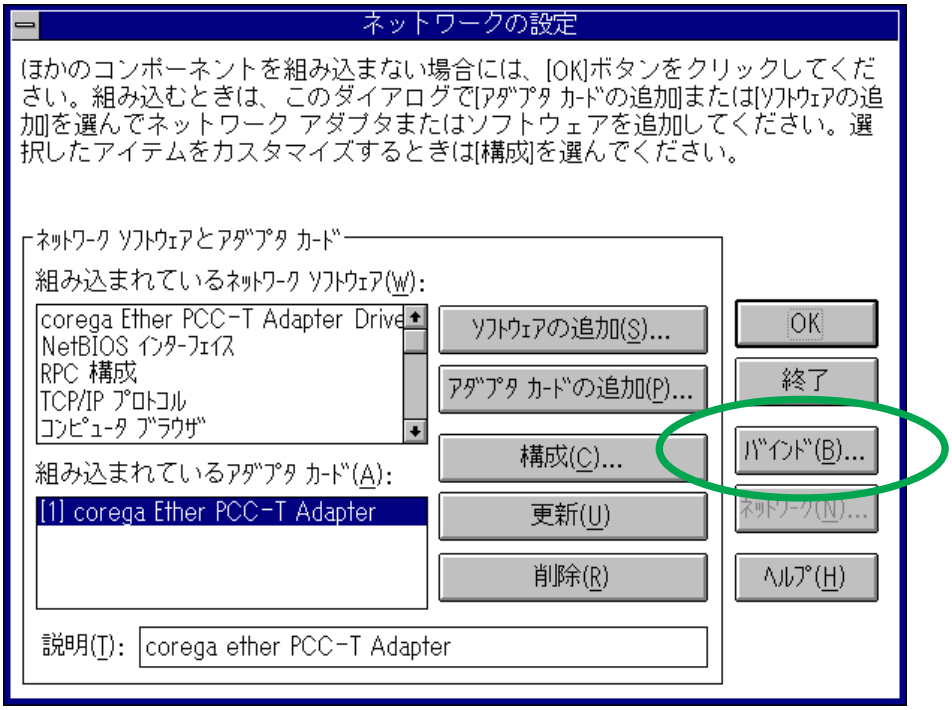
ホストPCMCIAコントローラアドレスの値を指定します。デフォルト値は3E0hです。一般的に、コンピュータのホストPCMCIAコントローラアドレスの値は**0x3E0**（PCMCIA Release2.1規格による推奨値）に設定されていますが、コンピュータの機種によっては異なる値を使用しているもの

もありますので､必ずご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。

PCMCIA Slot

本製品を挿入しているPCカードスロットの番号（1または2）を指定します。デフォルトはAuto（自動選択）ですが、できる限り番号で指定してください。スロットの番号は「1」「2」で指定しますが、ご使用のコンピュータが異なる表記を用いている場合もあります。一般的には「0」「1」で表記されている場合は「0」→「1」、「1」→「2」、「上」「下」で表記されている場合は「上」→「2」、「下」→「1」と置き換えればよいようですが､機種によっては逆の場合もありますので､必ずコンピュータのマニュアルでご確認ください。

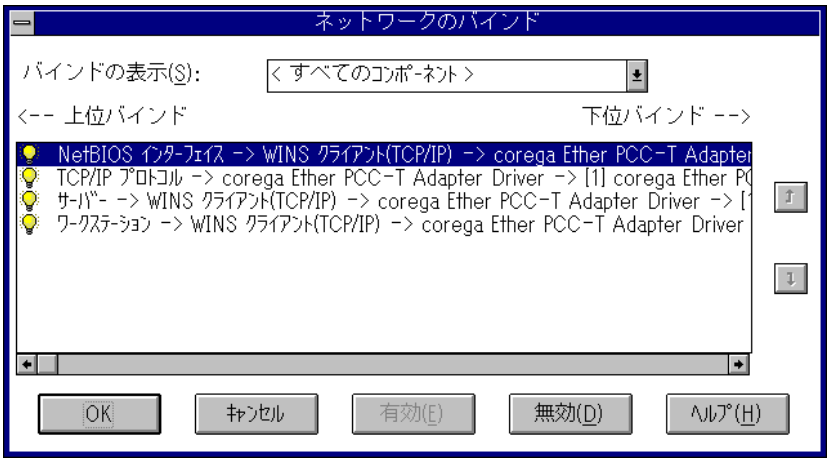
15. 「バインド」をクリックしてください。



画面 3.15

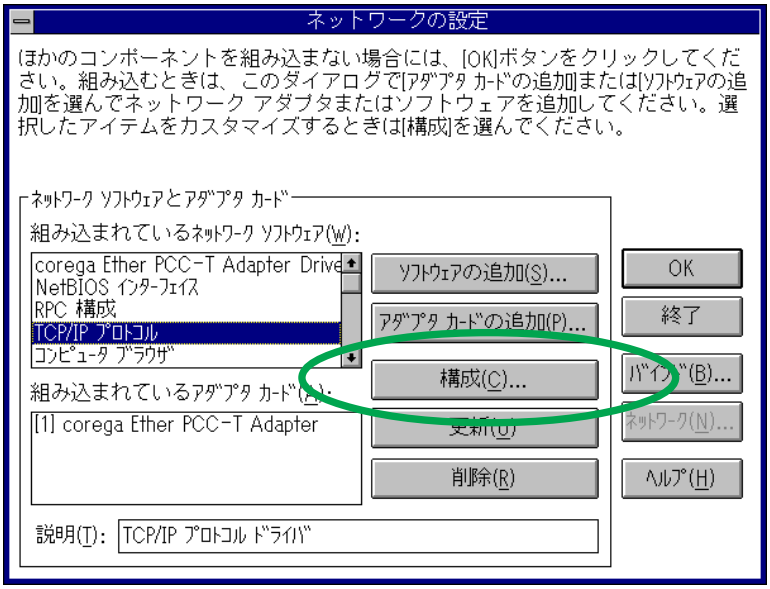
（**参考**）**DIRECT ENABLER**：本ドライバーには、PCMCIA.SYSを使用せず、直接PCMCIAコントローラ（PCIC）を制御して本製品を活性化する機能であるDirect Enablerが組み込まれています。Direct Enablerは、本製品を活性化するためにPCIC Base Addressを使用します。ほとんどのコンピュータのPCIC Base Addressは「PCMCIA Release2.1規格」の推奨値である「**0x3E0**」となっています。しかしながら、推奨値ではないコンピュータも存在しますので、この場合はDirect Enablerにコンピュータが使用しているPCIC Base Addressの値を設定してやる必要があります。

16. 使用するプロトコルスタックを選択し、「OK」をクリックしてください。プロトコルスタックが本製品にバインドされます。



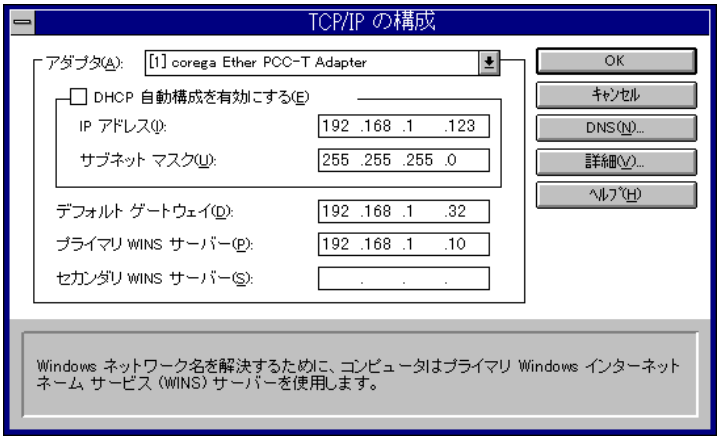
画面 3.16　プロトコルの選択

17. 続いてソフトウェアの設定を行います。ここではTCP/IPの場合について説明します。「TCP/IP プロトコル」を選択し、「構成(C)...」をクリックしてください。

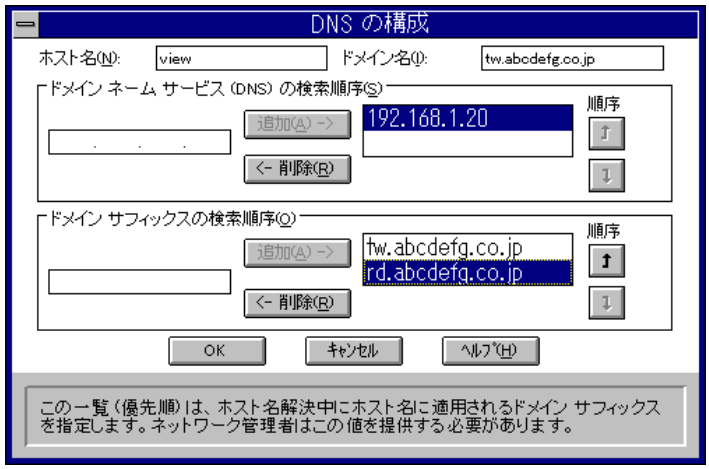


画面 3.17　TCP/IP のカスタマイズ

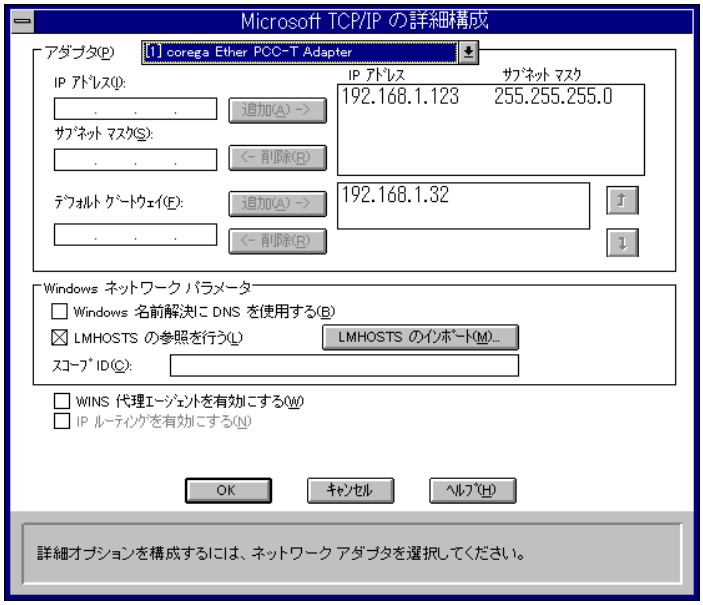
18. TCP/IP の設定を行います。設定内容についてはネットワーク管理者にご確認下さい。以下は起動時の画面です。設定を終えたら「OK」をクリックしてください。



画面 3.18　TCP/IP の構成（起動時）

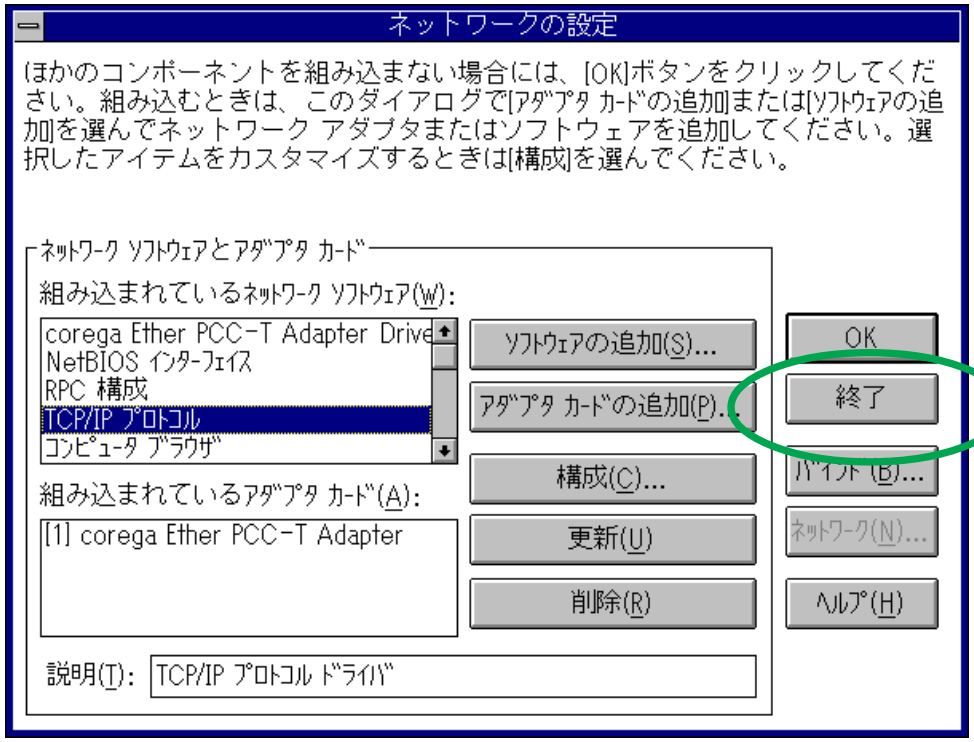


画面 3.19　DNS の構成（画面 3.18 で「DNS」をクリック）



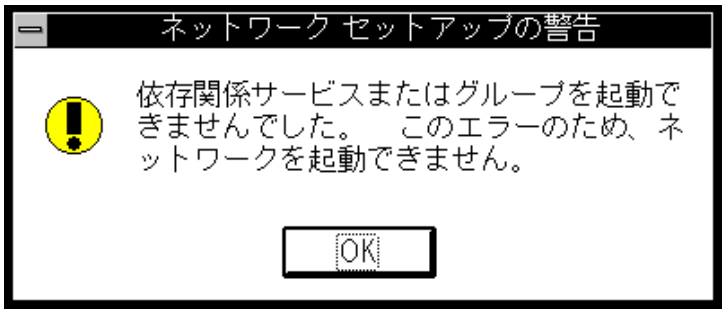
画面 3.20　TCP/IP の詳細設定（画面 3.18 で「詳細」をクリック）

19. 必要に応じて他のネットワークソフトウェアを追加またはカスタマイズし、「終了」をクリックします。（詳細はネットワーク管理者にご確認下さい。）



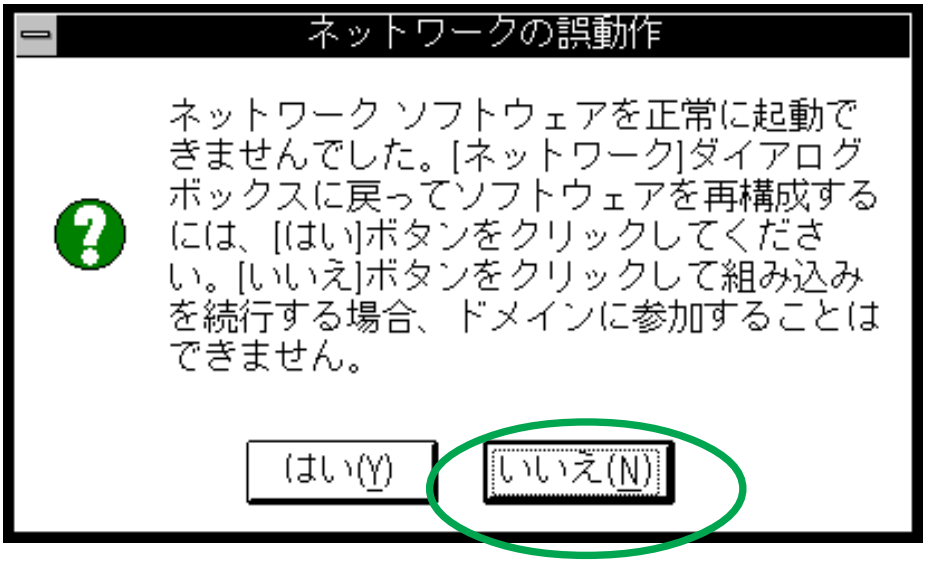
画面 3.21　ネットワークセットアップの終了

20. ここで、下のダイアログが表示されます。「OK」をクリックしてください。



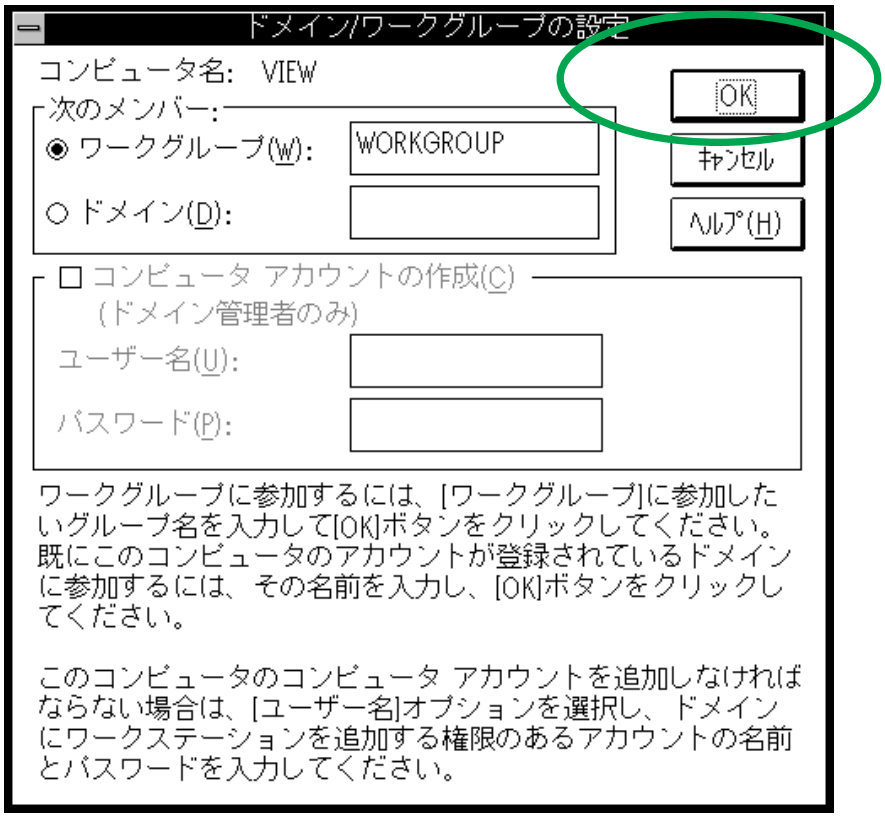
画面 3.22

21. 下のダイアログが表示されたら、「いいえ」をクリックしてください。



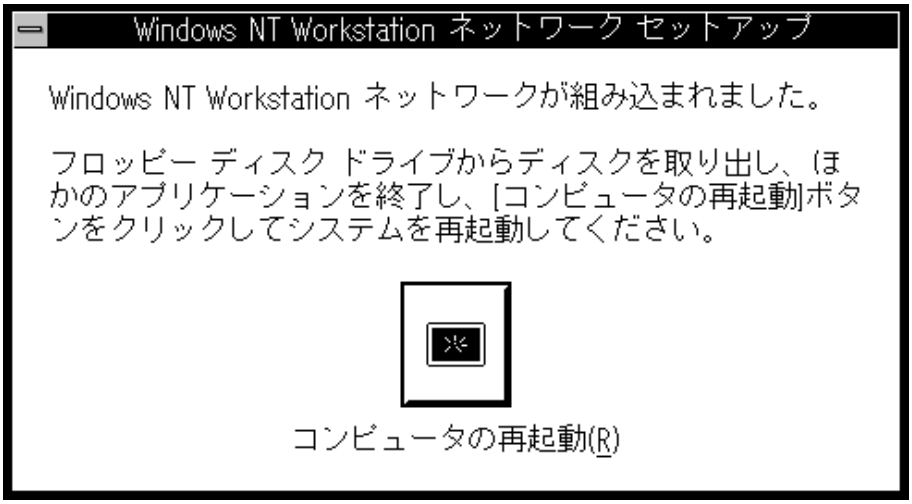
画面 3.23

22. 参加するドメイン／ワークグループを設定し「OK」をクリックします。詳細はシステム管理者にご相談ください。



画面 3.24

23. 下の画面が表示されたらフロッピーディスクをディスクドライブから取りだし、「コンピュータの再起動」アイコンをクリックして再起動します。これで設定内容が有効化されます。

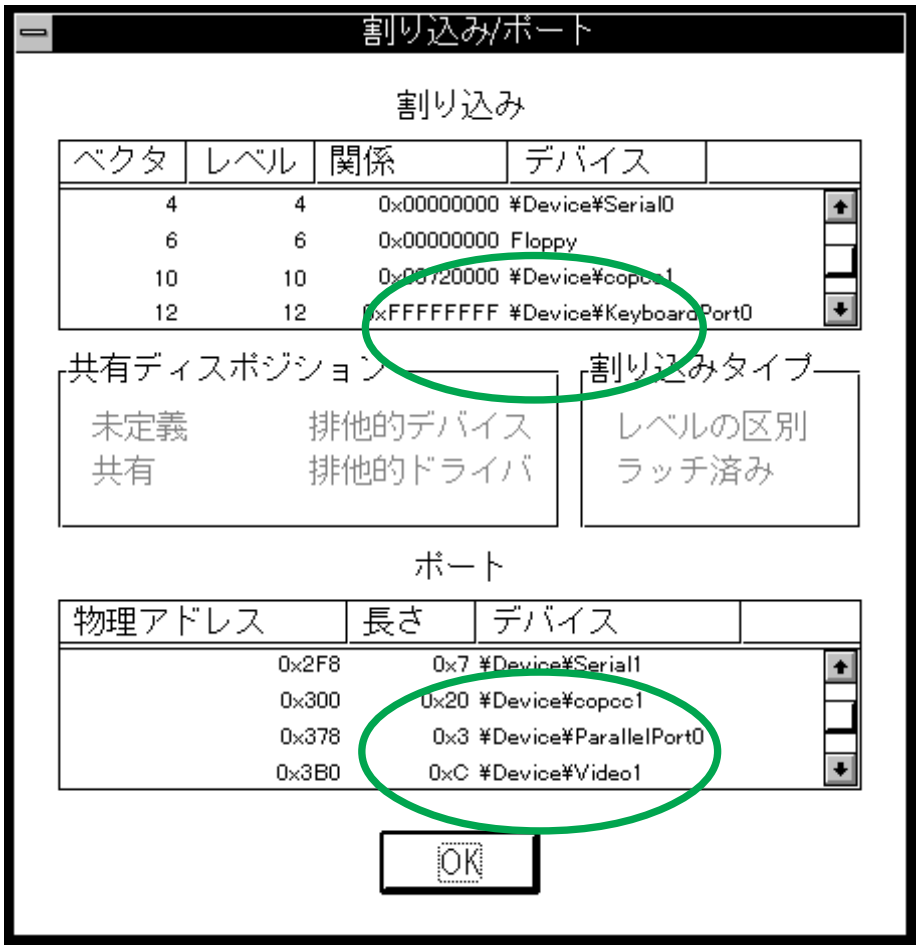


画面 3.25

5.4　インストール後

5.4.1　リソースの確認

コンピュータを再起動すると、本製品にリソースが割り当てられ、使用可能な状態となります。Windows NT診断プログラムでデバイス「**COPCC***」（*は番号）にインストール時に指定した値が割り当てられていることを確認してください（ただし、表示されるのは「割り込み／ポート」のみで、「メモリ」では表示されません）。



画面 4.1　割り込み／ポート

5.4.2　本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき（＝PCカードスロットに本製品が挿入されていない、またはネットワークケーブルをメディアケーブルから外している場合など）はドライバーをアンロード（バインドしない）してください。ドライバーがロードされたまま前述のことを行った場合、Windows NTはこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

手順

(1)　「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「ネットワークの設定」→「バインド(B)..」と進みます（画面 3.15 ～ 3.16 参照）。

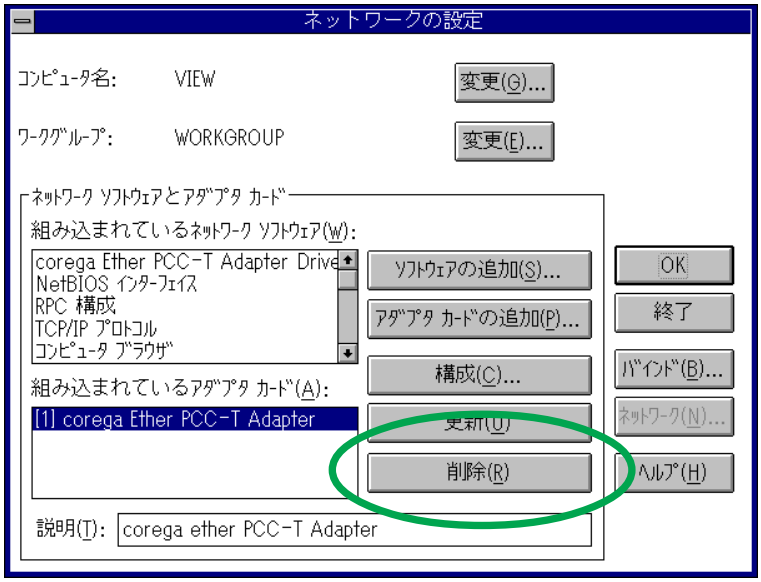
(2)　本製品に関する項目全てについて、左端の電球のマークをクリックして電球が消えている状態にしてください。

5.5　ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます)。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

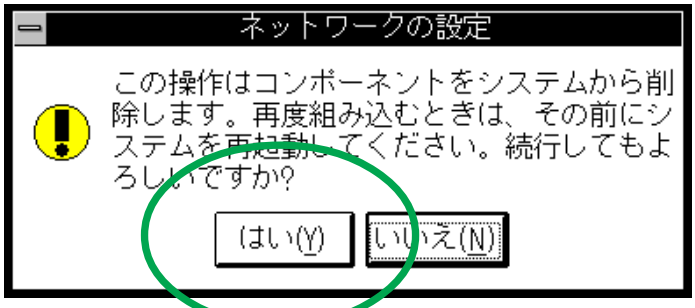
5.5.1　ドライバーの削除

1. 「プログラムマネージャ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワークの設定」ダイアログを表示します。「組み込まれているアダプタカード」リストから「corega Ether PCC-T」を選択し、「削除」をクリックします。



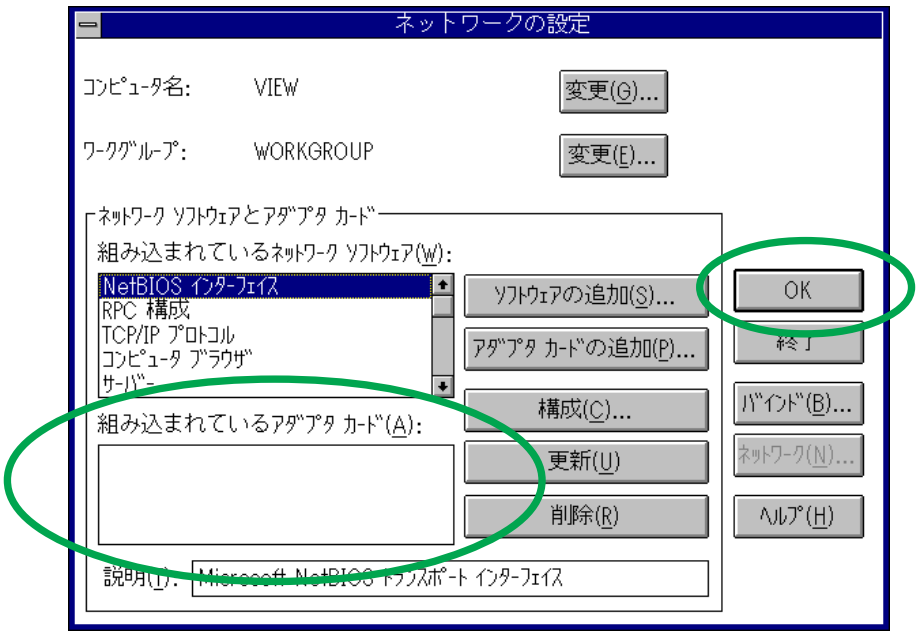
画面 5.1

2. 「はい」をクリックします。



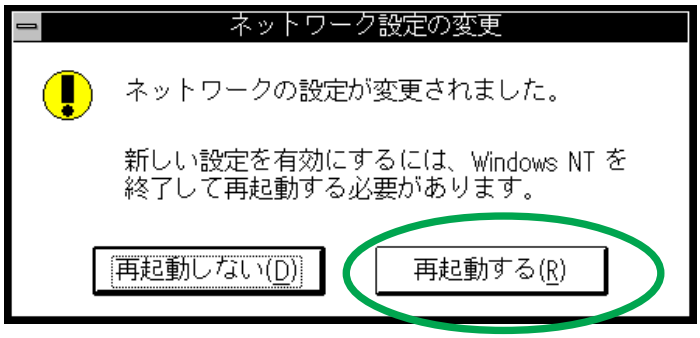
画面 5.2

3. 「組み込まれているアダプタカード」から「corega Ether PCC-T Adapter」が消えていることを確認して「OK」をクリックします。



画面 5.3

4. 「再起動する」をクリックして、（フロッピーディスクがドライブに入っている場合は取り出して）コンピュータを再起動します。



画面 5.4

5.5.2 再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合はネットワーク（コントロールパネル）を起動し、「アダプタカードの追加..」をクリックして下さい。（「5.3 ドライバーのインストール」の手順10から再開することになります。）

6　Windows NT Ver. 4.0

第6部では、本製品のドライバーをWindows NT Ver.4.0上にインストールする手順を説明します。なお、本マニュアルでは、Windows NT Workstation を用いて説明を行います。

6.1　準備と確認

本製品のインストールを始める前に、以下のことをご確認ください。
各操作・設定の手順についてはWindows NTのマニュアル・ヘルプをご覧ください。

Windows NTのハードウェア互換性リスト（Windows NTパッケージに同梱されています）に挙げられていないコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、お客様の責任においてご使用ください。それらのコンピュータ機種で本製品をご使用になる場合は、ユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

本マニュアルに記載した内容は一例であり、お客様の使用するコンピュータやネットワーク環境によって、手順や表示画面が異なることがあります。予めご了承ください。

本製品のインストールをWindows NTのインストールと同時に行うことは避けて下さい。必ず、Windows NTのインストールを完了したあとで、本製品のインストールを行って下さい。Windows NTはPlug&Playをサポートしていないため、Windows NTと本製品のインストールを同時に行うと、Windows NTのインストール中に本製品が使用するハードウェアリソースが他のデバイスと重複するおそれがあり、重複の回避に手間取ることがあります。

Windows NTでは活線挿抜（コンピュータの電源を入れたままでカードの抜き挿しを行うこと）はできません。本製品の挿抜を行う際には必ずコンピュータの電源がOFFになっていることをご確認下さい。誤って活線挿抜を行った場合に起こった障害についてはユーザーサポートの対象外とさせていただきますので予めご了承ください。

6.2　ドライバーのインストール

それでは、インストールを始めます。ここでは、「ネットワークアダプター用ドライバーを含むネットワーク環境が全くインストールされていない」場合の†インストール手順について説明します。また、Windows NT が要求する問い合わせに対して、基本的にはデフォルトで答えると仮定しています。

† 「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。

6.2.1　準備

用意するもの

1. カード本体・メディアケーブル等
2. コンピュータ（Windows NT 4.0 インストール済み）
3. Windows NT の CD-ROM
4. ドライバーディスク（2 種類のディスクが付属しています。コンピュータ機種に応じてご使用ください）

インストールの前に

1. コンピュータの電源をオフにし、本製品をコンピュータの PC カードスロットに挿入します。
2. 本製品をネットワークに接続します。

6.2.2　リソースの確認

6.2.2.1　概要

Windows NTはPlug & Play をサポートしていないため、本製品が使用するリソースの値をドライバーのインストール時に設定する必要があります。そのため、ドライバーをインストールする前にリソースの空き状況を調べる必要があります†。

本製品のドライバーに組み込まれているリソースの工場出荷時の値（6.2.2.2項参照）が、他のデバイスによって既に使用されている場合は重複を避けるため本製品の使用する値を変更します。（設定はドライバーのインストール時に表示される設定ダイアログで行います。）そのため、ドライバーをインストールする前に値が重複していないかを確認し、重複している場合は空いている値を調べて下さい。

リソースの状況を調べるには、コンピュータメーカーで予め定めてあるデバイスについてはコンピュータのマニュアルをご覧ください。また、本製品を含む拡張デバイスが追加されているコンピュータについては「Windows NT診断プログラム」（6.2.2.3項参照）を使用するとそれらの拡張デバイスを含む、リソースの割り当て状況を確認できます。

† コンピュータに予め組み込まれているデバイスの中には「Windows NT診断プログラム」上に表示されないものがありますので、必ずコンピュータのマニュアルと「Windows NT診断プログラム」の２つを用いて確認を行って下さい。

6.2.2.2　リソースの値

工場出荷時の値および設定可能な値の範囲は以下の通りです。

I/Oベースアドレス

初期設定値　0x300
設定可能な値　0x200、0x220、0x240、0x260、0x280、0x2A0、0x2C0、0x2E0、
0x300、0x320、0x340、0x360、0x380、0x3A0、0x3C0、0x3E0

IRQ（AT互換機/PC98-NX）

初期設定値　10(A)
設定可能な値　3, 4, 5, 7, 9, 10(A), 11(B), 15(F)

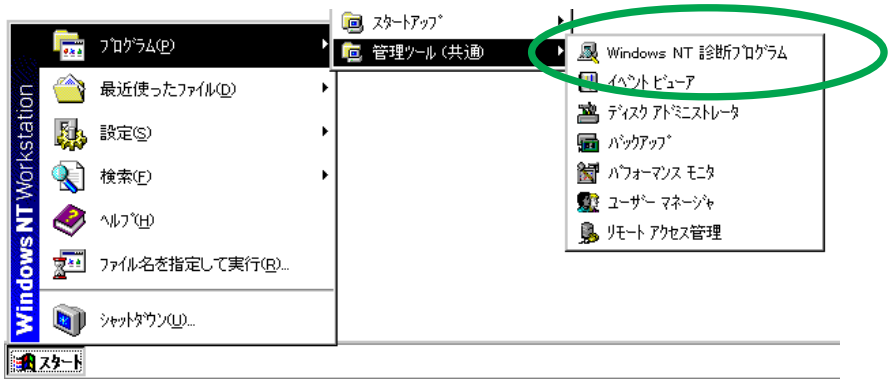
IRQ（PC-9800/PC-9821）

初期設定値　5
設定可能な値　3, 5, 6, 10(A), 12(C)

6.2.2.3　Windows NT診断プログラムの使用方法

注：ここではPC-98を使用して説明します。

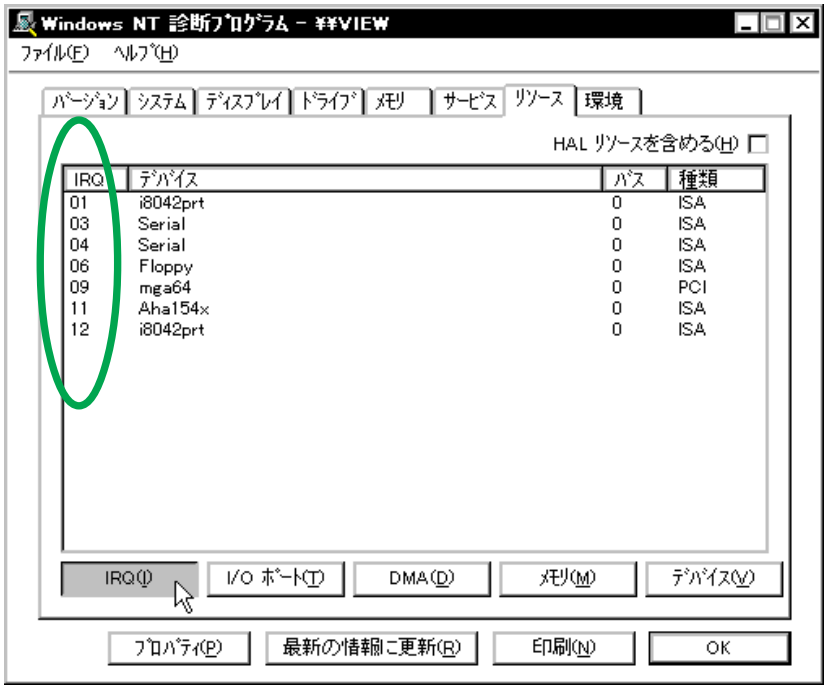
1.　「スタート」→「プログラム」→「管理ツール」→「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。



画面 2.1　Windows NT 診断プログラムの起動

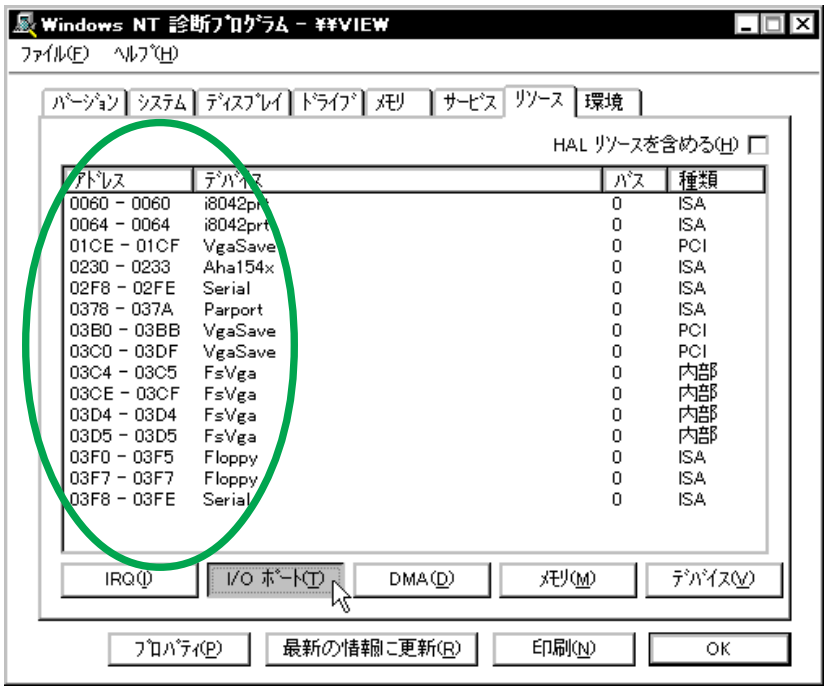
2.　「リソース」タブを選択します。この段階では「IRQ」（インタラプト）の画面が表示されています。IRQ の空き状況を確認してください。

b6001.tif



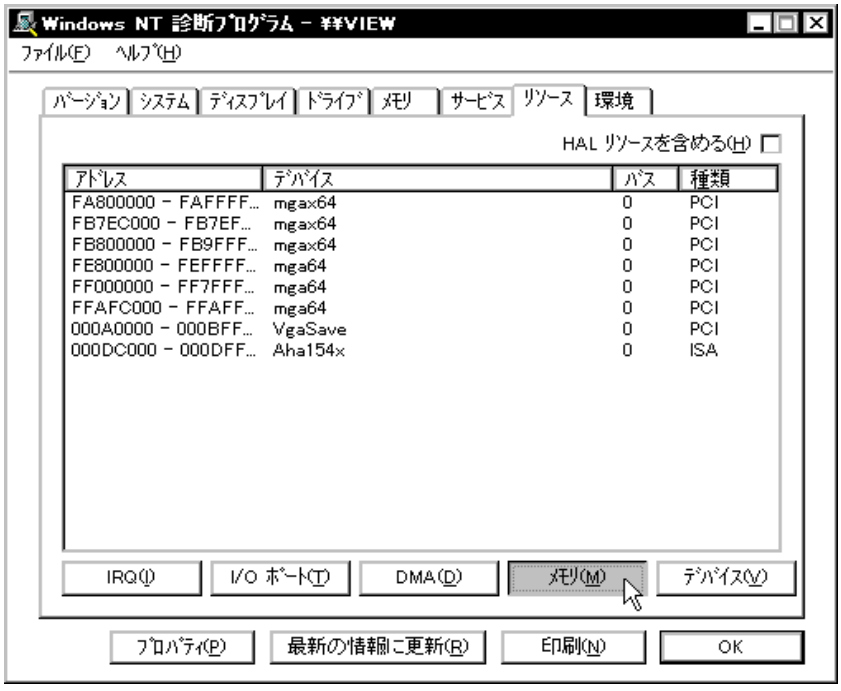
画面 2.2　リソースの表示（IRQ）

3. 「I/O ポート」タブを選択し、I/O Base Address (「アドレス」の先頭値) の空き状況を確認してください。


Windows NT 診断プログラム - ¥¥VIEW
ファイル(F) ヘルプ(H)
バージョン システム ディスプレイ ドライブ メモリ サービス リソース 環境
HAL リソースを含める(H)
アドレス デバイス バス 種類
0060 - 0060 i8042prt 0 ISA
0064 - 0064 i8042prt 0 ISA
01CE - 01CF VgaSave 0 PCI
0230 - 0233 Aha154x 0 ISA
02F8 - 02FE Serial 0 ISA
0378 - 037A Parport 0 ISA
03B0 - 03BB VgaSave 0 PCI
03C0 - 03DF VgaSave 0 PCI
03C4 - 03C5 FsVga 0 内部
03CE - 03CF FsVga 0 内部
03D4 - 03D4 FsVga 0 内部
03D5 - 03D5 FsVga 0 内部
03F0 - 03F5 Floppy 0 ISA
03F7 - 03F7 Floppy 0 ISA
03F8 - 03FE Serial 0 ISA
IRQ(I) I/O ポート(T) DMA(D) メモリ(M) デバイス(V)
プロパティ(P) 最新の情報に更新(R) 印刷(N) OK

画面 2.3　リソースの表示（I/O Base Address）

4. 「メモリ」タブを選択します。同様に空き状況を確認してください。


Windows NT 診断プログラム - ¥¥VIEW
ファイル(F) ヘルプ(H)
バージョン システム ディスプレイ ドライブ メモリ サービス リソース 環境
HAL リソースを含める(H)
アドレス デバイス バス 種類
FA800000 - FAFFFF... mgax64 0 PCI
FB7EC000 - FB7EF... mgax64 0 PCI
FB800000 - FB9FFF... mgax64 0 PCI
FE800000 - FEFFFF... mga64 0 PCI
FF000000 - FF7FFF... mga64 0 PCI
FFAFC000 - FFAFF... mga64 0 PCI
000A0000 - 000BFF... VgaSave 0 PCI
000DC000 - 000DFF... Aha154x 0 ISA
IRQ(I) I/O ポート(T) DMA(D) メモリ(M) デバイス(V)
プロパティ(P) 最新の情報に更新(R) 印刷(N) OK

画面 2.4　メモリ

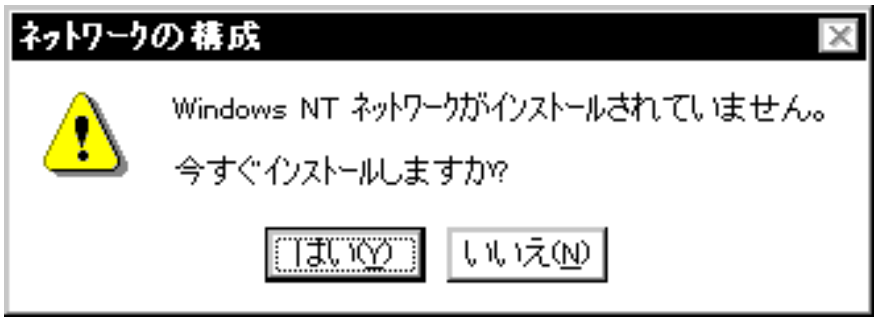
5. Windows NT 診断プログラムを終了します。

6.3　ドライバーのインストール

(1)　「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」と進み、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックしてください。

画面 3.1 「ネットワーク」（コントロールパネル）

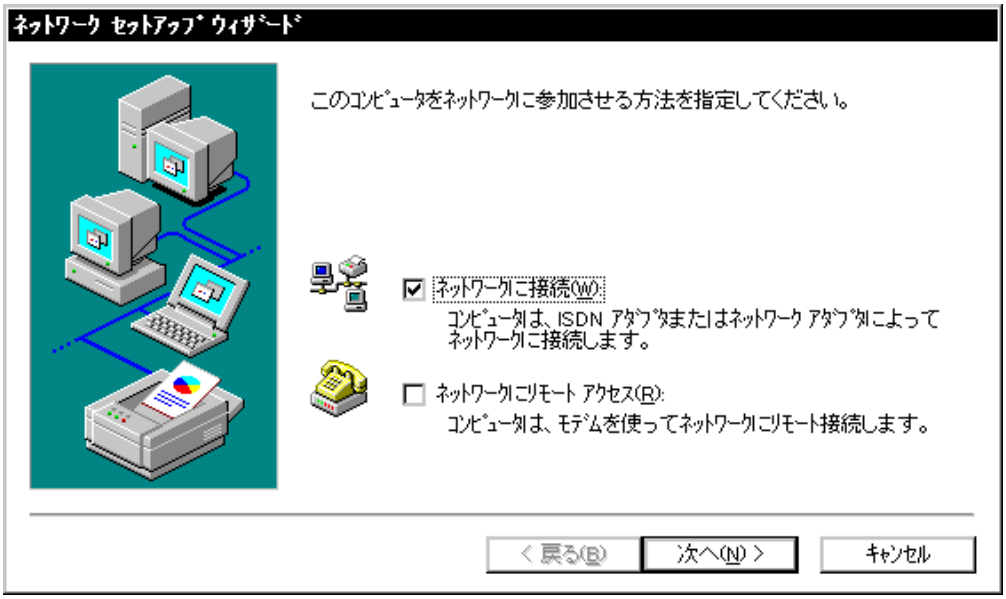
(2)　下のダイアログが表示されます†1。「今すぐインストールしますか？」の問いに対して、「はい (Y)」をクリックしてください。



画面 3.2

†1「Windows NT ネットワークのインストール」で「まだネットワークに接続しない (D)」を選択したとき、このダイアログが表示されます。このダイアログではなく「ネットワーク」パネルが表示された場合は、既にネットワークに関する WindowsNT ファイルがインストールされています。この場合は「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブ→「追加」と進むと、手順(4)の画面 3.4 が表示され、本製品のみのインストールが始まります。

(3)　「ネットワークセットアップウィザード」ダイアログが表示されます。「ネットワークに接続 (W):」にチェックマークを付け、「次へ (N)>」をクリックしてください。

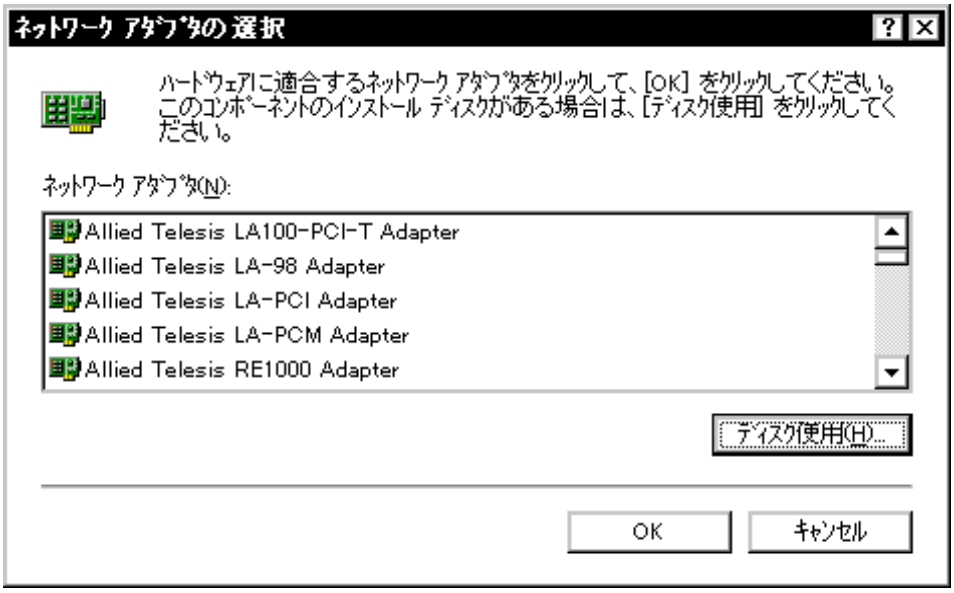


画面 3.3

(4)　画面3.4が表示されたら、「一覧から選択 (S)...」をクリックしてください。

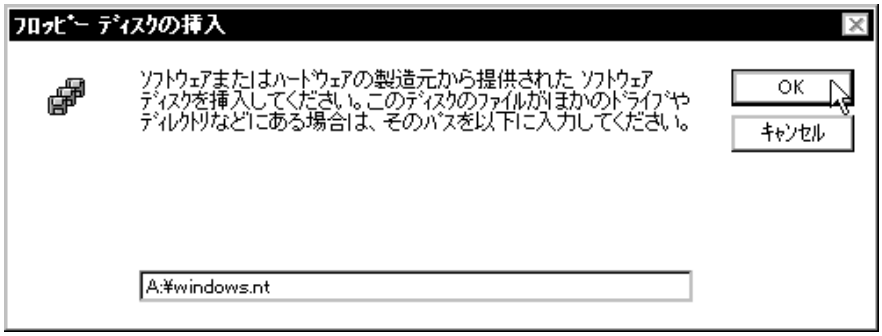
画面 3.4

(5)　「ディスク使用」をクリックしてください。



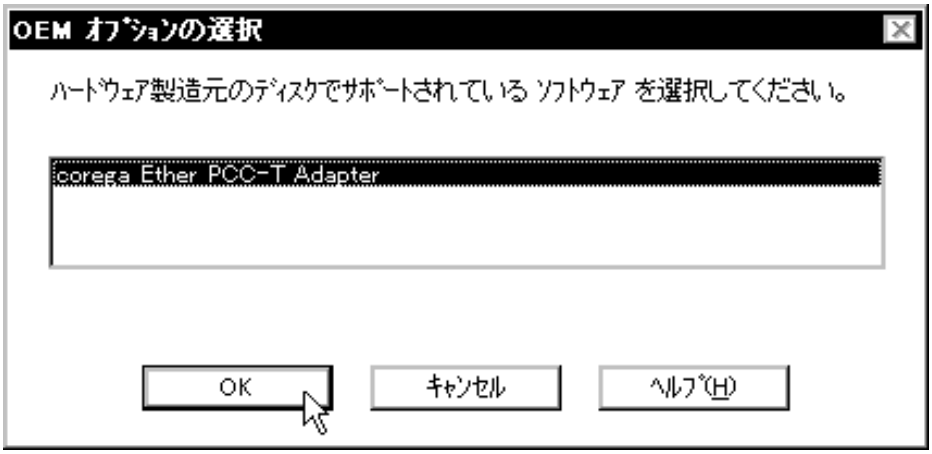
画面 3.5

(6)　下のダイアログが表示されますので、ドライバーディスクをディスクドライブに挿入し、パス「A:**\windows.nt**」を入力し、「OK」をクリックしてください。（ここでは、フロッピーディスクドライブを A:と仮定します。）



画面 3.6

(7)　「corega Ether PCC-T Adapter」を選択し、「OK」をクリックしてください。



画面 3.7

(8)　「ネットワークアダプタ (A):」の「corega Ether PCC-T Adapter」にチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。

画面 3.8

(9)　使用するネットワークプロトコルにチェックマークを付け、「次へ (N):」をクリックしてください。(詳細はシステム管理者にご相談ください。) ここでは、「TCP/IP プロトコル」のみをチェックすると仮定します。

画面 3.9

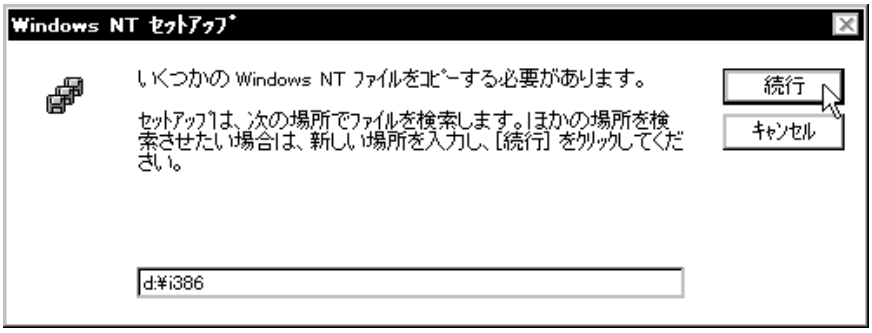
(10)　使用するサービスを設定し、「次へ (N)>」をクリックしてください。お客様のネットワークでどのようなサービスが使用されているかは、システム管理者にご相談ください。

画面 3.10

(11)　メッセージを確認して、「次へ (N)>」をクリックしてください。

画面 3.11

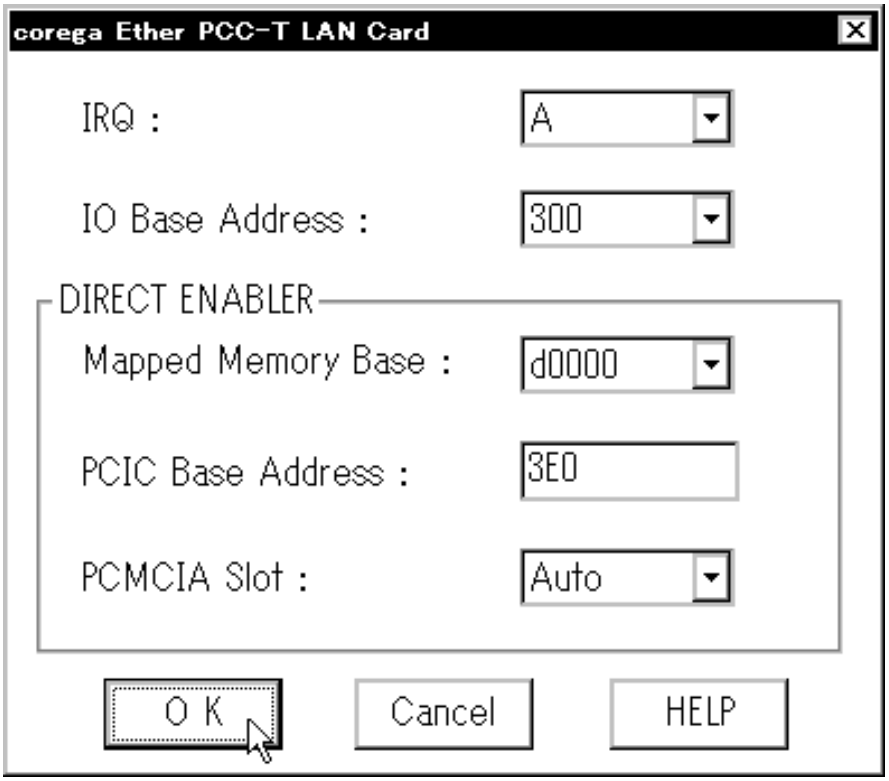
(12) Windows NT のインストール元のディレクトリを指定してください。AT 互換機の場合は「**\I386**」、PC-98 の場合は「**\PC98**」となります。（ここでは CD-ROM のドライブ名を E:と仮定します。）



画面 3.12

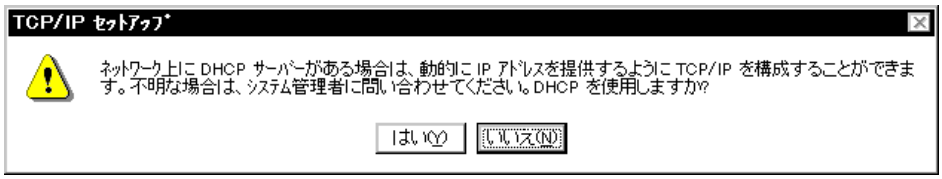
(13) 続いて、本製品の設定画面が表示されます。「**IRQ**（インタラプト）」と「**IOBase Address**（I/O ベースアドレス）」は他のデバイスと重複しない適切な設定値を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。下記画面は、**AT 互換機/PC98-NX** におけるデフォルトの例です。**PC-9800/PC-9821** の場合、デフォルトの IRQ は「**5**」となります。

DIRECT ENABLER に関する項目（MappedMemoryBase、PCIC Base Address、PCMCIA Slot）はデフォルトのままご使用ください。これらの項目は、Windows NT Version 4.0 により自動的に設定されるため、お客様による設定は不要です。



画面 3.13　AT 互換機 /PC98-NX の例

(14) ドライバーおよびWindowsファイルのコピーが始まります。手順(9)で「TCP/IP」を選択した場合はここで「DHCPを使用するか？」を質問されます。ここでは、デフォルトである「いいえ(N)」をクリックすると仮定します。



画面 3.14

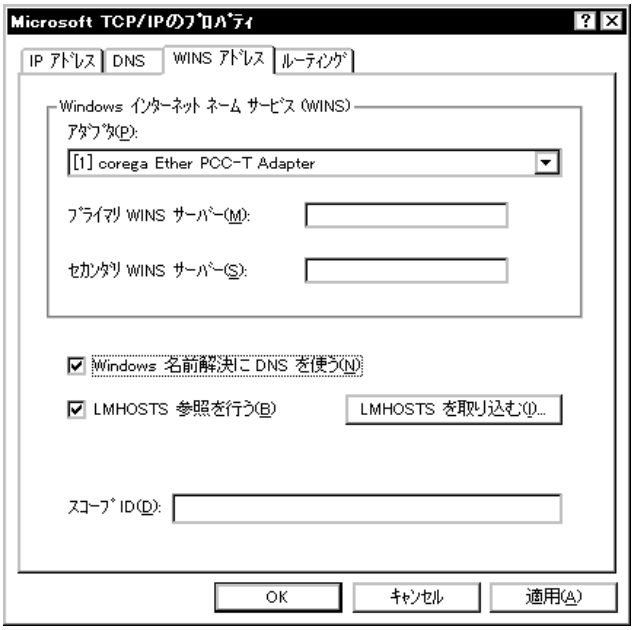
(15) (14)で「DHCPを使用しない」設定とした場合は「TCP/IPのプロパティ」としてIPアドレスなどの値を設定しなければなりません。これらの値は、お客様の環境における値を入力してください。

画面 3.15

(16) DNS (Domain Name System) の設定をします。「DNS」のタブをクリックして、各項目を設定してください。下は起動時の画面です。

画面 3.16

(17) 続いて、「WINS（Windows Internet Name Service）アドレス」の設定を行います。下の画面では、「Windows 名前解決に DNS を使う (N)」を仮定しました。



画面 3.17

必要であれば、さらに「ルーティング」の設定を行い†、最後に「OK」をクリックしてください。これらの設定の詳細についてはシステム管理者にご確認ください。

† この画面は Windows NT Workstation のものです。Windows NT Server をご使用の場合はさらに「DHCP リレー」タブがあります。DHCP リレーについての詳細は Windows NT Server のマニュアルまたはオンラインヘルプをご覧ください。

(18) 「次へ (N)」をクリックしてください。

画面 3.18

(19) 「次へ (N)」をクリックしてください。

画面 3.19

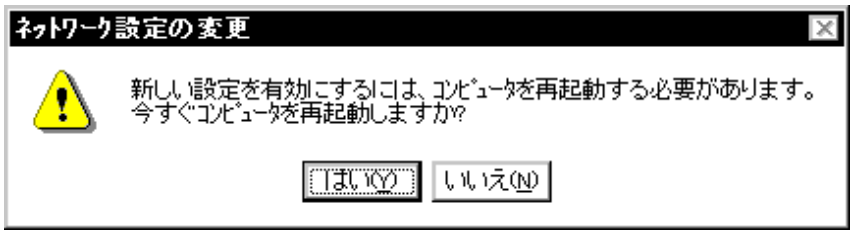
(20) 「次へ (N)」をクリックしてください。ここでは「ワークグループ (W)」をそのまま使用すると仮定します。詳細はシステム管理者にご確認下さい。

画面 3.20

(21) 「完了」をクリックしてください。

画面 3.21

(22) 「はい (Y)」をクリックし、(フロッピーディスクを取り出して) コンピュータを再起動してください。

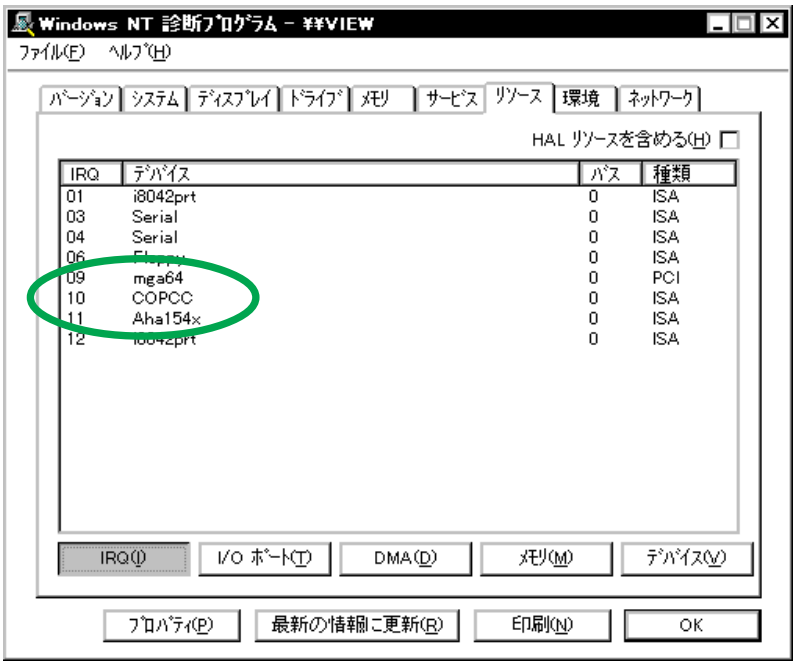


画面 3.22

6.4　インストール後

6.4.1　リソースの確認

コンピュータを再起動すると、本製品にリソースが割り当てられ、使用可能な状態となります。Windows NT診断プログラムでデバイス「**COPCC**」にインストール時に指定した値が割り当てられていることを確認してください†。（ただし、表示されるのはIRQおよびI/Oポートのみです。メモリについては表示されません。）



画面 4.1　インストール後（例：IRQ）

†　「デバイス」タブ→「COPCC」と進むと、本製品に割り当てられたリソースが一覧表示されます。（ただし、メモリについては表示されません。）

6.4.2　本製品を使用しないとき

ドライバーのインストール後、一時的に本製品を使用しないとき（＝PCカードスロットに本製品が挿入されていない、またはネットワークケーブルをメディアケーブルから外している場合など）はドライバーをアンロードしてください。ドライバーがロードされたまま前述のことを行った場合、Windows NTはこれらの現象をネットワークのエラーとして検出し、イベントビューアによる警告が表示されるようになります。この現象はドライバーをアンロードすることによって回避できます。

(1)　「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「バインド」と進みます。

(2)　本製品のアイコンを選択し、「無効」ボタンをクリックすると本製品のアイコンが無効（🚫）アイコンに変わります。

(3)　同様の手続きを、本製品にバインドしているプロトコル全てに行います。

6.5　ドライバーの削除と再インストール

本製品の登録内容を削除し、再びインストールする手順は以下のとおりです。ただし、ドライバーを削除しても、本製品にバインドしていたプロトコルやサービスは削除されません (一部の設定値、例えばTCP/IPにおけるIPアドレスなどは削除されます)。したがって、本製品を再インストールすれば、再びそれらのプロトコル、サービスなどを使用できます。

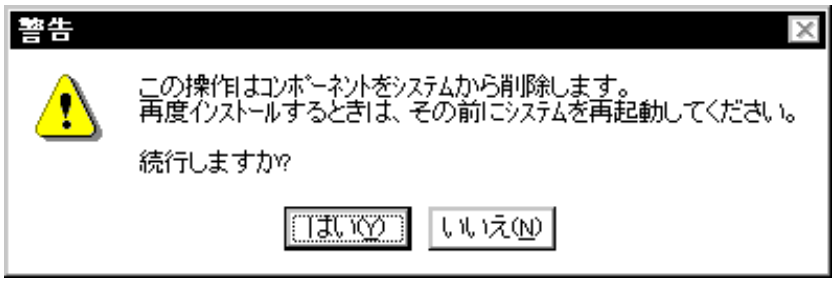
6.5.1　ドライバーの削除

(1)　「マイコンピュータ」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」とたどって行き、「ネットワーク」パネルの「アダプタ」タブをクリックしてください。

(2)　「ネットワークアダプタ (N):」で「corega Ether PCC-T Adapter」を選択し、「削除 (R)」ボタンをクリックしてください。

画面 5.1

(3)　「はい」をクリックし、(フロッピーディスクがドライブに入っている場合は取り出して）コンピュータを再起動します。



画面 5.2

6.5.2　再インストール

終了後、再びドライバーのインストールを行う場合は「ネットワーク」（コントロールパネル）を起動し、「アダプタ」タブで「追加..」をクリックして下さい。
（「6.3　ドライバーのインストール」の手順5から再開することになります。）

付録A　ハードウェア診断プログラム

ハードウェア診断プログラム「**PCCDIAG.EXE**」は、本製品が正常に動作するかどうかの確認や、本製品の使用中に異常が生じた場合の原因究明にお使いください。PCCDIAG.EXEは、ドライバーディスクの「**\DOSTOOL**」に収められています。ご使用のコンピュータ機種に応じて、「AT互換機/PC98-NX用ドライバーディスク」または「PC-9800/PC-9821用ドライバーディスク」に含まれているものをご使用ください。

A.1　概要

PCCDIAG.EXEは以下の順番でハードウェアのテストを行い、エラーを検出するとメッセージを表示して終了します。

(1)　I/O ポートのテスト
(2)　物理アドレス（ROM）の読みだしテスト
(3)　インタラプト（割り込み）のテスト
(4)　制御回路の機能試験
(5)　ループバックテスト 1
　　（制御回路内部での折り返し試験）
(6)　ループバックテスト 2
　　（エンコーダ・デコーダまで含めた折り返し試験）
(7)　ループバックテスト 3
　　（外部ケーブルインタフェースモジュールまで含めた折り返し試験）

PCCDIAG.EXEは、自身でPCMCIAコントローラを初期化するので、「カードサービス・ソケットサービス」または「イネーブラ」を必要としませんが、MS-DOS（Windows95）に含まれているEMSドライバーEMM386.EXEにオプションが必要です（98ページを参照してください）。

A.2　テストの手順（Windows95）

(1)　本製品をネットワークに接続してください。

(2)　Windows95を再起動し、「Starting Windows95...」または「Windows95を起動しています…」というメッセージが出ている間にキーボードのF8キーを押します。

(3)　メニューが表示されたら、「Command prompt only」を選択します。項目の番号（下の画面では6番）はお使いの環境によって異なります。

```
Microsoft Windows 95 Startup Menu
————————————————-

   1. Normal
   2. Logged (\BOOTLOG.TXT)
   3. Safe mode
   4. Safe mode with network support
   5. Step-by-step confirmation
   6. Command prompt only
   7. Safe mode command prompt only
   8. Previous version of MS-DOS

Enter a choise: 6
```

(4)　ご使用のコンピュータ機種用のドライバーディスク†1をフロッピードライブに入れ、PCCDIAGコマンドを実行します。コマンドの入力形式は以下の通りです（"drv"はディスクドライブ名、[ ]内はオプション、#は数値。各オプションの詳細は、A.4項で説明します）。

```
drv:\>DOSTOOL\PCCDIAG [-i:#] [-b:#] [-m:#] [-p:#]
```

AT互換機/PC98-NXのコマンド例（デフォルト値）

```
A:\>DOSTOOL\PCCDIAG -i:10 -b:300 -m:D400 -p:3E0
```

PC-9800/PC-9821のコマンド例（デフォルト値）

```
B:\>DOSTOOL\PCCDIAG -i:5 -b:300 -m:D400 -p:3E0
```

†1　ハードウェア診断プログラムは、AT互換機/PC98-NX用、PC-9800/PC-9821用ともに同じファイル名前です。ハードウェア診断を行う前にドライバーディスクのラベルをご確認ください。

A.3 テストの手順（Windows NT）

A.3.1 Windows NTにおける特記事項

本プログラムは MS-DOSで動作します。Windows NTのMS-DOSプロンプトウィンドウ（NT 3.51では「コンソール」、NT4.0では「コマンドプロンプト」と呼びます）では動作しません。本プログラムをご使用になれるのはご使用のコンピュータでMS-DOSを使用できる場合に限られますのでご了承ください。

PC-9800/PC-9821をご使用の場合は、予め CONFIG.SYSのカードサービス・ソケットサービスに関する行をコメントアウトし、再起動しておいてください。ソケットサービス・カードサービスについての詳細はご使用のコンピュータのマニュアルをご覧ください。

A.3.2 使用手順

(1) コンピュータの電源がオフであることを確認して、PC カードソケットに本製品を挿入します。

(2) コンピュータに電源を入れ、MS-DOSを起動します。ハードディスクからMS-DOS が起動できるようにコンピュータが設定されていない場合は、MS-DOS の起動フロッピーディスクをご使用ください（MS-DOS の起動フロッピーディスクはあらかじめご用意ください）。

(3) 本製品をネットワークに接続してください。

(4) 「A.2　テストの手順（Windows95）」の手順(4)にお進みください。

A.4 コマンドオプション

PCCDIAGコマンドのオプションは以下の4種類があり、それぞれの意味ととりうる値は以下の通りです。なお、各オプションを指定しない場合、太文字の値（デフォルト値）を指定したとして実行されます。

-i:　インタラプト

「-i: 」に続けてインタラプトの値を指定します。下記の値を指定できます。

AT互換機/PC98-NXで設定可能な値

3、4、5、7、9、**10**、11、15

PC-9800/PC-9821で設定可能な値

3、**5**、6、9、10、12

-b:　I/O アドレス

「-b:」に続けてI/Oアドレスの値を指定します。下記の値を指定できます。

200、220、240、260、280、2A0、2C0、2E0、
300、320、340、360、380、3A0、3C0、3E0

-m:　PCMCIA カードとコンピュータの共有メモリのベースアドレス

指定したベースアドレスから16KBのメモリ空間を使用します（-m オプションを付けない場合、「**D400**」を指定したとして解釈され、「D4000～D7FFF」が使用されます）。デフォルト値以外の範囲を指定したい場合、例えば「C4000～C7FFF」を使用したい場合は、「-m:C400」を指定します。

PCCDIAG.EXEは、デフォルトで「D4000～D7FFF」を使用します。EMM386.EXEをご使用になっている場合は、EMM386に「X=D400-D7FF」オプション（AT互換機）または「E=D400-D7FF」オプション（PC-9800/PC-9821）を付け、あらかじめこの空間がEMS page windowやUMBとして使用されないようにしておいてください。PCCTDIAGに-mオプションを付け、デフォルト以外の空間を使用する場合は、その値をEMM386.EXEのオプションとして指定してください。

-p:　ホスト PCMCIA コントローラアドレス

ホストPCMCIAコントローラアドレスを指定します。-pオプションを付けない場合、「**3E0**」を指定したと解釈されます。PCMCIA Release2.1規格ではPCMCIAコントローラのアドレスは 3E0、3E1が推奨されていますがこの値はコンピュータによって異なることがあります。ご使用のコンピュータのマニュアルでご確認ください。

A.5 エラーメッセージ一覧

1. corega Ether PCC-T Card is not ready. Or I/O mapping error.

原因: corega Ether PCC-T アダプタが実装されていない。
対処: 正しく実装してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: Windows95 OSR2 バージョンにおいて "Command prompt only" モードで起動した。
対処: "Safe mode command prompt only" モードでパソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: PCCDIAG コマンドが認識できない ソケットサービス、カードサービスドライバが常駐している。
対処: config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し、パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: 既にポイントイネーブラを使用して何等かの PCMCIA カードが使用されています。
対処: 他 PCMCIA カード、ポイントイネーブルコマンドを削除し、パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: ホストPCMCIAコントローラが検出できない。
対処: PCCDIAG コマンドはソケットサービス、カードサービスドライバが常駐していない場合、ホストPCMCIAコントローラを直接制御し corega Ether PCC-T を活性化します。PCCDIAG は初期値として I/O アドレス 3E0, 3E1 を検索します。パソコンによって異なることがありますのでご使用のパソコンのマニュアルでご確認ください。 3E0H, 3E1H 以外の場合、-p オプションを使用して再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

または、ソケットサービス、カードサービスドライバを config.sys ファイルに記述し、パソコンを再起動後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: ホストPCMCIAコントローラが初期化できない。
対処: PCCDIAG コマンドはソケットサービス、カードサービスドライバが常駐していない場合、ホストPCMCIAコントローラを直接制御し corega Ether PCC-T を活性化します。PCCDIAG は初期値として メモリアドレス D4000 を PCMCIA メモリウィンドウに割り当てます。このメモリアドレスが使用出来ません。回避方法は、 -m オプションを参照ください。

または、ソケットサービス、カードサービスドライバを config.sys ファイルに記述し、パソコンを再起動後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

2. This I/O has been already Used!!

原因: この I/O ポートは既に他のハードウェアによって使用されています。
対処: -b オプションで他の I/O ポートを指定してください。

他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega Ether PCC-T のみにしてパソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

3. This IRQ has been already Used!!

原因: この IRQ は既に他のハードウェアによって使用されています。
対処: -i オプションで他の IRQ を指定してください。

他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega Ether PCC-T のみにしてパソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

4. No Free Socket

原因: PCMCIA カードサービスドライバが正常に動作していません。または、資源を全て使用しています。

対処: PCMCIA カードを使用している他のドライバを全て解除し（config.sys ファイルなどからも削除し）パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。それでも改善されない場合は、config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し、パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

5. Is Not our corega Ether PCC-T Card

原因: corega Ether PCC-T 以外のアダプタが実装されています。
対処: アダプタカードを確認してください。他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega Ether PCC-T のみにしてみてください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: この I/O ポートは既に他のハードウェアによって使用されています。
対処: -b オプションで他の I/O ポートを指定してください。

他の PCMCIA カードも使用している場合は、そのカードを抜き、corega Ether PCC-T のみにしてパソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

6. Tried to be enable the card directly, but not complete.

原因: PCCDIAG コマンドが認識できない ソケットサービス、カードサービスドライバが常駐している。

対処: config.sys ファイルから SS, CS ドライバを削除し、パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

原因: 既にポイントイネーブラを使用して何等かの PCMCIA カードが使用されています。

対処: 他 PCMCIA カード、ポイントイネーブルコマンドを削除し、パソコンを再起動してください。その後、再度 PCCDIAG コマンドを実行してください。

A.6 診断結果

診断表示例:

```
             Mode: Enabler
        Int Level: 10
          IO Base: 300
         IO Check: OK
   Ether Address:  00 00 F4 xx xx xx (yy)
Buffer RAM Check: OK
 Interrupt Check: OK
Loopback Check 1: OK
Loopback Check 2: OK
Loopback Check 3: OK
```

1. Mode

corega Ether PCC-Tの活性化モードを表示します。

SS/CS : パソコン上で起動されているソケットサービス、カードサービスを使用しています。

Enabler : ソケットサービス、カードサービスが起動されていないので PCCDIAG コマンドでホストPCMCIAコントローラを直接制御しています。

2. Int Level

corega Ether PCC-Tの診断に使用した割り込み番号です。この割り込み番号は、-i オプションで変更可能です。

3. IO Base

corega Ether PCC-Tの診断に使用したI/Oポートアドレスです。このI/Oポートアドレスは、 -bオプションで変更可能です。

4. IO Check

I/Oポートの診断結果です。

OK： 正常動作

NG： 動作不良、I/O ポードアドレスが競合している恐れがあります。-b オプションで他の I/O ポートアドレスを指定してください。

5. Ether Address: 00 00 F4 xx xx xx (yy)

MAC物理アドレスROMの読みだしテストの結果で、読み出したMAC物理アドレスを16進数で表示します。（）内は、最後の4桁を10進数で表したものです。

MAC物理アドレスROMの読みだしテストに失敗した場合は、

"Address ROM Check: NG"

"Memory size Check: NG"

"Address ROM Check: Illegal Address"

のように詳細が表示されます。I/Oポードアドレスが競合している恐れもありますので -bオプションで他のI/Oポートアドレスを指定して再度PCCDIAGコマンドを実行してみてください。

6. Buffer RAM Check

corega Ether PCC-Tカードに実装されているRAMの診断結果です。

OK： 正常動作

NG： 動作不良、I/O ポードアドレスが競合している恐れがあります。-b オプションで他の I/O ポートアドレスを指定してください。

7. Interrupt Check

corega Ether PCC-T の割り込みライン、動作の診断結果です。正常動作しない場合、割り込み番号が競合している恐れがあります。-i オプションで他の割り込み番号を指定してください。

OK : 正常動作

no interrupt : 動作不良

Tx timeout : 送信動作不良

Tx error interrupt: 送信失敗

8. Loopback Check 1

制御回路内部でのデータ折り返し試験結果です。

OK : 正常動作

CRC NG: 折り返しデータ不正

Tx timeout: 送信動作不良

Tx error: 送信失敗

9. Loopback Check 2

エンコーダ・デコーダまで含めたデータ折り返し試験結果です。
OK : 正常動作
CRC NG: 折り返しデータ不正
Tx timeout: 送信動作不良
Tx error: 送信失敗

10. Loopback Check 3

外部ケーブルインタフェースモジュールまで含めたデータ折り返し試験結果です。
正常動作しない場合、ケーブルが正しく接続されていない恐れがあります。
corega Ether PCC-T および、HUB 側で "LINK" の状態を確認してください。
OK : 正常動作
CRC NG: 折り返しデータ不正
Tx timeout: 送信動作不良
Tx error: 送信失敗

付録B　製品仕様

A.B　規格仕様

1.　ハードウェア仕様

カード規格：　PC Card Standard (PCMCIA Rel. 2.1 / JEIDA Ver. 4.2)
ネットワーク：　IEEE802.3 10BASE-T, Ethernet Ver. 2.0

2.　機械的仕様

外形：　カード　85.6×54.0×5.0 (mm) Type Ⅱ
メディアケーブル　300 (mm)（コネクター部含む）
重量：　40 g　（カード＋メディアケーブル）

3.　電気的仕様

動作電圧：　DC＋5V±5%
消費電流：　55 mA (max)

4.　環境条件

周囲温度：　0～55℃（PCカードの周囲）
（注：PCカードの周囲温度であって、コンピュータの周囲温度ではありません）
湿度：　最大95%（但し、結露なきこと）

5.　電気雑音の発生防止

雑音端子電圧：　VCCIクラスB
雑音電界強度：　VCCIクラスB

6.　ネットワーク機能

(i)転送速度　10M bps
(ii)RAMバッファ　32K bytes SRAM
(iii)I/Oアドレス　0x200、0x220、0x240、0x260、
0x280、0x2A0、0x2C0、0x2E0、
0x300、0x320、0x340、0x360、
0x380、0x3A0、0x3C0、0x3E0
(iv)インタラプト　IRQ　3、4、5、6、7、9、10、11、12、15

B.2　10BASE-Tインターフェース

本製品付属のメディアケーブルはRJ-45 型と呼ばれるモジュラージャックを使用しています。図B-1に、10BASE-Tモジュラージャックの信号線を図示します。

(1) TX+　送信データ(+)
(2) TX-　送信データ(-)
(3) RX+　受信データ(+)
(4) ---　未使用
(5) ---　未使用
(6) RX-　受信データ(-)
(7) ---　未使用
(8) ---　未使用

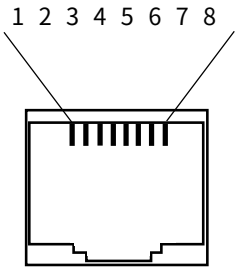


図 B-1　10BASE-T モジュラージャック

B.3　MACアドレス

Ethernetに接続される機器は、MACアドレス†と呼ばれるアドレスを使って通信を行います。MACアドレスは機器 (アダプター) のひとつひとつに割り当てられた唯一無二の (unique、ユニークな) アドレスです。

† MACアドレス（マックアドレスと読みます）は、物理アドレス、ネットワークアドレス、イーサネットアドレス と呼ばれることもあります。また、MAC アドレスは、TCP/IP の環境 で使用される IP アドレスに関係がありますが、これらは別物です。

MACアドレスは、下記の 6 バイト (48ビット)によって構成されており、本製品の内部に書き込まれているため、ユーザーが変更することはできません。

本製品のMACアドレスは、製品裏面に貼付されているMACアドレスラベルに記入されています (表記は全て16進数)。

00	00	F4	5x	xx	xx
ベンダーID (*1)			通し番号 (*2)		

(*1)　ベンダー ID:　LANベンダー (LAN用機器を製造しているメーカー) が IEEE に申請することにより得られる識別番号。

(*2)　この番号は、当社が製品の一つ一つに割り当てた通し番号で、本製品では 5B ～ 5C から始まる 6 桁の数値になっています。（この番号は、シリアルナンバーと関連はありません。）

付録C　ネットワークの設定

「4.4.1　デバイスマネージャによる確認」でLANアダプターの設定が正常であることを確認後、ネットワークを利用したデータの送受信を行ってみましょう。データの送受信をするためには、各パソコンについて設定が必要になります。ここでは、ピアツーピア接続をするための ネットワークの設定例について説明します。

C.1　ピアツーピア接続をするための設定方法

ピアツーピア接続をするためには、すべてのパソコンについて以下の設定が必要になります。

- 「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認、「Microsoftネットワーク共有サービス」の追加
- ユーザー情報、または識別情報（コンピュータ名、ワークグループ）の確認
- パソコンの共有設定（ハードディスク・プリンター等の共有）

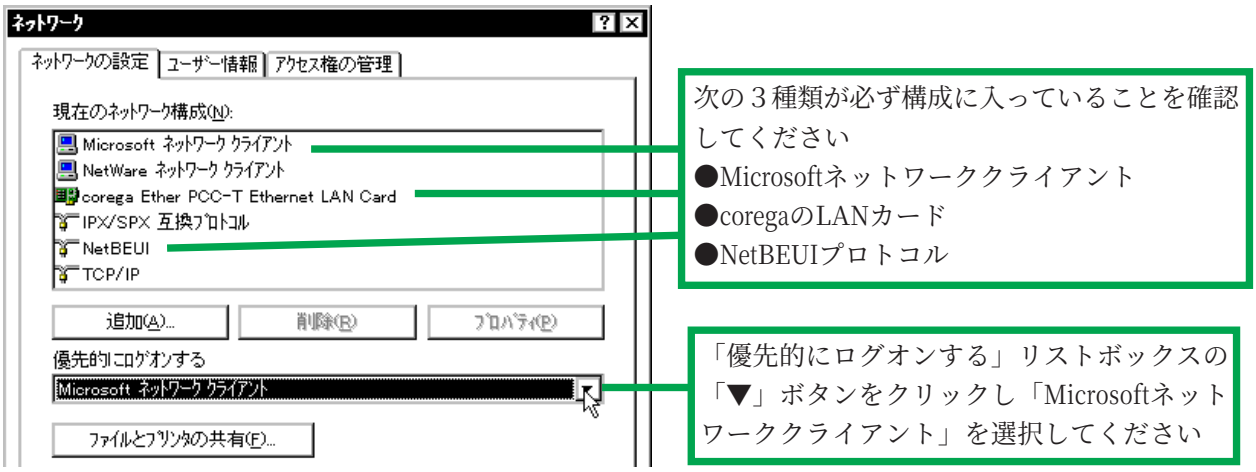
ここでは、ハードディスクの共有を説明しています。プリンターを共有する場合は、 プリンターメーカによって操作が異なりますので、プリンターメーカにご相談ください。

■「NetBEUI」、「Microsoftネットワーククライアント」の確認

(1)　「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択します。

(2)　「ネットワーク」アイコンをダブルクリックします。

(3)　「ネットワーク」ダイアログボックスの「現在のネットワーク構成」に、「NetBEUI」と「Microsoftネットワーククライアント」が表示されていることを確認します。



画面 1.1　「ネットワークの設定」

「NetBEUI」と「Microsoftネットワーククライアント」が「現在のネットワーク構成」に無い場合は、以下の【ネットワーク構成に無い場合】を参考に各サービスやプロトコルを追加してください。

【ネットワーク構成に無い場合】

「NetBEUI」と「Microsoftネットワーククライアント」が表示されていない場合は、以下の項目を参照してネットワーク構成に追加してください。

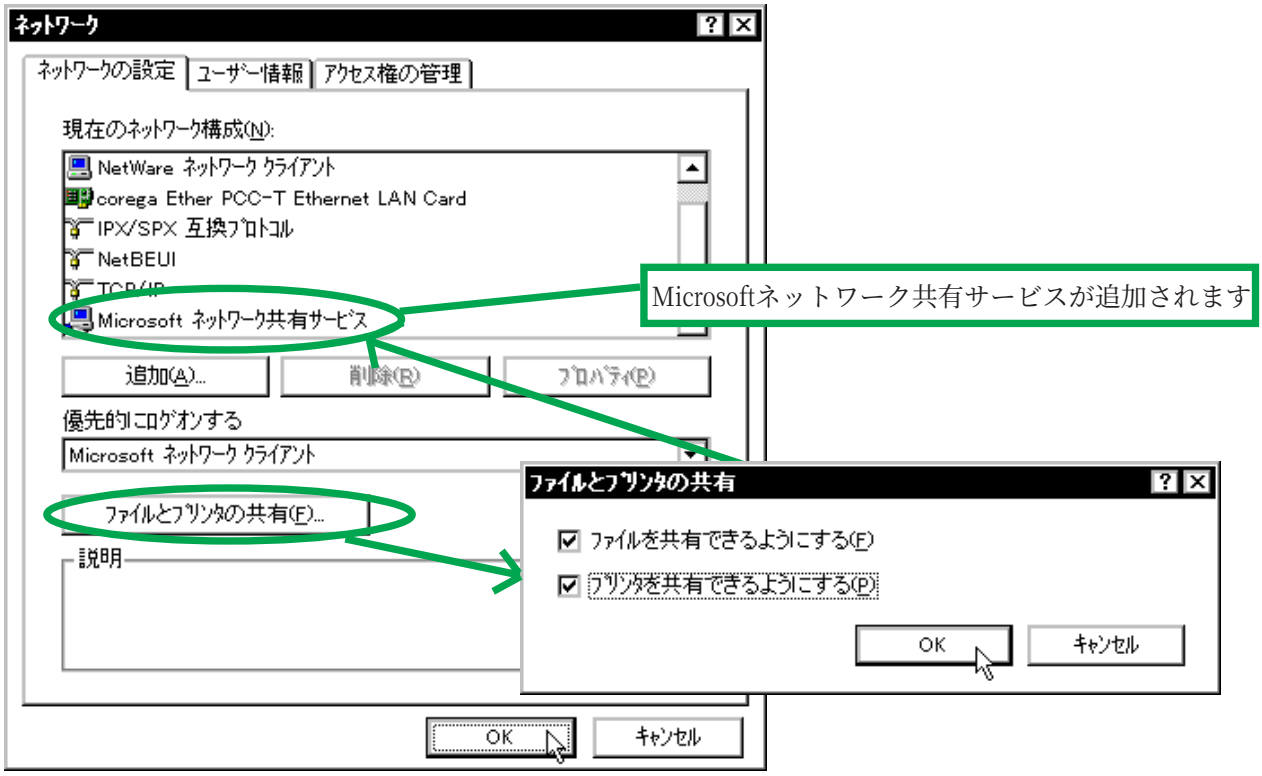
1. 「Microsoft ネットワーククライアント」が無い場合　⇒「付録 C. 2」へ
2. 「NetBEUI」が無い場合　⇒「付録 C. 2」へ
3. 「corega の LAN カード」が無い場合　⇒「4.1.1　デバイスマネージャーによる確認」へ

C.1.1　「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

以下の手順に従い、「Microsoftネットワーク共有サービス」を追加します。

(1)　「ファイルとプリンタの共有」をクリックします。

(2)　「ファイルを共有できるようにする」および「プリンタを共有できるようにする」のチェックボックスをクリックし「OK」ボタンをクリックします。画面が戻り「Microsoft ネットワーク共有サービス」が追加されます。



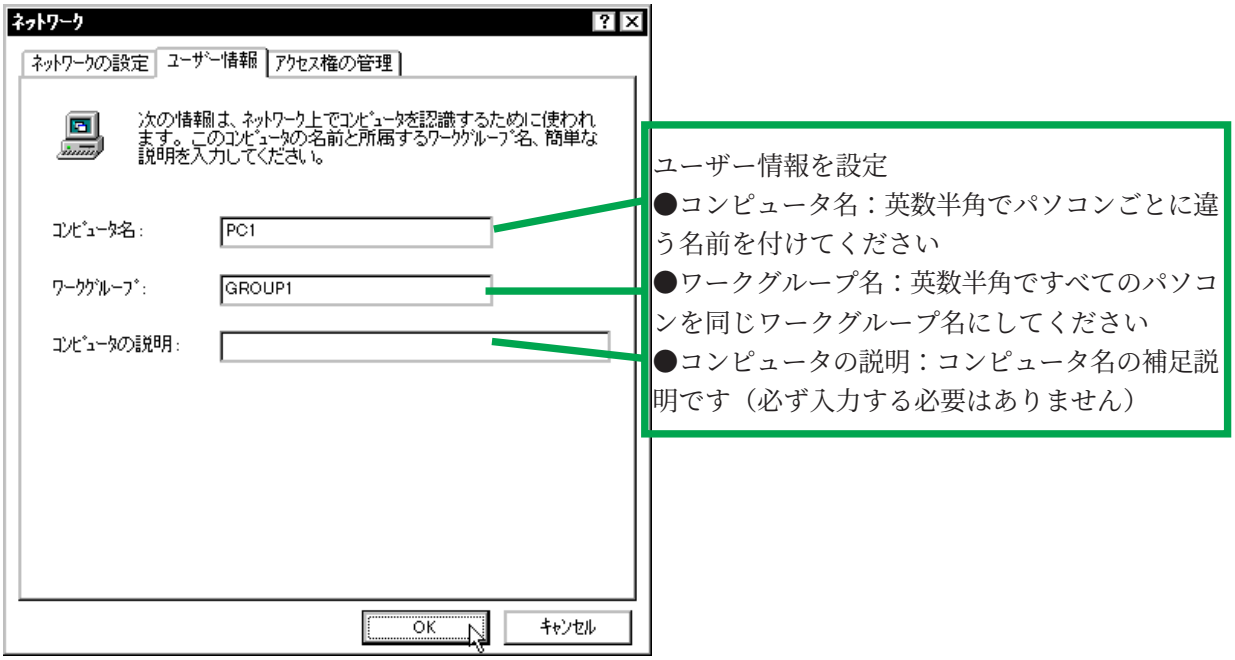
画面 1.1.1　「Microsoft ネットワーク共有サービス」の追加

C.1.2　ユーザー情報の確認

以下の手順に従い、「ユーザー情報」を確認します。

(1)　「ユーザー情報」タブをクリックしてください。

Windows98の場合は、「ユーザー情報」というタブが「識別情報」というタブになります。



画面 1.2.1 「ユーザー情報の確認」

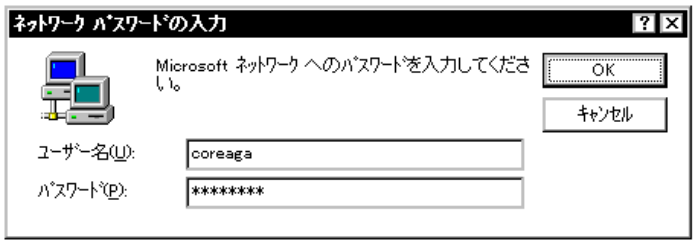
(2)　「コンピュータ名」、「ワークグループ名」、「コンピュータの説明」を設定します。詳細説明については、「付録C.5　Windows95のユーザー情報画面」を参照してください。設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックしてください。

重要：ワークグループ名は、ピアツーピア接続する全てのパソコンに同じ名前を設定してください。WindowsのOS自体が、コンピュータ名・ワークグループ名の漢字(日本語･カナ)に対応していません。必ず英数半角をご使用ください。

(3)　Windows の再起動が要求されますので、「OK」ボタンを押して、再起動してください。

要求されない場合でも、設定を有効にしますので手動で再起動してください。

(4)　Windowsが再起動され「ネットワークパスワードの入力」画面が表示されます。詳細説明は、「付録C.4　Windows95ユーザー名とパスワード」を参照してください。



画面 1.2.2 「ネットワークパスワードの入力」

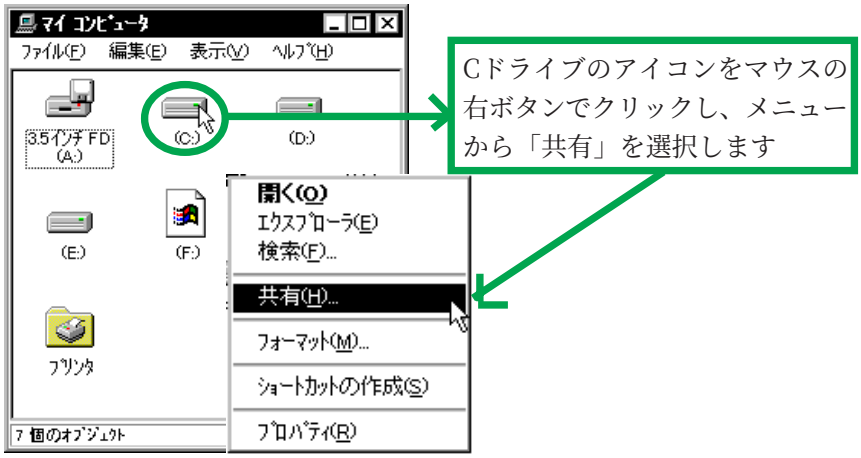
「ユーザー名」と「パスワード」は毎回、必ず入力してください。
入力しない場合は、ネットワークでの通信ができません。

C.1.3　パソコンのディスク共有設定

パソコンのドライブやフォルダの共有を設定します。ここでは、「マイコンピュータ」の中の「Cドライブ」を共有するときの手順を例に説明します。

(1)　デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。

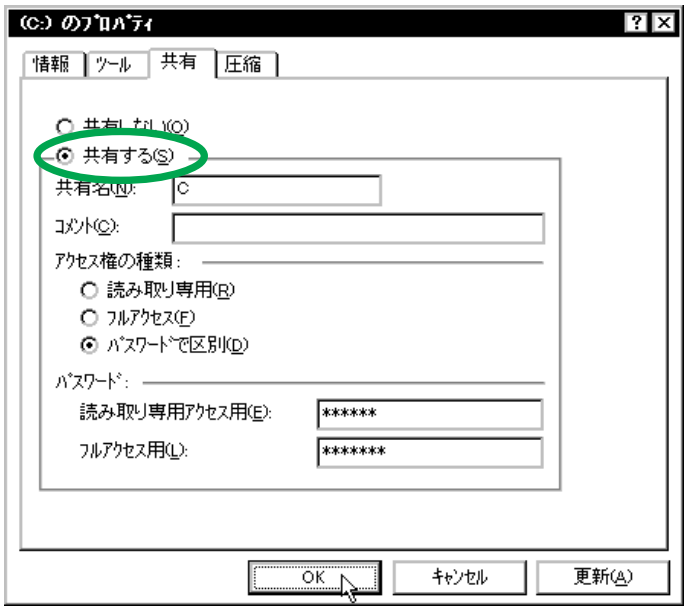
(2)　「マイコンピュータ」ダイアログの「(c:)」ドライブアイコン上で右ボタンをクリックし、メニューを表示して「共有(H)」を選択します。



画面 1.3.1 「C ドライブ」の共有

(3)　「共有」タブをクリックし、「共有する(S)」ラジオボタンをチェックします。

(4)　「共有名」、「アクセス権の種類」、「パスワード」などの項目を運用方法に合わせて設定します。
設定方法に着いての詳細説明は、「付録 C.3　Windows95 の共有設定画面」を参照してください。



画面 1.3.2 「共有」の設定

(5)　Cドライブのアイコンが次の画面のようになります。

画面 1.3.3　共有設定されたドライブの表示

C.1.4　他のパソコンへの接続

以下の手順に従い、他のパソコンに接続します。

(1)　Windowsデスクトップ上の「ネットワークコンピュータ」アイコンをダブルクリックします。ピアツーピア接続されているパソコンが表示されます。

画面 1.4.1 「ネットワークコンピュータ」表示

(2)　表示されているパソコンのアイコンから接続したいパソコンをダブルクリックします。

(3)　共有設定で、「共有する」と設定されたドライブが表示されます。

(4)　上記(3)で表示されたドライブをダブルクリックすると、「共有する」と設定されている中身（ファイルやフォルダ）が表示され、アクセスが可能となります。

重要：タイミングによって接続したいパソコンが表示されない事もあります。その際は、「ネットワークコンピュータ」を再表示、または「表示」メニューの「最新の情報更新」を選択してください。

以上で、LANアダプタの設定は全て完了です。ネットワークを利用した快適な環境でパソコンをお使いください。

C.2 「Microsoftネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法

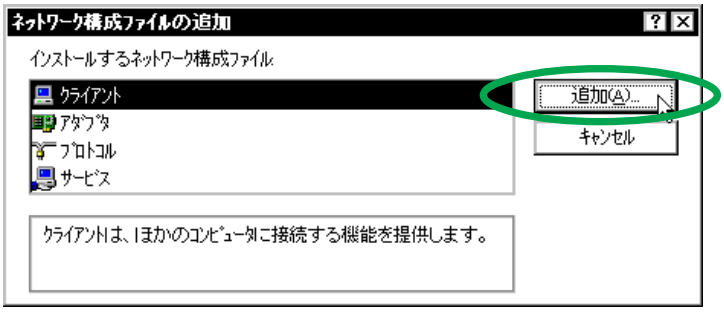
ここでは、「Microsoftネットワーククライアント」および「NetBEUI」の追加方法について説明します。以下の手順に従い、操作してください。

C.2.1 「Microsoftネットワーククライアント」の追加方法

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加(A)」ボタンをクリックしてください。

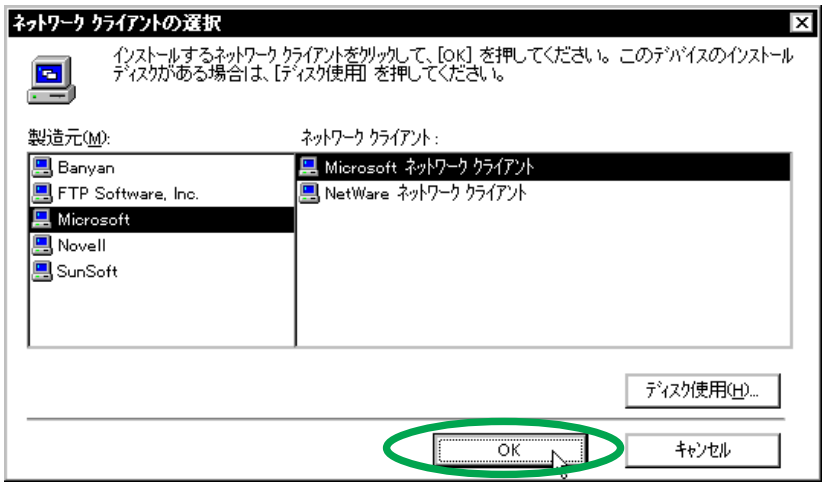
画面 2.1.1 ネットワーク構成ファイルの追加

(2) 「インストールするネットワーク構成ファイル」の一覧より、「クライアント」を選択し、「追加(A)」ボタンをクリックします。



画面 2.1.2 「ネットワーククライアント」の追加

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「ネットワーククライアント」に「Microsoftネットワーククライアント」を選択し、「OK」ボタンを押します。次頁の画面 2.1.3 を参照してください。



画面 2.1.3 「Microsoft ネットワーククライアント」を追加

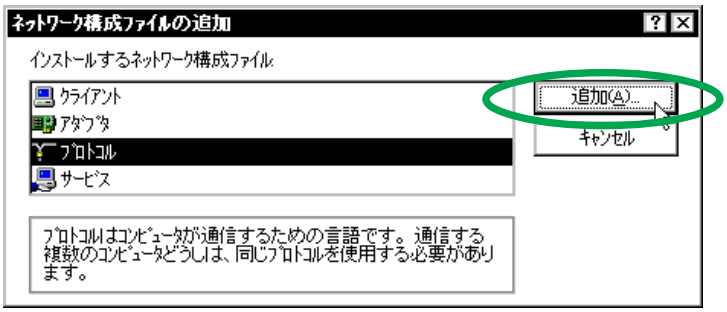
(4) 「OK」ボタンをクリックすると(2)の画面に戻ります。「■「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認」（P.106）で追加されていることを確認してください。

C.2.2 「NetBEUI」の追加方法

(1) 「スタート」メニューの「設定」→「コントロールパネル」→「ネットワーク」を選択し、「ネットワーク」ダイアログで、「追加(A)」ボタンをクリックしてください。

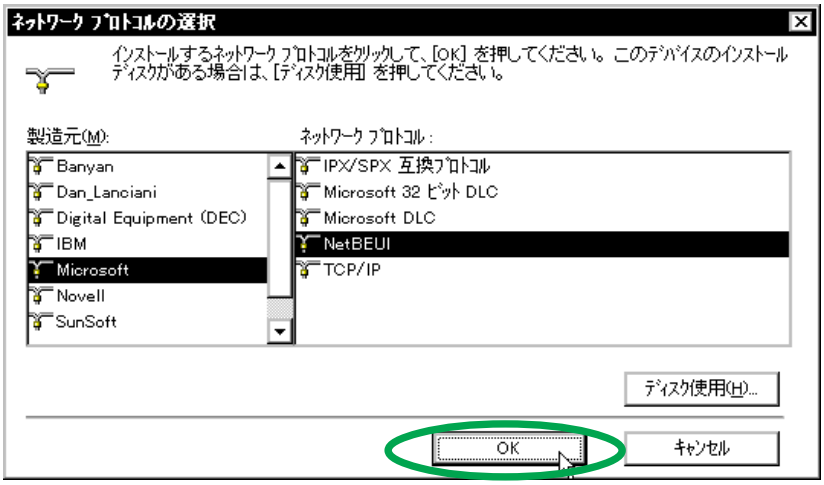
画面 2.2.1 ネットワーク構成ファイルの追加

(2) 「インストールするネットワーク構成ファイル」の一覧より、「プロトコル」を選択し、「追加(A)」ボタンをクリックします。次頁の画面 2.2.2 を参照してください。



画面 2.2.2 「ネットワークプロトコル」の追加

(3) 「製造元」に「Microsoft」、「プロトコル」に「NetBEUI」を選択し、「OK」ボタンを押します。

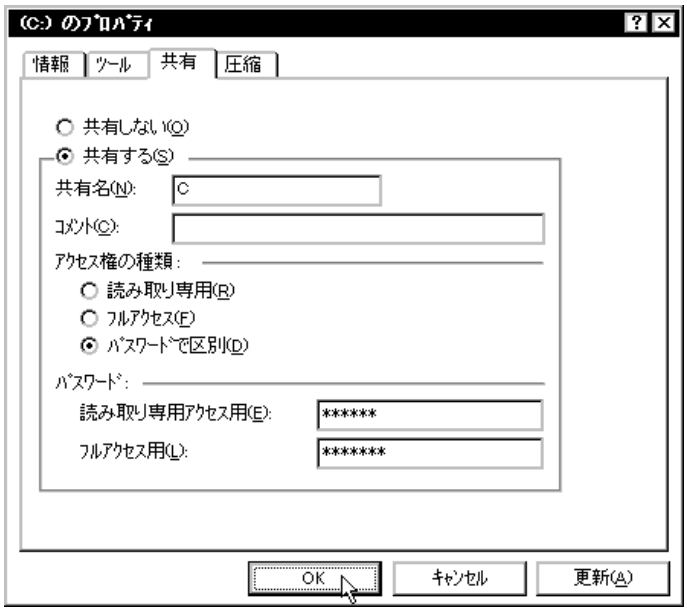


画面 2.2.3 「NetBEUI」を追加

(4) 「OK」ボタンをクリックすると(2)の画面に戻ります。「■「NetBEUI」、「Microsoft ネットワーククライアント」の確認」（P.106）で追加されていることを確認してください。

C.3　Windows95の共有設定画面

共有したいドライブのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから「共有」を選択すると、次の画面が表示されます。



画面 3.1　Windows95 の「共有」設定

設定する項目の説明は、次の通りです。

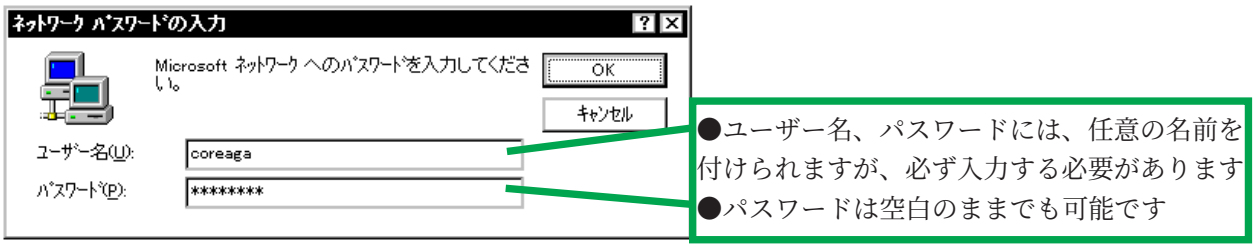
●共有しない：　ドライブの共有を解除するときに選択します。
●共有する　：　ドライブの共有を設定するときに選択します。
●共有名　　：　共有するドライブの名称を変更することが出来ます。
●コメント(C)：　共有するドライブやフォルダに対する説明を入力します。（必ず入力する必要はありません）
●アクセス権の種類：共有するドライブに対して読み書きの許可を設定します。
　・読み取り専用(R)　：　共有するドライブを読み込み専用にします。
　・フルアクセス(F)　：　共有するドライブに読み書きを許可します。
　・パスワードで区別(D)：　パスワードにより、読み書きを許可します。
●パスワード：　「アクセス権の種類」に対するパスワードです。
　・読み取り専用アクセス用(E)：読み取りを許可するときのパスワードを設定します。
　・フルアクセス用(L)：読み書きを許可するときのパスワードを設定します。

C.4　Windows95のユーザー名とパスワード

ドライバのインストールが完了し、パソコンを再起動すると「ネットワークパスワードの入力」ダイアログボックスが表示されます。

- ネットワークを使用するときは、ユーザー名とパスワードを入力してください。
  ただし、ネットワークを使用しないときは入力する必要はありません。
- ユーザー名とパスワードは、Windows95 をセットアップする過程で設定しています。
  初めてログインするときは、セットアップ時のユーザー名とパスワードを入力してください。(パスワードは空白でも可能です)

ユーザー名とパスワードは任意に設定できます。特に決まりはありません。また名称によって通信ができないという事もありません。



画面 4.1　「ネットワークパスワードの入力」

C.5 Windows95のユーザー情報画面

「スタート」→「設定」→「コントロールパネル」を選択し、「ネットワーク」アイコンをダブルクリックして、「ユーザー情報」タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

画面 5.1 「ユーザー情報」の設定

設定する項目の説明は、次の通りです。

- ●コンピュータ名：ネットワーク上でコンピュータを識別するための名称です。各パソコンごとに固有の名称を設定します。（英数半角のみ）
- ●ワークグループ：ネットワーク上で区分けをするための名称です。特に分ける必要がなければ、ネットワーク内のパソコンは、すべて同一の名称にしてください。（英数半角のみ）
- ●コンピュータの説明：「コンピュータ名」の補足説明です。特に入力しなくても構いません。

付録D Windows95/98で使用する場合の注意事項について

一部のノートパソコン（OS：Windows95/98）で、corega Ether PCC-T(以下PCC-T）を使用すると下記のような現象が発生する可能性があります。この現象が発生した場合は、下記の回避方法の手順に従ってリソースの予約処理を行なってください。

■現象

- インストール後再起動でパソコンが起動しない。(黒い画面で止まってしまう)
- 全体が青画面になり「例外OEがVXD NDIS・・・で発生しました」というメッセージが表示される。
- Windows95/98が起動してからPCC-Tを取付けると通信はできるが、パソコンを起動する前にPCC-Tが取付けられているとWindows95/98が起動しない。

上記の現象が発生した場合は、下記の手順に従ってプラグ＆プレイで自動的に割振られたI/Oポートアドレスの値（0260-027F）を予約して、I/Oポートアドレス値の変更を行ってください。

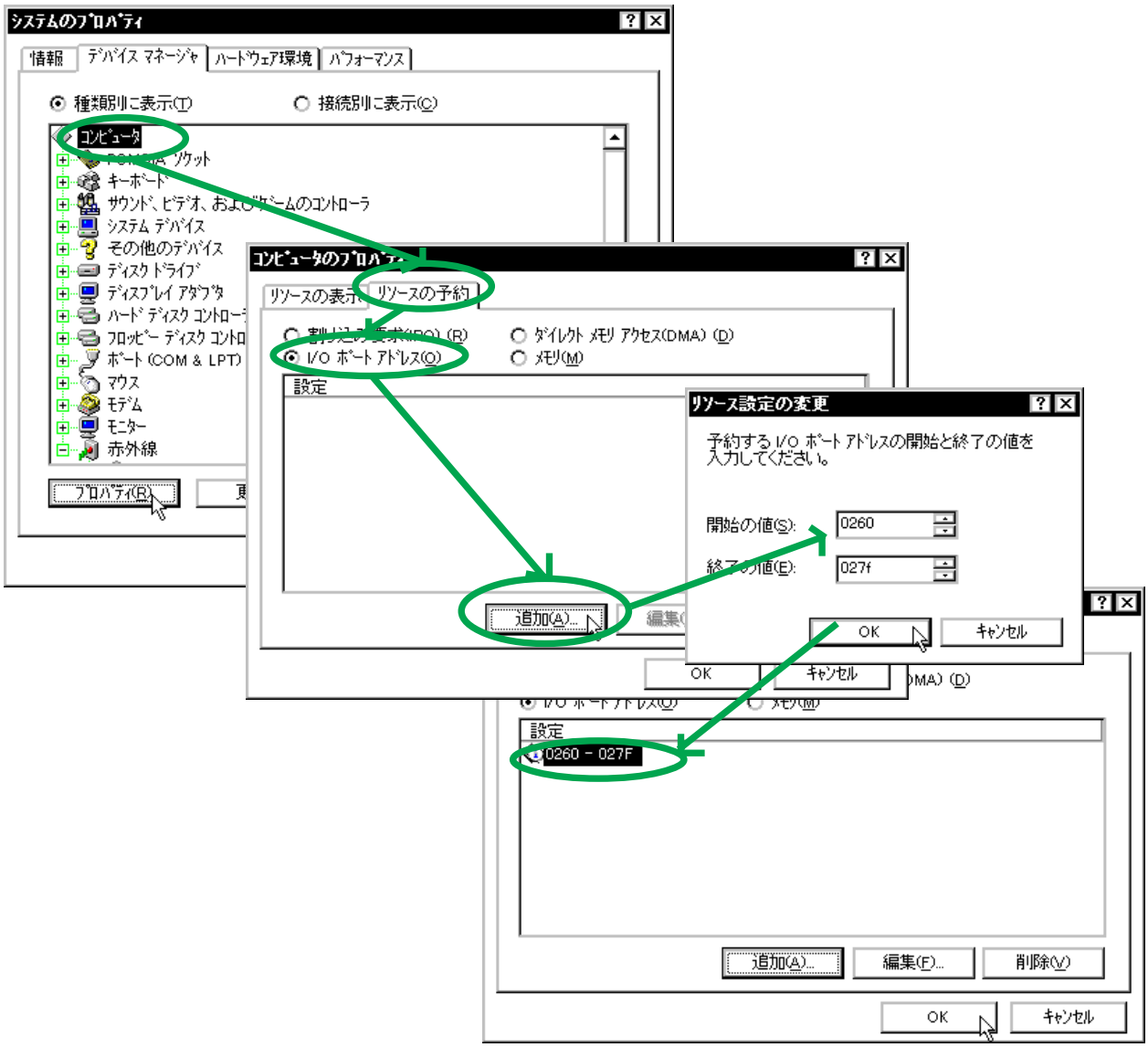
■回避方法

(1) PCC-TをPCカードスロットから抜き、コンピュータの電源を入れます。(状況によっては、SAFEモードで起動する場合もありますが、その場合は、そのままSAFEモードで起動してください)

(2) 「コントロールパネル」→「ネットワーク」→「現在のネットワーク構成(N)」から「corega Ether PCC-T」の設定を削除してください。削除後にWindows95/98の再起動をします。

PCC-Tは外したままの状態で行ってください。

(3) 「コントロールパネル」→「システム」→「デバイスマネージャ」→「コンピュータ」を選び「プロパティ(R)」をクリックします。コンピュータのプロパティが表示されますので「リソースの予約」を選び「I/Oポートアドレス(O)」選択し「追加」で、「開始の値(S)0260、終了の値(E)027F」(次ページの画面1.1参照）を追加してください。追加後、再起動しWindows95/98が正常に起動するか確認してください。



画面 1.1 「I/O ポートアドレス」リソースの予約

(4) 正しく Windows95/98 が起動したら、PCC-T を PC カードスロットに差し込んで 再度ドライバーのインストールを行ってください。(通常のインストールです。詳しくは本取扱説明書のインストールの項目を参照してください)

(5) インストール後、再起動して「デバイスマネージャ」→「ネットワークアダプタ」の 中の PCC-T の情報に！や？や×がついていない事を確認してください。

保証について

本書に記載されている「製品保証規定」をお読みください。また、本製品（ドライバーディスクは除く）の保証期間については、保証書に記載されている保証期間をご覧ください。

ユーザーサポート

障害回避などのユーザーサポートは、巻末の「調査依頼書」をコピーしたものに必要事項をご記入の上、下記の番号まで FAXしてください。できるだけ電話による直接の問い合わせは避けてください。FAXによって詳細な情報を送付していただくほうが、電話による問い合わせよりも遥かに早く問題を解決することができます。記入内容の詳細は、「調査依頼書のご記入のお願い」をご覧ください。

Tel: 045-476-6268
月～金（祝・祭日を除く）10:00-12:00、13:00-17:00
Fax: 045-476-6294
年中無休 24 時間

corega Net-Newsの購読について

■coregaのホームページにアクセスしてください！
http://www.corega.co.jp
coregaホームページにアクセスすれば、商品の詳細やＰＣ動作検証リストはもちろん、ＦＡＱなどコレガに関するすべての情報が入手できます。ダイレクトショッピングからドライバーのダウンロードまで、便利なサービスも満載で、何でもおまかせのホームページです。

■ corega Net-Newsを購読しませんか？
http://www.corega.co.jp/inter/news/news.htm
corega Net-Newsは、コレガ社がお届けするメール配信サービスです。新製品情報やキャンペーン、プレゼント情報など、耳よりなニュースをお届けします。ホームページのアップデート情報もお知らせしますので大変便利です。
上記のアドレスでどなたでもご登録いただけますので、是非、ご登録ください。

調査依頼書のご記入のお願い

調査依頼書は、お客様のご使用環境で発生した様々な障害の原因を突き止めるためにご記入いただくものです。障害を解決するためにも以下の点にそって、十分な情報をお知らせください。記入用紙で書き切れない場合には、別途プリントアウトなどを添付してください。

ハードウェアとソフトウェア

* 本アダプター上に貼られたラベルに記入されている下記のシリアル番号(S/N)、製品リビジョンコード(Rev) を調査依頼書に記入して下さい。
  (例)

* ご使用になっているソフトウェアの種類／バージョン（Ver.）／シリアル番号を記入してください。それらは、ドライバーディスクのラベル上に記入されています。
* 他社のインターフェースボードやユーティリティをご使用の場合は全てご記入下さい。
* 接続しているサーバーの機種とその環境も可能な限りご記入下さい。

お問い合わせ内容について

* どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかを出来る限り具体的に（再現できるように）記入して下さい。
* エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容のプリントアウトしたものなどを添付してください。
* 障害などが発生する場合には、本アダプターと併用されているユーティリティや、アプリケーションの処理内容もご記入下さい。

ネットワーク構成について

* ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。
* 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをご記入ください。

システムレポート添付のお願い

お問い合わせの際には可能な限り、システムレポート（お使いのコンピュータの詳細情報をOSが自動作成するレポート）を出力の上、「調査依頼書」に添付いただきますようお願いいたします。システムレポートを出力する手順は以下の通りです。

1. Windows95

(1) コントロールパネルから「システム」を起動し「デバイスマネージャ」タブを表示します。
(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
(3) 「レポートの種類」では「すべてのデバイスとシステムの概要(A)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

2. Windows NT Ver.3.51

(1) 「プログラムマネージャ」→「管理ツール」と進み、「Windows NT 診断プログラム」アイコンをダブルクリックして起動します。
(2) 「ファイル(F)」メニューの「レポートの印刷(P)...」コマンドを選択します。
(3) 「レポートオプションの印刷」オプションでは「すべてレポートする(R)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

3. Windows NT Ver.4.0

(1) 「スタート」→「プログラム」→「管理ツール（共通）」→「Windows NT 診断プログラム」と進み、「Windows NT 診断プログラム」を起動します。
(2) 「印刷(N)...」ボタンをクリックします。
(3) 「レポートの作成」が表示されます。各オプションについては、「範囲」は「すべてのタブ(A)」を、「詳細レベル」は「完全(M)」を選択して下さい。以後、画面の指示にしたがってください。

システムレポートの出力例（Windows95の場合）

ｼｽﾃﾑ ﾘｿｰｽ ﾚﾎﾟｰﾄ　- ﾍﾟｰｼﾞ：1

********** ｼｽﾃﾑの概要 **********

Windows ﾊﾞｰｼﾞｮﾝ ： 4.00.950
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ名： 不明
CPU の種類： Pentium
ｼｽﾃﾑ ﾊﾞｽの種類： ISA
BIOS 名： Phoenix
BIOS の日付： 01/08/97
BIOS のﾊﾞｰｼﾞｮﾝ： Phoenix NoteBIOS Version 4.05
ｺﾝﾋﾟｭｰﾀの種類： IBM PC/AT
数値ｺﾌﾟﾛｾｯｻ： Not Present
登録ｵｰﾅｰ：ＸＸＸＸＸＸ
登録会社：ＸＸＸＸＸＸ

********** IRQの概要 **********

IRQ の使用 ：
　00 - ｼｽﾃﾑﾀｲﾏｰ
　01 - 106 日本語 （A01） ｷｰﾎﾞｰﾄﾞ （Ctrl+英数）
　02 - ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾐﾝｸﾞ可能な割り込みｺﾝﾄﾛｰﾗ
　03 - 通信ﾎﾟｰﾄ （COM2）
　04 - 通信ﾎﾟｰﾄ （COM1）
　05 - ES1878 Plug and Play AutoDrive
　06 - ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ ﾌﾛｯﾋﾟｰﾃﾞｨｽｸ ｺﾝﾄﾛｰﾗ
　07 - ﾌﾟﾘﾝﾀ ﾎﾟｰﾄ （LPT1）
　08 - ｼｽﾃﾑ CMOS/ﾘｱﾙ ﾀｲﾑ ｸﾛｯｸ
　10 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
　10 - PCI ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ用 IRQ ﾎﾙﾀﾞｰ
　11 - PCI ｽﾃｱﾘﾝｸﾞ用 IRQ ﾎﾙﾀﾞｰ
　11 - corega Ether PCC-T
　11 - Texas Instruments PCI-1130 CardBus Controller
　　PS/2 ﾎﾟｰﾄ ﾏｳｽ

調査依頼書(corega Ether PCC-T 1/2)

年　月　日

一般事項

1. 御社名：
   部署名：　　ご担当者：
   ご連絡先住所：〒

   TEL:　(　　)　　FAX:　(　　)
2. 購入先：　　購入年月日：
   購入先担当者：　　実購入先(TEL):　(　　)

ハードウェアとソフトウェア

1. ご使用のハードウェア機種（製品名)、シリアル番号、リビジョン

   製品名：corega _____

   S/N _____ Rev___

   ドライバディスクのバージョン Ver. _____ pl ____

2. ご使用のパソコン機種と併用している他メーカーの拡張アダプタ (ボード)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：
   拡張アダプタのメーカー名／機種：

3. ご使用のサーバー機種 (UNIX、NetWare、Windows NT など)
   パソコンのメーカー名／機種：
   OS とバージョン：

お問い合わせ内容

□別紙あり　□別紙なし
□設置中に起こっている障害　□設置後、運用中に起こっている障害

調査依頼書(corega Ether PCC-T 2/2)

年　月　日

ネットワーク構成

□別紙あり □別紙なし
簡単なもので結構ですからご記入をお願いします。

おことわり

- 本書は、株式会社コレガが作成したもので、全ての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
- 予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
- 改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。
- 本装置の内容またはその仕様により発生した損害については、いかなる責任も負いかねますのでご了承ください。

©1997-98 株式会社コレガ

coregaは、株式会社コレガの商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
Windows、MS-DOSは、米国Microsoft Corporationの登録商標です。

1997年09月	Ver. 1.0 pl 0	1st release
1998年03月31日	Ver. 1.1 pl 0	「訂正・重要」の情報を反映した。
1998年12月	Ver. 1.2 pl 0	「付録C　ネットワークの設定」などを追加

製品保証規定

■この製品保証規定は、製品保証書に明記した期間内において、取り扱い説明書などにしたがった正常な使用をしていたにもかかわらず故障が発生した場合に、無償修理をお約束するものです。

■ドライバーディスクおよびメディアケーブルに関しては、3か月間の無償保証とさせていただきます。（PCカード本体に関しては、1年間の無償保証です。）

■保証期間内の無償修理は、故障製品を弊社までお送りいただき、修理完了品または代替品をお客様に返送することとします。表面の製品保証書に記載された「製品保証に関するお問い合わせ先」まで故障製品を送付してください。送料はそれぞれ送付元負担とさせていただきます。

■保証期間内であっても次の項目に該当する場合は、無償修理の適用外とさせていただきます。（ただし、無償修理の適用外であっても有料での修理または代替品への交換・サービスはご利用いただけます。）

1. 使用上の誤り、または不当な修理や改造によって生じた故障および損傷
2. お買い上げ後の輸送、移動、落下などによって生じた故障および損傷
3. 火災、地震、水害、落雷、その他の天変地異、公害、塩害、異常電圧などの外部要因によって生じた故障および損傷
4. 車両、船舶などに搭載されたことによって生じた故障および損傷
5. 消耗品の交換（バックアップ電池など）
6. 製品保証書の提示がない場合
7. 製品保証書の所定事項に記入がない場合、または字句を不当に書き換えられた場合

■修理によって交換された代替品、不良部品の所有権は弊社に帰属するものとします。

■製品保証規定は、本製品についてのみ無償修理をお約束するもので、本製品の故障または使用によるその他の損害については、弊社はその責を一切負わないものとします。

■製品保証書は、日本国内のみで有効です。

■製品保証書は再発行いたしませんので紛失しないように大切に保管してください。

■本製品添付のドライバーソフトウェアが他社の提供するハードウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は、行いません。

■本ハードウェアが他社の提供するソフトウェアまたは、アプリケーション・ソフトと共有できるという動作保証および、使用によるその他の損害についての保証は行いません。

製品保証書（1年保証）

この製品保証書は、株式会社コレガが定める製品保証規定（裏面）に基づき、製品の無償修理をお約束するものです。

製 品 名　corega Ether PCC-T

シリアル番号
（S/N）

ご購入日

製品保証に関するお問い合わせ先

coregaサポートセンター
〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜1-19-20
TEL：045-476-6268　FAX：045-476-6294
受け付け時間：10:00～12:00/13:00～17:00
月～金（祝・祭日を除く）

販売店様印

※ 製品名、シリアル番号、ご購入日をご記入ください。